

概説

本年度ニ於ケル加奈陀ノ政情ハ平凡ニ終始セリ議會ハ二月七日開會セルモ「キングス、スピート」ノ内容ハ論議ヲ惹起スヘキ事項ヲ有セス從テ之カ討議ニ於テ首相ハ通商及産業ノ獎勵方針ヲ力説スルニ止リ議會開期カ六月迄繼續セルモ其主要討議ハ建設事業費ノ承認ニ關スルニ過キス五月米國ノ關稅增加聲明ハ加奈陀ノ通商ニ甚大ナル影響アル關係上政府反對黨々首「ベネット」等ノ對米反對運動等熾烈ナル論議ヲ見タリ

外交問題ニ就テハ三月米國沿岸警備船カ酒類密輸船トシテ加奈陀「スクーター」「アイム、アロン」(the 'Im Alone) 號ヲ擊沈セル事件ニ關シ兩國外交關係ハ相當緊張セルモ其後兩國ハ該事件カ領海外追攝權等ノ問題ヲ含ムニ鑑ミ其解決ヲ仲裁ニ附スルニ決シ落着スルニ至レリ

本年度ニ於ケル麥ノ收穫ハ一般ニ不良ニシテ英國ヨリ渡來セル農業労働者ハ大部分土着セル爲冬期ノ接近ニ伴ヒ收麥ノ中心地タル「ウイニベック」其他平原地方ニ於テ失業問題ニ關聯シ愁訴ヲ生ムニ至レリ

尙秋季ニ於テ「マクドナルド」及「トーマス」ノ訪問行ハレ政府ト重要ナル會見アリタリ

第二款 内政關係

第一項 議會開院式ニ於ケル「キングス、スピート」

「キングス、スピート」要旨

二月七日議會開院式ニ於ケル「キングス、スピート」要旨左ノ如シ

- (イ) 過去一ケ年間ニ於ケル經濟上ノ繁榮ハ加奈陀史上未タ會テ見サル所ニシテ農業及各種重要産業ノ産額並外國貿易等ハ何レモ過去ノ記録ヲ破レリ
- (ロ) 帝國內及對外的事項ノ論議ヲ直接人的接觸ニ依リ爲サントスル施設ハ前期議會開會以來顯著ナル發展ヲ見タリ即チ英國「ハイ、コムミツショナー」ハ昨年九月中着任シ日本公使館ハ七月中佛國公使館ハ十一月中夫々「オッタワ」ニ設置セラレ又在巴里加奈陀公使館ハ九月末開設セラレ在東京加奈陀公使館ハ早急設置ノ爲目下手續中ナリ
- (ハ) 今期議會ニハ選舉法、會社法、漁業法、不戰條約等ノ提出アルヘシ

第二項 英國國璽尙書「トーマス」ノ加奈陀訪問

「トーマス」ノ訪問

國璽尙書「トーマス」ハ八月九日倫敦出發加奈陀訪問ノ途ニツケリ其ノ目的ハ英國失業問題ノ緩和並通商ノ増進ヲ講究スルニアリシカ「トーマス」ハ「オッタワ」ニ於テ加奈陀首相其他ノ閣僚ト會商シ九月末歸英セリ (註)

(註) 第一章第五節第二款第三項(八)

第三項 英國首相「マクドナルド」ノ加奈陀訪問

「マクドナルド」ノ訪問

軍備縮少問題ニ關シ「フーヅー」大統領ト親シク意見交換ノ爲渡米シタル英國首相「マクドナルド」ハ歸還ノ途次十月十五日「ナイアガラ」ヨリ加奈陀ニ入り「トロント」、「オタワ」、「モントリオール」、「サグネー」地方「シクティミ」ヲ經テ二十四日「クエベック」市ニ赴キ二十五日同市ヨリ「ダッチェス、オプ、ヨーク」號ニ乗船歸英セリ

(一) 「オッタワ」ニ於ケル演說

「オッタワ」ニ於ケル歡迎晚餐會

十月十七日首都ニ於テ加奈陀政府主催ノ歡迎晚餐會席上爲セル「マクドナルド」首相ノ演說ハ同首相ノ加奈陀ニ於ケル代表的演說トシテ且加奈陀國民ニ對スル同首相ノ「メッセーヂ」トシテ一般ヨリ多大ノ興味ヲ以テ期待セラレタリ

右晚餐會席上司會者タル「キング」首相 (Mackenzie King) ハ乾杯ノ辭ニ於テ

首相「キング」ノ辭

「マクドナルド」首相トハ今ヲ去ル三十二年前英科學協會ノ年次大會カ「トロント」大學ニ於テ開催セラレタル際初メテ面識ヲ得次テ一八九九年ヨリ一九〇〇年ノ期間ニ於テ倫敦ニ留學シ労働問題ヲ研究中氏ノ紹介ニ依リ労働問題ニ關係アル幾多ノ人士就中「シドニー、ウエップ」氏夫妻其他多數ノ「フエビアン」協會員ト相識ルヲ得爾來之等諸氏トノ交友ハ年ト共ニ濃厚ヲ加ヘ來レルカ運命ハ奇シクモ今日遂ニ加奈陀首相トシテ夫々英國ノ首相及自治領大臣タル兩氏ト

相關係スルニ至ラシメタリ

「マクドナルド」氏カ首相ノ印綬ヲ佩ヒテ以來國際的親善及世界平和殊ニ英米間ノ相互信賴増進ノ爲ニ盡サレタル努力ニ對シ加奈陀國民ハ滿腔ノ同情ヲ以テ之ヲ眺メ居レリ這般英國總選舉ニ於テ労働黨カ贏チ得タル勝利ニ關シテハ余カ之ニ言及スルコトヲ「マクドナルド」首相ハ期待シ居ラレサルヘシ蓋シ何レノ政黨ヲ信任スルヤハ一ニ英國選舉民ノ決定ニ委スヘキ所ナレハナリ現時ニ於ケル加奈陀政府ノ義務ハ英國ニ於テ何レノ政黨カ内閣ヲ組織スルヲ問ハス英國政府ノ努力カ相互ニ利害關係アル事項及全英聯邦全般ニ關係アル事項ニ關シテ加奈陀政府トノ緊急且完全ナル協力ニ向ケラルヘキヲ確ムルニ在リ世界平和及親善増進ノ機關トシテハ今日國際聯盟ヨリ重要ナルモノナシ此ノ機關ニ依リ相互信賴ト親善確立ノ爲缺クヘカラサル個人的接觸ヲ會議ニ依リテ達成センカ爲ニ年々多數國家ノ代表者ハ相會合シ居レリ又「グレー」外相ハ一九一六年五月二十四日英國下院ニ於テ今次ノ大戰ハ吾人ノ提唱スル會議ノ開催ニ依リ避ケ得ラルヘキヲ主張シタルカ遂ニ會議ノ開催ヲ見ルニ至ラサリシハ之親善關係カ存在セサリシニ依ルト述ヘタルカ親善ノ存在カ疑ハシキ場合會議ハ開催セラレス英國首相ト米國大統領トハ會議ニ依リテ如何ニ國家間ノ親善カ増進セラレ得ルカノ一大實例ヲ世界ニ示シタルモノナルト共ニ「マ

クドナルド」首相ノ華府訪問ハ右訪問ニ依リ既ニ達成セラレタル所以上更ニ何物カラ齎ラスヘシ明年一月開催セラルヘキ五國海軍會議ハ即チ華府ニ於ケル首相及大統領間會談ノ結果ニ外ナラス世界平和確立ノ爲メニハ昨年不戰條約成立シ又國際聯盟規約ノ下ニ國際司法裁判所設立セラレ居レリサレト英米兩國間ニハ米大陸ニ關シ既ニ百二十五年前ヨリ一ノ不戰條約存在シ居レリ「ラッシユ、バゴット」條約ノ名ヲ以テ呼ハレ居ルモノ即チ之ニシテ右條約ノ存在ニ依リ米國及吾人ハ一世紀以上ニ亘リ三四千哩ニ及フ米加國境ニ軍備ヲ施設スルノ負擔ヨリ免レ來レリ余ハ曩ニ國際司法裁判所ニ言及シタルカ米加間ニハ一九〇九年英米間ニ締結セラレタル米加國境水條約ノ規定ニ依リ一九一一年國際合同委員會設立セラレ爾來右委員會ハ米加間ニ於ケル國境湖川其他ニ關スル紛議ヲ處理シ來レリ余ハ英國首相ニ對シ米加間ニ於ケル紛議ノ調停機關トシテ有效且有益ニ利用セラレ來リタル制度ヲ英帝國全般及米國間ノ凡ユル紛議ニ適用擴張シ得サルヤ「ラッシユ、バゴット」條約及國際合同委員會ノ制度ヲ全世界ニ及ホシ得サルヤヲ問ハントスサレト余ハ此ノ種質問ノ回答ヲ爲スニ當リテハ充分ナル勸考ヲ要シ且性質上閣議及會議ニ附議スヘキモノナルヲ知ルカ故ニ「マクドナルド」首相ヨリ今夕即答ヲ求メントスルモノニ非ス」

「ベネット」
トノ演説

トノ趣旨ヲ述ヘ保守黨首領「ベネット」(R. B. Bennett)亦一場ノ演説ヲ爲シ

「人類ノ歴史ハ戰爭ノ歴史ニシテ未タ曾テ平和ノ歴史ニ非ラサリキ過去ニ於テモ幾度カ平和樹立ノ努力カ爲サレタルモ常ニ之ヲ語ルニ止マレリ然レトモ這般ノ大戰ハ世人ヲシテ戰爭ヲ消滅セシムルカ爲ニ何等カノ手段ヲ講セサルヘカラサルヲ確信セシムルニ至レリ軍備ノ存スル限リ戰爭ハ消滅セス「マクドナルド」首相ハ軍備縮少ノ爲メニ活動セラレツアルカ軍備ノ縮少ナクシテハ恒久ノ平和ハ求メラレサルヘク此ノ點ニ於テ「マクドナルド」首相ハ前代ニ於ケル平和ノ使徒カ歩ミタル道トハ異ナリ最モ良ク眞ノ效果ヲ實現シ得ヘキ道ヲ辿リツツアルモノナルモ「デモクラシー」ノ確保ハ世界ノ秩序ヲ維持スルカ爲ニ適當ナル警察力ヲ維持スルニ在リ貿易保護ノ爲ニハ充分ナル警察力ヲ維持セサルヘカラス「マクドナルド」首相ハ實際的政治家タルト共ニ高キ理想家ナリ「マクドナルド」首相カ直面セサルヘカラサル諸問題ニ直面スルノ勇氣ヲ有スルコトハ決シテ小事ニ非ス加奈陀國民ハ全力ヲ擧ケテ彼ノ偉大ナル努力ヲ支持セサルヘカラス平和問題ニ對スル「マクドナルド」首相ノ努力ニ關シ「キング」首相ノ述ヘラレタル言ハ余ノ衷心ヨリ賛成スル所ナリ」

トノ趣旨ヲ述ヘ次テ「マクドナルド」首相ハ答辭ニ於テ

「マクドナルド」
ノ演説

「余ハ政敵ヨリ夢想家ト稱セララルモ余ハ夢想家ノ名ヲ甘受スヘシ凡ソ世界ノ大事業ハ其ノ時代ニ於テハ夢想家ト稱セラレタル人々ノ手ニ依リテ成就セラレタリ吾人ハ夢想スルト共ニ覺メタル時ニ於テ夢想ノ實現ニ著手スヘシ吾人ハ一ノ家族ニシテ時々吾人ノ間ニ些少ノ紛議發生スルモ之ハ要スルニ一家内ノ紛議ナリ吾人ハ過般「ゼネバ」ニ於テ所謂選擇條項ニ對スル署名ヲ爲スニ當リ全英聯邦ハ一ノ家族ニシテ吾人ノ間ニ發生シタル紛議ハ家族裁判所及家族内ノ手配ニ依リテ解決スヘキ旨ヲ宣言シタルカ余ハ時ニ吾人ノ用フル輕卒ナル言辭カ如何ニ容易ニ吾人ノ間ニ紛議ヲ醸成スヘキカヲ考ヘ戰慄スルコトアリ本日「キング」首相トノ極メテ愉快ナル會談中ニ於テモ同首相ハ余カ習慣的ニ用ヒ居ル或ル種ノ言辭ヲ今後使用セサル様忠告セラレタルカ余及余ノ同僚カ不用意ニ如何ナル言辭ヲ用ヒタリトスルモ余ハ吾人カ共通ノ傳統ニ對スル共通ノ尊敬及共通ノ人種ニ於ケル共通ノ衿持並吾人ノ團體ヲ標徴スル一ノ皇帝ニ對スル共通ノ忠順ヲ以テ結合維持セラルル此ノ自治國民團體ヲ了解シ尊重シ居ルモノナルヲ述ヘントス假令不用意ニ「吾カ自治領」若クハ「吾カ植民地」ナル語ヲ使用シタリトスルモ決シテ他意アルモノニ非ス英國政府ハ常ニ其ノ精神ニ於テハ帝國ノ構成ヲ尊重スヘシ余ノ渡米目的ハ取極締結ノ爲メニ非スシテ親善ノ樹立増進ニ在リ余ハ歴史的大問題ノ論議ヲ可能ナラシムル狀況ヲ作り出サ

ンカ爲ニ渡米シタルモノニシテ右論議ノ結果トシテ取極ノ成立スルコトヲ希望スルト共ニ之カ成立ハ殆ト確實ナリ假ノ取極若クハ紙上ノ取極ナルモノハ何等ノ價值ヲ有セス世界ノ平和維持ニ關スル取極ハ先ツ締約國タルヘキ國民間ニ共通ノ信任樹立セラレタル後ニ締結セラレサルヘカラス信任ヲ包藏セサル取極ハ一片ノ反古タルニ過キス吾人ハ不戰條約ニ署名シタルカ右署名ヲシテ單ナル署名ニ終ラシムヘキヤ將又之ヲ國家的體面ノ問題タラシムヘキヤ余ハ後者ノ見解ヲ採リ右署名ハ國家的名譽ニ關スルモノト爲シ之ヲシテ價值アラシムルカ爲ニ吾人ハ犧牲ヲ忍ブノ覺悟アリ吾人カ現ニ爲シツツアル所ノモノハ吾人ノ國家的名譽ヲ實現セントスルモノニ外ナラス吾人カ將ニ直面セサルヘカラサル彼ノ重大問題ハ軍國主義ト平和主義ノ中間ニ横ハル過渡的時代ノ問題ナリ若シ吾人ニシテ單ナル「ペン」ノ一作用ニ依リ一般的軍備縮少ヲ決定シタリトスルモ之ニ依リ果シテ世界ヲ利シ得ヘキヤ吾人ハ徐ニ世界ヲ指導シテ困難ヲ除去シ之ニ信任ノ念ヲ醸成セシメサルヘカラス此ノ過渡期ニ於テ吾人ノ前ニ横ハリ居ル問題ハ之カ變更ヲ希望シ居ル現狀ヲ良ク把握シ且之カ實現ヲ希望シ居ル將來ノ狀況ニ面シ如何ニシテ信任ト安心ノ彼方ニ到達スルカニ在リ而シテ吾人ハ吾人ノ爲シ得ル最善ノ方策如何ニ思フ致ス時之カ最善ノ實例ヲ加奈陀ノ歴史中ニ求ムルヲ得ヘシ余ハ今後數ヶ月間交渉ノ繼續セララル間「キング」首相

ノ述ヘラレタル言ヲ忘レサルヘシ今夏吾人及米國ノ間ニ本問題カ論議セラレタル際何等決定的結論ヲ爲スニ致ラサリシハ世界ハ米國及吾人ノ世界ニ非サルヲ以テナリ若シ世界ニシテ米國ト吾人ノ世界タランニハ吾人ハ去ル六月末既ニ取極ヲ締結シタルヘキモ吾人ハ吾人ノ意思ヲ他ニ強制スルヲ欲セス之平和ヲ得ルノ道ニ非サレハナリサレト六月ニ開始シタル交渉ニ於テ吾人ハ五國會議ノ開催ヲ決定シタリ而シテ右會議ニ招請セラレタル各國ハ既ニ之ニ參加スヘキ旨回答シ來レリ余ハ倫敦ニ歸還シ吾人及米國間ノ會談ニ於テ爲シタルト同様胸襟ヲ開キテ佛伊日三國ト會談ヲ開始スヘク余ハ爾餘ノ世界カ常ニ吾人ヲ支持シ之等非公式會談ノ結果トシテ文明史上未タ會テ見サル大規模且實質的ナル世界平和ノ進展ヲ齎スヘキ取極ノ來春成立スヘキヲ信望スルモノナリ又之ニ依リ從來ノ歴史的問題及紛争ハ茲ニ新タナル意義ヲ有スルニ至ルヘク戰爭消滅スルニ至ラハ封鎖亦ナカラン此過渡期ニ於テハ古キ歴史的問題ノ或ルモノニ對シ論議ノ必要アルヘキモ吾人ハ之ヲ論議スルノ用意アリ

ト述ヘタリ

(二) 訪問ノ目的

「マクドナルド」首相ノ「オッタワ」滞在中ニ於ケル英加兩首相間協議ノ内容ニ關シ曩ニ「マクドナ

訪問目的
ニ關スル
諸説

ルド」首相滯米中十月十一日加奈陀諸新聞紙ハ「マクドナルド」首相ノ加奈陀訪問ニ際シ英加兩首相間ニ「ハリファックス」ノ軍備撤廢問題カ論議セラルヘク右軍備ノ撤廢ハ西印度ニ於ケル英國海軍根據地ノ撤廢ト共ニ英國ノ對米親善表示トシテ爲サルモノニシテ其他兩首相間ニハ英國ニ於ケル失業問題、移民問題並英帝國經濟會議ニ關スル問題等協議セラルヘシトノ紐育發電報ヲ掲載シ同十一日及十二日ノ加奈陀諸新聞紙ハ「加奈陀政府當局ハ「ハリファックス」ノ軍備撤廢問題ニ關シテハ何等ノ情報ヲ有シ居ラス且右ニ關シ何等ノ意見ヲ發表スルコトヲ避ケ居ルモ陸軍當局ハ「ハリファックス」ノ軍備ハ加奈陀ノ軍備ニシテ英國政府ハ加奈陀ノ軍事作用ニ對シ何等ノ權限ヲ有シ居ラス且「ハリファックス」ノ軍備ハ防禦的施設ニシテ攻撃的施設ニ非サルヲ以テ米國其他ノ國ニ對シ何等脅威ヲ與ヘ居ルモノニアラス又若シ之ヲ撤廢スルニ至ル時ハ加奈陀ハ大西洋岸ニ戰時ニ於ケル加奈陀商船ノ避難港ヲ有セサルニ至ルヘキヲ指摘シタル」旨報道シタルカ「キング」首相ハ「マクドナルド」首相ノ「オッタワ」離去ニ際シ新聞記者ノ質問ニ答ヘテ余ハ英加間ニ於ケル多數ノ共通利害關係事項ニ關シ英首相ト會談ヲ遂ケタルカ右會談ハ甚タ愉快ニシテ最モ満足スヘキモノナリト云フ以上ニ詳細ナル内容ヲ述フルヲ得スト語リタル外政府ハ英加兩首相間ニ行ハレタル協議ニ關シ何等發表スル所ナシ

「キング」
首相ノ談
話

(三) 訪問ニ對スル輿論

「マクドナルド」首相ノ加奈陀訪問ニ際シ加奈陀ノ新聞紙ハ一般ニ同首相ノ訪問ヲ歡迎シ且同首相カ卑賤ヨリ身ヲ起シテ遂ニ英國首相ノ印授ヲ佩フルニ至リ多クノ卓越セル才幹ト資格トヲ兼備シ居ルト共ニ誠心誠意ノ人物ナルヲ稱贊スルノ社説ヲ掲クルト共ニ或ハ同首相ノ訪加ハ英加間親善ノ絆ヲ更ニ強ムルモノナリト爲シ或ハ同首相ノ理想カ果シテ實現セラレ得ヘキヤ否ヤニ關シテハ尙疑ヲ懷ク者アルモ同首相カ其理想ノ實現ニ誠心誠意努力シツツアルモノナルコトハ何人モ之ヲ疑ハサル所ナリト論シ或ハ亦同首相ノ訪米ニ對スル米國內ノ反響ハ最モ満足ナルモノナリシカ同首相ハ尙今後軍備縮少ニ關スル佛伊日各國政治家ノ信任ヲ得ルノ要アリサレト同首相ハ米國ニ於テ得タル信任ト彼ノ背後ニ在ル加奈陀其他英帝國内諸國家ノ支持ヲ確信シテ進ムヲ得ヘシト論シタリ

第四項 内閣員ノ變動

藏相等更迭

藏相「ロップ」ハ十一月十一日「トロント」市ニ於テ客死セル爲同二十六日鐵道運河相「ダンニング」(Charles A. Dunning) 藏相ヲ兼任セリ

次テ十二月三十日藏相兼鐵道運河相「ダンニング」ハ鐵道運河相ノ兼任ヲ免セラレ「クレラー」(Thomas Alexander Cremer) 新ニ鐵道運河相ニ任セラレ移植民相「フォーク」(Robert Forke) 辭任

シ内相「スチュアート」(Charles Stewart) 移植民相ニ兼任セラレタリ内相「スチュアート」ハ農相「マザーウェル」(William R. Motherwell) 病氣引籠中其ノ代理ヲ命セラレ移植民相ヲ辭シタル「フォーク」ハ上院議員ニ任命セラレタリ
右變動ハ進歩黨ヲ代表シテ閣員ニ列セル「フォーク」ニ代リ同黨代表トシテ「クレラー」ノ入閣ヲ見タル結果トス

第三款 對 外 關 係

第一項 英帝國經濟會議開催問題

米國ニ於ケル關稅率改正問題ニ關聯シ野黨首領「ベネット」ノ如キハ今春以來各地ニ於ケル遊説ニ於テ米國新關稅政策ノ對抗策トシテ英帝國内諸國家間ノ貿易促進策協議ノ爲英帝國經濟會議ヲ開催スルノ緊要ナルヲ唱道シ來リタルカ諸新聞紙ハ七月十日英國藏相「スノーデン」カ英國下院ニ於テ英國政府ハ既ニ帝國内諸政府ニ對シ帝國經濟會議開催ノ爲措置ヲ採リタル旨發表シタル旨又九月六日ニハ倫敦「デリー」テレグラフ「紙カ明年中頃「オッタワ」ニ於テ帝國經濟會議開催サルヘキ旨ノ倫敦發電報ヲ掲載シタルカ加奈陀政府ハ本問題ニ關シ未タ何等發表スル所ナカリキ

第二項 外交使節交換問題

會議開催
論及諸報

加奈陀俱樂部協會（加奈陀各地ニ設立セラレ居ル加奈陀俱樂部ノ聯合會）刊行ニ係ル「カネーデー
アン、ネーション」誌第二卷第一號（三―四月號）ニ首相「キング」ハ在外加奈陀公使館ト題ス
ル論文ヲ寄稿シタルカ該論文ノ要領左ノ如シ

(イ) 英國駐在加奈陀「ハイ、コムミッシュナー」

私見ニ依レハ凡ソ外交ノ必要ナルハ國ヲ異ニスル諸政府間ニ於ケルト同一ノ皇帝ヲ戴ク諸政府間
ニ於ケルトニ依リ差異アルモノニアラス只異ナル二國間ニアリテハ代表者ハ一國元首ヨリ他國元
首ニ對シ派遣セラルルニ反シ英帝國內ニアリテハ一政府ヨリ他政府ニ對シテ派遣セラルルノ差ニ
過キヌ又皇帝ハ英帝國內各政府ノ元首ナルヲ以テ帝國內一地方ノ政府ヨリ他地方ノ政府ニ派遣セ
ラレタル代表者ハ之レヲ派遣シタル地方ノ利益ニ關シ皇帝ヲ代表スルモノト云フヲ得ヘク
「ハイ、コムミッシュナー」ノ地位ハ外交官ノ權利ト權能トヲ有スルモノトス

(ロ) 加奈陀駐在英國「ハイ、コムミッシュナー」

英國政府カ加奈陀ニ「ハイ、コムミッシュナー」ヲ派遣スルニ至リタル經緯ヲ述フルニ當リテハ先
ツ總督ノ地位ノ變遷ヲ述フルヲ要ス當初、總督ハ皇帝ノ代表者タルト共ニ英本國政府ノ代表者タ
リシノミナラス一八六七年加奈陀聯邦成立當時ニアリテハ總督ハ皇帝ノ代表者ト言ハンヨリハ寧

ロ英本國政府ノ代表者タルノ觀アリタルカ加奈陀自治ノ發達ニ伴ヒ總督ハ漸次皇帝ノミノ代表者
トナルニ至リ今ヤ加奈陀ニ於テハ眞ノ意味ニ於テ皇帝ノ個人的代表者トナレリ而モ加奈陀ニ於ケ
ル英國ノ利益ハ益々増大スルニ從ヒ英加兩政府間ノ協力ヲ要スルコト愈々切ナル時ニ當リ英國政
府ハ加奈陀ニ於ケル代表者ヲ失フニ至リタルニ鑑ミ同政府ハ昨秋加奈陀ニ常駐的代表者トシテ
「ハイ、コムミッシュナー」ヲ派遣スルコトトナリ茲ニ皇帝ノ代表者ト英國政府ノ代表者トノ差別ハ
正式ニ承認セラルルニ至レリ余カ英國「ハイ、コムミッシュナー」ノ加奈陀駐在ヲ重要視スル所以
ヲ一言ニシテ述フレハ英國政府ノ「ハイ、コムミッシュナー」任命ハ英加兩政府間ノ有效ナル協議
及協力ヲ促進スルノミナラス更ニ皇帝ヲシテ帝國內諸政府間ニ發生スルコトアルヘキ紛議ノ渦中
ニ投セサラシムル爲ニ最モ必要ナル手段タルコトトス

(ハ) 米佛日三國トノ公使交換

吾人カ海外ノ外國政府ト折衝スルノ要ハ戰前ニ於テ比較的少ナカリシカ米國ニ關シテハ「ブライ
ス」卿ノ駐米大使時代ニ於テモ在米英國大使館ニ於ケル事務ノ過半ハ加奈陀ニ關スルモノニシテ加
奈陀閣僚ハ時々「ワシントン」ニ出張シテ米國當局ト實際的交渉ノ任ニ當リタルカ更ニ戰時中ニ於
テハ重要問題ノ交渉ヲ速ニ措置スルノ必要アリタル爲メ加奈陀政府ハ一九一八年在「ワシントン」

加奈陀軍事委員ヲ設クルニ至リ右委員ハ實際上外交使節トシテ加奈陀政府ヲ代表シテ米國當局トノ交渉ニ從事シタリ佛國ニ對シテモ亦戰時中加奈陀閣僚ハ巴里ニ出張シテ直接交渉ノ任ニ當リタルカ斯克シテ戰時中加奈陀政府カ米佛兩國當局ト直接實際的交渉ヲ爲シタル慣行ハ戰爭ノ終局ト共ニ直ニ消滅スヘシト豫期スヘキモノニハ非サリシノミナラス平和條約ノ商議及調印ニ當リ加奈陀ハ全英聯邦内ノ一國家トシテ獨立ノ代表者ヲ送リ又國際聯盟ニ對シテモ獨立ノ代表者ヲ送ルノ權利ヲ主張シタリ次テ戰後ニ於テ新問題ノ發生止ム所無ク在米在佛英國大使館ノ關スル限リ兩館ハ無限ノ負擔ト責任トヲ負フコトナリ加奈陀ノ關スル限リ前顯直接交渉ヲ爲スノ慣行ヲ繼續スルヲ要シタルカ右慣行ハ遂ニ之等諸國ニ加奈陀ノ常駐的代表者ヲ置クノ權利ヲ醸成シタリ斯クシテ「ボーデン」首相ハ一九一九年巴里會議中既ニ英國首相及外相ト在米加奈陀公使ノ任命問題ヲ協議シ當時其衷心ヨリノ贊同ヲ得タル旨ヲ其後發表セリ一九二〇年「ボーデン」首相ノ辭職ト共ニ本問題ハ一時頓坐シタルモ現政府ハ一九二六年英帝國會議ノ開催ニ先チ米國ト公使交換ノ取極ヲ爲シ帝國會議開催當時ニ於テハ既ニ「マツセー」ヲ駐米加奈陀公使ニ任命スルノ準備完成セラレ居リタリ「ワシントン」ニ於テハ英帝國全體ニ關係アル問題若クハ加奈陀ニ關係スルト共ニ帝國ノ他ノ部分ニモ關係アル問題ニ關シテハ加奈陀公使及英國大使ハ協議スルモノニシテ若シ外國

首都ニ於テ帝國內諸政府ノ代表者間ニ意見ノ相異ヲ來スコトアルヘキヲ憂フル者アラハ夫ハ代表者カ公使タルト大使ノルトヲ問ハス何レモ各自政府ノ訓令ニ基キテ行動スルモノナルコトヲ忘レタルモノナリ帝國內諸政府間ニ見解ノ相異ノ發生シ得ヘキハ之レ帝國固有ノ性質ニ基クモノニシテ之等諸政府自身ノ間ニ於ケル協議ニ加ヘ外國首都ニ駐劄スル代表者間ニ協議ト協力トノ機會ヲ與フルコトハ却テ之等諸政府間ニ於ケル見解ノ相違ヲ最少限度ニ減少スルモノナリ又現政府カ佛國ニ加奈陀公使館ヲ設立センコトヲ欲シタル理由ハ過去數十年來佛國ニ於テ加奈陀ノ利益ヲ代表シ居リタル者ニ對シ外交官ノ地位ヲ與フルコト及英加兩政府カ共通ノ利害關係ヲ有スル事項ニ關シテ兩政府カ佛國ニ於テ有效ナル協議及協力ヲ爲スノ手段ヲ作ルコト竝在佛加奈陀公使館ヲシテ全世界ニ對シ加奈陀ノ今日アルヲ致セシ英佛兩民族ノ精神的結合ト其無窮ノ友情トノ表象タラシメタキコト之レナリ政府ハ前期議會開院式ニ於ケル「キングス、スピーチ」中ニ於テ佛國ト公使交換ノ取極成立セル旨發表セル際日本ニ關シテモ亦同様ノ發表ヲ爲セリ加奈陀ノ對東洋及日本關係カ益々重要トナリツツアルハ言フヲ要セス海ノ彼方ニハ多量ノ我カ商品ニ對シ未タ殆ト開拓セラレサル市場アリ然レトモ余カ今茲ニ述ヘントスルハ日本ニ於ケル市場ニ非スシテ市場其他一切ヲ包含スル日本ノ政府及國民ノ親善ナリ之ハ加奈陀ノ關スル限リ單ニ加奈陀ニ對シテノミナラス

英帝國全般ニ對シテ最モ肝要ナルモノナリ加奈陀カ對東洋關係ニ於テ直面セサルヘカラサル問題
中東洋人移民ノ問題ハ最モ重大ナルモノナルヘシ

第三項 本邦關係

(一) 首相ノ晚香坡ニ於ケル演說

首相「マケンジー、キング」ハ十月十四日晚香坡商業會議所主催ノ歡迎晚餐會ニ臨ミ「加奈陀ノ涉
外關係」ノ題下ニ大要左ノ如キ演說ヲナシタリ

代表者派
遺ノ要

「加奈陀ハ曩ニ英本國及佛國ニ政府代表者ヲ送レルカ漸次涉外事項ノ増加スルト共ニ新タニ一
省ヲ設ケ又日、米、佛各國トノ間ニ公使ヲ交換スルニ至レリ加奈陀ト日本トノ間ニハ貿易關係
ノ外重大ナル移民問題存シ此問題ハ性質上好意ヲ以テ解決スヘキ事項ニシテ此點ヨリ見ルモ兩
國カ直接代表者ヲ交換スルハ極メテ必要ナリ移民問題ニ關シテハ日本政府ト協議シ昨年中更ニ
日本移民ノ新規入國數ヲ「フライン、ポイント」迄制限スルノ協定ヲ見タリ」

(二) 新任駐日加奈陀公使ノ演說

「マーラー」
公使
ノ演說

六月二十七日日本邦駐劄加奈陀公使ニ任命セラレタル「マーラー」(Herbert Marlar)ハ八月二十六
日「バンクバー」市「ジャハン、ソサイテイ」主催ノ同公使招待午餐會ノ席上兩國關係ニ關シ其所

見ヲ披瀝シタリ

公使ハ劈頭其演說カ單ニ同席者ニ對スルニ止ラス廣ク江湖ニ告クルモノナリト前提シ兩國關係カ
公使交換ニ依リテ一新機軸ヲ劃スルニ至リタル所以ヲ縷說シ次テ其「ブリテイッシュ、コロムビア」
州内各地産業狀態視察ノ結果同州ノ産業カ日本トノ間ニ於ケル確固タル親交ヲ基礎トシテ始メテ
永續的發達ヲ爲シ得ヘキモノナルヲ痛感シタル旨ヲ語り同公使今回ノ使命ノ重ハナルハ言ヲ俟タ
スト雖モ公使自身トシテハ全然「白紙ニテ」日本ニ赴任スルモノナルコトヲ反覆説明シ以テ暗ニ
「ブリテイッシュ、コロムビア」州ニ於ケル排日思想ヲ支持スルカ如キコト無キ意味ヲ言外ニ表明シ次
テ兩國關係ノ基調ハ相互ノ信任ニ存シ之ヲ基礎トシテ兩者ノ貿易其他各般ノ關係カ進展スヘシト
唱ヘ更ニ「ブリテイッシュ、コロムビア」州ニ於テ問題トスヘキハ日本カ現ニ八千萬ノ人口ヲ養ヒ而
モ年ニ百萬ニ近キ人口増加アル點ニ鑑ミ同州特産延テハ加奈陀特産ノ日本ニ於ケル販路擴張ヲ畫
策スルニアリト述ヘ以テ同州人ニ對シ排日ノ愚ナル所以ト併セテ排日轉換ノ途ヲ述ヘ且公使ハ其
言說カ何等日本ニ對スル阿諛ニ非サル旨ヲ再三力說セリ

第三節 濠洲

第一款 概說

概説

國民黨及地方黨ノ聯立内閣ハ前年末ノ總選舉ニ於テ尙多數ノ與黨議員ヲ得タル結果一九二三年「ヒートズ」ノ後ヲ承ケ依然首相ノ地位ニアル「ブルース」ヲ首班トシテ存続シタルモ産業仲裁制度ノ改正問題ニ依リ惹起セル十月ノ總選舉ニ於テ大敗シ初メテ勞働黨内閣ノ生誕ヲ見タリ

勞働黨内閣ハ先ツ高率ノ保護關稅ヲ制定シテ失業ノ緣由タル巨額ノ輸入ヲ抑止スルト共ニ不足ニ終始スル收入ノ増加ヲ計レルカ此ノ關稅改正ハ國內ニ於テ又之ニヨリ多大ノ影響ヲ受クヘキ英國ニ於テ熾烈ナル批議ヲ生セリ更ニ新内閣ハ國防費ノ削減ヲ爲セル外移民補助事業ノ中止、土木事業ノ助成ヲ行ヒ以テ失業問題ノ解決ニ資スルト共ニ「ニー、サウス、ウェルズ」ニ於ケル炭坑爭議ノ處理ニ努力セリ

第二款 内政關係

第一項 聯邦産業仲裁法改正問題ト聯邦下院總選舉

(一) 聯邦産業仲裁法改正問題

濠洲ニ於ケル産業仲裁法ハ一九〇四年聯邦法(一州以上ニ關係スル産業爭議即聯邦的色彩ヲ有スルモノノ仲裁解決ヲ主眼トス)ト各州ノ立法ト併立施行セラレル結果兩者ノ權限重複シ仲裁法廷ノ判決統一ヲ缺ク爲ニ或ハ爭議解決ヲ遷延シ或ハ仲裁ノ效力ヲ殺クコト少ナカラス殊ニ各仲裁裁

制度ノ欠陥

改正ノ失敗

判所ニ於テ爭議解決ニ就キ裁定スル多數ノ雇傭條件ハ一産業ニ就テモ多岐ニシテ而カモ爭議ノ跡ヲ絶ツコトヲ得サル爲生産能率ハ低下シ國內産業ハ益々疲弊スルニ至レリ

從テ仲裁法統整ノ要ハ夙ニ一九一一年勞働黨「フィシャー」内閣當時ヨリ一九二六年迄四回ニ互リ改正ヲ齎シタルカ此等ノ改正ニ際シ産業爭議ヲ聯邦ノ掌裡ニ統一セントスル聯邦當局側ノ企圖ハ常ニ畫餅ニ歸シ産業ノ安定ニ有效ナル仲裁機關ヲ確定スルコトヲ得ス而モ近時勞働運動ニ過激分子加ハリ爭議ヲ直接行動ニ依リテ解決セントスル傾向濃厚トナルニ從ヒ強制力ヲ缺ク聯邦仲裁法ノ運用ニ益々困難ヲ加フルニ至レリ

(二) 「ブルース」聯立内閣ノ對策ト下院解散

「ブルース」「ページ」ノ國民、地方兩黨聯立内閣ハ曩ニ一九二六年聯邦ノ産業仲裁ニ關スル權限ノ擴張ヲ一般投票ニ問ヒタル結果之ヲ聯邦ニ統一スル計畫ハ失敗ニ了レルカ國內産業ノ安定ニハ仲裁權限ヲ單一ナル機關ノ下ニ置クヘキ必要アリ之カ爲ニハ(イ)各州側ヨリ聯邦ニ對シ其權限委讓ノ手續ヲ採ルカ然ラスンハ(ロ)聯邦産業仲裁法ヲ海運ノ如キ國內共通ノ産業ニ止メ其他ノ産業ニ對スル適用ヲ廢止シテ各州ノ權限ヲ統一セシムルカノ二途ノ一ヲ採ル要アリ茲ニ於テ本年五月先ツ各州首相ヲ首都ニ招集シテ前記(イ)案即仲裁裁判ニ關スル各州ノ權限ヲ聯邦ニ委讓スルノ手續

各州首相會議

ヲ執ランコトヲ懲過シタルモ其産業管理權ノ委讓ヲ肯セス爲ニ「ブルース」總理ハ(ロ)案即其仲裁法ヲ改正シ一般産業ニ對スル聯邦仲裁法廢止ノ方針ヲ聲明スルヤ勞働黨ハ固ヨリ國民黨内ニ於テモ「ヒューズ」前總理其他ハ之ヲ以テ聯邦産業仲裁法立法ノ主旨ヲ沒却スルモノトシテ反對氣勢ヲ揚ケ次テ八月十四日議會開會シ改正法案タル海運業法(Maritime Industry Bill)一法律ノ施行ニヨリ從來ノ聯邦仲裁法ヲ廢止シ新ニ海運關係ノミニ適用アル仲裁法ヲ制定セントス)ノ討議ニ入ルヤ與黨ノ「ヒューズ」等三議員ハ公然勞働黨ト共ニ政府ヲ攻撃スルニ至リ該法案ハ辛シテ第二議會ヲ通過シタルモ全院委員會ニ於テ「ヒューズ」ハ該法律ハ施行ニ先チ一般投票又ハ總選舉ヲ以テ輿論ニ問フヘシトスル修正案ヲ動議シ之カ可決ヲ見タル結果九月十二日下院ハ解散セリ

(三) 總選舉ノ結果

是ヨリ曩キ本法案ノ審議ニ先チ藏相ノ説明シタル豫算案ニハ國庫ノ歳入増加ヲ計ランカ爲所得稅、關稅、消費稅等ニ互ル各種増稅ヲ行ヒ又活動寫眞業者ノ所得ニ對スル興行稅新設セラレタルカ興行稅ニ對シ當業者ハ大規模ナル反對宣傳ヲ行ヒテ政府ノ財政政策ノ攻撃ニ努メ下院解散ト共ニ一層反對ノ氣勢ヲ高メタルヲ以テ這回ノ總選舉ハ仲裁法改正一個ノ問題ニ對スル民意ヲ問フモノナリトノ政府側宣傳ニモ拘ラス之カ爲政府側ハ難局ニ立ツニ至リ十月十二日總選舉ノ行ハレタル

結果總理「ブルース」以下落選シ左表ニ示スカ如ク政府側ノ敗北ニ終レリ

結果總理ノ	舊 下 院	新 下 院
國 民 黨 (Nationalist)	二九	一四
地 方 黨 (Country Party)	一三	一〇
勞 働 黨 (Labour)	三一	四六
中 立	二	五(「ヒューズ」一派ヲ含ム)
計	七五	七五

尙總選舉直後死亡シタル「タスマニア」州再選下院議員(中立)ノ補缺選舉ハ勞働黨ノ獲得スル所トナリ從テ同黨議員ハ四十七名トナレリ

敗因 今回ノ總選舉ニ於ケル政府ノ敗因ハ從來國民地方聯立内閣ヲ支持セル中産ノ俸給生活者階級ノ多數カ總選舉ノ題目タル聯邦産業仲裁法廢止ニ反對投票セル爲ニシテ右投票ヲ政府反對ニ誘導シタル諸因ハ一般ニ左記ノ如ク觀測セリ

- (イ) 勞働黨側ハ宣言及標語ニ依リ聯邦仲裁法ノ廢止ハ勞働賃銀ノ低落ヲ招徠セントスル政策ノ前提ナルヲ宣傳セルコト

- (ロ) 聯邦仲裁法立法ノ目的ハ濠洲全體ニ互ル勞働狀態ノ基準ヲ維持スルニ在ルヲ以テ之カ廢止ニ依リ必然各州間ニ勞働狀態低下ノ競争ヲ惹起シ從テ右法律カ不備ナリトセハ之ヲ補正スヘキヲ至當トシ之ヲ廢止スルヲ不可ナリトスル反對派論調ノ有利ナリシコト
- (ハ) 財政ニ關スル非難殊ニ増稅ニ對スル反對アリタルコト
- (ニ) 政府ニ對スル人心ノ倦怠、勞働黨ニ政策實行ノ機會ヲ與ヘントスル希望殊ニ英本國勞働黨内閣ノ治績カ刺戟ヲ與ヘタルコト
- (ホ) 與黨ノ不統一ナリシコト

第二項 勞働黨内閣ノ成立

這回ノ下院總選舉ニ於テ勞働黨ハ下院ニ絶對多數ヲ占ムルコトナリタル結果十月二十二日國民地方兩黨聯立内閣ハ總辭職シ勞働黨首領「スカリン」ハ聯邦總督ノ命ニ依リ後繼内閣ヲ組織スルコトトナリ同日就任セリ

内閣員ノ
顔振

其ノ閣員左ノ如シ

- 聯邦總理兼涉外大臣産業大臣 「ジェームス、ヘンリー、スカリン」(James Henry Scullin)
- 大藏大臣 「エドワード、グランヴェール、セオドア」(Edward Granville Theodore)

檢事總長

「フランク、ブレナン」(Frank Brennan)

郵務長官、土木鐵道大臣

「ジョセフ、アロイシウス、ライオンズ」(Joseph Aloysius Lyons)

衛生及歸還兵事務大臣

「フランク、アンステー」(Frank Austey)

國防大臣

「アルバート、アーネスト、グリーン」(Albert Ernest Green)

通商關稅大臣

「ジェームス、エドワード、フェントン」(James Edward Penton)

内務大臣

「アーサー、ブレイクレー」(Arthur Blakeley)

市場及運輸事務大臣

「パーカー、モロニー」(Paker Moloney)

Vice-President of the Executive Council (上院ニ於ケル代表者)

「ジョン、ジョセフ、ダリー」(John Joseph Daly)

土木鐵道副大臣

「ジョン、バーンス」(John Barnes)

關稅副大臣

「フランシス、マイケル、フォード」(Francis Michael Forde)

産業副大臣

「ジョン、アルバート、ビースレー」(John Albert Beasley)

第三項 勞働黨内閣ノ施政

労働黨内閣ノ施政方針

十一月二十日聯邦總督ハ聯邦議會開院式ニ於テ大要左ノ内容ヲ有スル演說ヲ爲シ労働黨内閣ノ内
外施政方針ヲ示セリ

(一) 施政方針 (新議會開院式ニ於ケル總督ノ演說)

(イ) 政府ハ聯邦下院總選舉ニ於テ表示セラレタル民意ニ鑑ミ明年早々聯邦産業仲裁法ノ改訂ニ着手スヘシ

(ロ) 産業法規ノ實施ニ關シ經驗ヲ有スル者ノ意見ヲ徵スル爲政府ハ雇主側及用人側双方ノ代表者ヲ招集シ意見ノ交換及産業狀態改善ノ提議ヲ行ヒ之ニ依リテ勞資協調ノ増進ヲ期ス

(ハ) 「ニュー、サウスウェールズ」州北部ノ炭坑爭議ヲ圓滿且迅速ニ解決スル爲政府ハ産業平和法ノ規定ニ基キ當事者間ノ會議ヲ招集セリ會議ハ未タ豫期ノ成功ヲ收メサルモ政府ハ右爭議解決ノ爲一切ノ手段ヲ講スヘシ

(ニ) 政府ハ濠洲ニ於ケル失業現狀ニ顧ミ英國政府ニ對シ英濠間三千四百萬磅開發取極ニヨル移民運賃補助條項ノ停止方ヲ提議シタルカ英國政府ヨリ詳細ナル回答アリタルヲ以テ補助移民問題ニ付各州政府ト協議ヲ行フヘシ

(ホ) 政府ハ國內産業狀態ニ鑑ミ更ニ外國移民ノ入國ヲ制限セリ

(ヘ) 政府ハ開發移民委員會及科學産業研究會ノ職務ノ協同ヲ圖リ之ヲ總理ノ直轄ニ移スヘク又財政狀態ヲ考慮シ經費節約ノ見地ヨリ本年三月決定ヲ見タル經濟研究局ノ創設ハ實行セサルコトトシタリ

(ト) 政府ハ直ニ豫算編成ノ必要アル爲國營諸事業ノ繼續遂行ニ充ツヘキ公債ノ發行、所得稅率改正案、聯邦内金管理法ノ改善、南濠洲及「タスマニア」州ニ對スル特別補助金ノ下付、「グラフトン」南「ブリスベーン」間鐵道工事ノ爲メ更ニ三十五萬磅支出ノ件、關稅消費稅率ノ改訂ニ關シ提議スヘシ

(チ) 政府ハ總選舉ニ於テ發表シタル政綱ニ基キ軍事強制訓練ヲ停止スルコトニ決定セリ又一般國防制度ニ付陸、海、空軍當局者ヨリ成ル國防會議ト審議シタル結果右會議ハ全會一致ヲ以テ現陸軍編成ノ維持ニ同意シタリ之ニ基ク必要兵員ハ志願應募ノ方法ニ依リ充員ス尙空軍ヲ獨立單位トシテ維持スル問題ハ國防委員會ニ於テ又空軍ト民間航空事業トノ協同ニ就テハ政府ニ於テ研究中ナリ

(リ) 國際平和ノ一步トシテ軍備制限運動ヲ熱心ニ支持スル現政府ハ明年一月倫敦ニ開催セラルル海軍會議ノ招請ヲ歡迎スルモノナリ政府ハ軍備制限ヲ阻止スル障害ヲ除去センカ爲ノ此種

努力カ成功ヲ收ムルコトヲ熱望シ同會議ニ濠洲代表ヲ送ル筈ナリ

(ス) 政府ハ明年開催セラル、帝國會議及經濟會議ニ對シテハ濠洲聯邦及英帝國內諸邦ノ永久的福祉ノ爲英國政府ト協力セントス

(二) 其實蹟

聯邦下院總選舉後十一月二十一日召集セラレタル聯邦議會ハ十二月十三日「クリスマス」休會ヲ行ヒ會期極メテ短時日ナリシモ勞働黨內閣ハ下記ノ如ク豫算ニ關係アル財政問題及失業救濟上ノ緊急措置ニ關シ提案ヲ爲シ何レモ同黨ノ政綱トスル濠洲產業ノ徹底的保護、國內失業者ノ救濟等ノ骨子ニ觸レ同黨政策ノ特色ヲ示セリ

(イ) 關稅ノ改訂

關稅改訂

勞働黨政府ハ關稅ノ引上ケニ依リテ (一) 歳入増加 (二) 國內產業ニ徹底的保護ヲ與ヘテ之ニ因リ失業者ノ就職ヲ促サントスルニ様ノ結果ヲ求メ從ツテ其ノ稅率引上ヲ行ヘル項目ハ國內ニ於テ生産シ得ルモノニ限定セサリキ

歳入増加ノ資源ニ關シ過去四ケ年ニ亘ル關稅收入ト本年度收入豫測額ヲ比較スルニ左ノ如シ

一九二五—二六年

三九、一九八、八七八

一九二六—二七年

四三、五五二、四七八

一九二七—二八年

四一、四四六、七三〇

一九二八—二九年

四一、〇五八、五七一

一九二九—三〇年豫測額

四四、四五〇、〇〇〇

抑々濠洲關稅全般ニ亘ル改訂ノ要ハ過去ニ於テモ認メラレ前內閣モ既ニ之カ準備ヲ爲セルカ勞働黨內閣組閣早々全般ノ改訂ヲ聲明スルト共十一月二十一日及十二月十二日ノ兩度ニ於テ製織品ヲ中心トシ關稅一部ノ引上ヲ斷行セリ此ノ關係稅目ハ三百餘項ノ多數ニ上リ外國側輸出業者ニ及ホセル影響ハ甚大ナリシモ之カ内容ニ於テ同黨內閣ハ其ノ特色ヲ示セリ即チ特惠稅率ト一般稅率トヲ問ハス概ネ同率ノ引上ケヲ行ヒ精製烟草ノ如キハ各種稅率ノ增高ト共ニ特惠及中間稅率ノ增加率ヲ増シ之ヲ一般稅率ト同率トセリ

右ノ結果影響ヲ受クヘキ本邦品ハ絹織物、綿製品、「エナメル」器、硝子壺類、「ベニヤ」板、小間物、文房具、「セルロイド」製品、靴下、玉葱、陶磁器、帽子材料等ニシテ又英本國側ハ製織品及各種半加工器具等ニ對スル特惠關稅引上ニ依リ輸出上非常ノ打撃ヲ受ケ之ニ對スル非難極メテ激烈ナリ

(ロ) 所得税ノ引上

所得税ノ引上

労働黨内閣ハ前内閣ノ計畫セル興行税ヲ罷メ之ニ代ルヘキ財源ヲ前記關稅引上ノ外更ニ所得税ノ增加ニ求メタリ前内閣ノ計畫セル超過所得税ハ二千磅ノ課税所得 (taxable income) ヲ超ユル者ニ對シ更ニ一割ヲ課税シ之ニ依リテ年四〇〇、〇〇〇磅ヲ得ルニ在リシカ労働黨内閣ニ於テハ現行所得税ノ外左記ノ課税ヲ附加セントス

課税所得二〇一磅ヨリ一、五〇〇磅迄	一割
同 一、五〇一磅ヨリ三、〇〇〇磅迄	一割五分
同 三、〇〇一磅ヨリ以上	二割
同	二割
同	二割

會社課税所得

二割

課税所得二〇一磅ハ純所得四五一磅トセラレ居ルヲ以テ年收四五一磅以上ノ所得ヲ有スル者ハ右超過所得税ヲ附加セラル、聯邦藏相ノ説明ニ依レハ本年度ノ超過所得税ハ一、二八五、〇〇〇磅ニ達シ前内閣ノ豫算ニ比シ八八五、〇〇〇磅ノ收入増加ヲ來ス管ナリト云フ

(ハ) 國防問題

國防問題

各官廳所管豫算ノ膨脹ニ反シ國防省所管經費ハ前内閣ノ豫算ニ比シ却テ十五萬磅ノ減少ヲ見タリ

右ハ労働黨政綱ノ一タル國防制度ノ改革殊ニ濠洲市民ニ對スル軍事強制訓練ノ廢止ニ依リ捻出スル經費ヲ其重ナルモノトス右軍事強制訓練ハ労働黨内閣就任後直チニ停止セラレ(註)其後市民軍訓練ノ代法トシテ義勇兵ノ募集ヲ開始セリ

其他財政上ノ理由ニ依ルモノト認めラル、國防制度ノ變更トシテ報道セラル、モノハ(一)海軍ニ於テ十二月二十日ヲ以テ驅逐艦 *Swordsman* 及測量艦 *Morsby* ヲ豫備艦ニ編入シ石炭船 *Mombah* ノ賣却ヲ決定セルコト(二)「ニューカッスル」海軍豫備隊ノ閉鎖(三)軍需軍機工場ヲ平時普通産業ニ使用シ得ルヤ否ヤニ付調査中ナルコト(四)「ジャービス、バー」ニ在ル海軍兵學校(一九二九—三〇年度兵學校豫算ハ六萬磅)ヲ閉鎖シ士官候補生ハ高等學校學生ノ志願者ヨリ採用スルコトニ内定シタル旨ノ内議アルコトトス

(註) 本款第三項(三)

(ニ) 移民問題

移民問題

労働黨政府ハ濠洲内ニ於ケル失業状態ニ鑑ミ就任後直ニ英國政府ニ對シ三千四百萬磅開發取極ニ依ル運賃補助移民制度ノ實行ヲ既ニ渡濠セル移民ノ家族渡航ノ場合ヲ除キ當分停止スヘキ旨要求セリ右ニ對シ英國政府ハ濠洲政府ノ提議ヲ諒トスル一方(一)右制度ニ關聯シテ英國及濠洲ニ設置サレ

タル諸機關ヲ繼續存置シ近キ將來ニ於ケル制度復活ニ使スルコト(二)除外事項タル既渡航移民ノ家族ノ外家庭勞働移民ノ渡航補助ヲ繼續スルコト(三)「ヴィクトリア」州渡航者ノ窮狀ニ對シ速カニ適當救濟方法ヲ執ルコトヲ求メタルカ聯邦政府ハ右移民問題ニ就キ各州當局ト協議スル旨發表セリ

(ホ) 種羊ノ輸出取締

種羊ノ輸出取締

過去ニ於テ濠洲ハ南阿ニ對シ種羊ヲ輸出セル結果南阿ハ羊毛生産地トシテ濠洲ノ一大競争國タルニ至レル事實ニ鑑ミ外國ヘノ種羊輸出ノ可否ハ數年來當局者及羊毛關係業者間ニ論議セラレタルカ勞働黨内閣ハ十一月中旬露西亞行種羊輸出ノ報ニ接シ同月二十七日關稅省布告ヲ以テ今後關稅大臣ノ許可ナクシテ種羊ヲ國外ヘ輸出スルコトヲ禁止セリ當局ノ語ル所ニ依レハ右ハ濠洲産業ノ競争國トナル恐アル國ヘノ輸出ヲ禁止スルニ在ルカ如シ

(ヘ) 金管理

金管理

十一月二十一日議會開會ノ劈頭「セオドア」藏相ハ豫算演說中近時濠洲ニ於テハ各私營銀行カ殆ント預金率、割引、爲替相場及貸出程度、貸出事業ノ範圍ヲ決定シ居レル狀態ナルカ右ハ國家機關ニ依リ管理セラルル國民の事業ノ一トスル要アルヲ以テ政府ハ近ク聯邦國立銀行ノ職權擴張ヲ圖

ルヘキ旨聲明シ同月二十八日聯邦銀行法改正案ヲ下院ニ提出セリ右改正案ニ依レハ

- (一) 大藏大臣ハ聯邦銀行ニ對シ金貨金塊所有者ヨリ之カ移動報告ヲ徵シ又所有者ヨリ濠洲紙幣ト引換ニ金ヲ取立ツル權限ヲ賦與スルコトヲ得
- (二) 金ヲ輸出セントスルモノハ同銀行ヲ通シ大藏大臣ノ許可ヲ得ルコトヲ要ストシ(二)ニ就テハ更ニ

聯邦總督ハ聯邦銀行ヨリノ建議ヲ受ケ之ヲ必要ト認メタル場合ニハ布告ヲ以テ(二)ニ規定スル場合ヲ除ク外金ノ輸出ヲ禁止スルコトヲ得右布告ノ有効期間内ハ(二)ノ規定ニ適合スルモノノ外金ヲ輸出スルコトヲ得ス

トノ一條項ヲ挿入シ之ニ依リ禁止ノ爲ニハ總督ノ布告ヲ必要トスルコトトセルカ本改正案ハ議會ヲ通過セリ

(ト) 倫敦海軍會議

倫敦海軍會議代表

明年一月開催ノ倫敦海軍會議ヘ出席スル濠洲代表トシテ政府ハ關稅大臣「フエントン」(James Edward Fenton)ヲ派遣スルニ決シタルカ一般ハ其理由トシテ這回ノ關稅改正ニ對スル英國側商工業者ノ反對ニ鑑ミ同會議出席旁々諒解ヲ得ルニアリト觀測セリ

(三) 軍事強制訓練ノ停止

濠洲強
制訓練ノ
停止

「スカリン」内閣ハ十一月二日軍事強制訓練ヲ停止スヘキ旨發表シタルカ右ニ付總理ノ説明ニ依レハ聯邦内閣ハ一九二九—三〇年度國防費豫算審查ニ當リ國防政策ノ一般的査閲ノ要アルコトニ意見一致シ國防關係當事者ト國防問題全體ニ互ル審查ヲ爲スコトニ決定シタルカ差當リ軍事強制訓練及野外演習ヲ停止スル爲必要手續ヲ執ルニ至レリトセリ、右聲明ハ労働黨組閣後重要政策ニ付初メテ其方針ヲ示シタルモノニシテ國民黨系諸新聞及軍事關係者ノ反對ヲ受ケタルカ右非難ニ對シ國防大臣「グリーン」(Green)ハ政府ハ強制訓練ノ停止ニ依リ本年度ニ於テ十八萬磅ヲ捻出セントスルモノニシテ最初ハ國防制度改革ノ全問題ヲ研究シタル後強制訓練ヲ禁止スル方針ナリシモ豫算編成ニ方リ即時之ヲ停止セサルヲ得サルニ至レルモノナリト述ヘタリ

濠洲強
制訓練ノ
停止

尙聯邦國防制度ノ沿革概要及今回停止ヲ見ルニ至レル軍事強制訓練制度ノ内容ヲ述ヘレハ次ノ如シ

(イ) 國防制度ノ沿革

聯邦成立前ノ各植民州ニ於ケル軍事制度ハ之ヲ措キ一九〇〇年聯邦成立後國防カ聯邦ニ移管以來今日迄軍事制度ハ重ナル三階梯ヲ經タリ

第一ハ聯邦政府カー一九〇二年「サー、エドワード、ハットン」少將 (Sir Edward Hutton) ヲ任命シテ各州軍隊ノ統一及軍事制度ノ確立ニ當ラシメタルコトニシテ一九〇三年國防法 (Defence Act, 1903) ハ爾來聯邦軍制ノ基礎トナレリ

第二ハ一九一一年一般強制訓練ノ創設トス前記一九〇三年國防法及其後ノ改正法ニ依リテ十八歳ヨリ六十歳迄ノ男子ハ戰時徵兵ノ義務ヲ負ヒ又二十六歳迄ノ男子ハ平時ニ於テモ訓練及徵集ノ義務ヲ負フコトトナレルカー一九〇九年國防法ヲ以テ軍事訓練ヲ普遍的強制的ニ施行スルコトトシ其施行ニ先チ「キチナー」元帥ノ意見ヲ徵シタル後一九一一年一月公布ヲ見強制訓練ハ同年七月一日ヨリ實施セララルルニ至レリ

第三ハ一九一八年改正法ニ基キ一九二一年五月實施セラレタル陸軍ノ編成替ニシテ右ハ歐洲大戰ノ經驗ヨリ其陸軍ヲ歐洲出征軍同様ノ師團編成ニ改メ常備各部隊ハ常備幹部ト市民軍中ノ Militia Forces トヲ以テ組織セラレ一面各出征部隊ノ動功ヲ留ムルコトトセリ

而シテ右三回ノ變遷ヲ經タル軍備殊ニ陸軍ハ大別シテ常備軍ト市民軍トニ別レ一九二九年二月一日ノ統計ニ依レハ平時編成ハ常時雇備ノ將校及下士官一、七五五名ト市民兵四六、一七六名トヨリ成レリ

(ロ) 軍事強制訓練ノ内容

現行訓練
ノ内容

強制訓練規定ハ市民軍ヲ訓練組織スルモノニシテ一九〇九年國防法以來其實施ノ範圍及期間等幾多ノ變更ヲ見タルカ停止當時實行セラレ居タル訓練ノ内容ハ大略次ノ如シ

英國籍ヲ有シ濠洲ニ六ヶ月以上居住スル男子ハ(法律ノ規定ニ依リ除外セラルル者ヲ除キ)次ノ區別ニ從ヒ軍事訓練ヲ受クル義務ヲ有ス

(甲) 十二歳ヨリ十四歳迄ハ Junior Cadets トシテ服務

(乙) 十四歳ヨリ十八歳迄ハ Senior Cadets トシテ服務

(丙) 十八歳ヨリ二十六歳迄ハ Citizen Forces トシテ服務

但右(甲) Junior Cadets ノ訓練ハ一九二二年以來停止セラレ (乙) Senior Cadets ノ訓練ハ一九二五年以來滿十七歳ニ達シタル時ヨリ一年間全日(四時間以上)四回、半日(二時間)十二回、夜間(一時間)一回行フコトニ遞減セラレタリ尤モ十四歳ニ達セル場合 Senior Cadets トシテ登録スルノ義務ハ變更ナシ

(丙) Citizen Forces ハ一九二五年以來滿十八歳ヨリ二十一歳迄三ケ年間ノ訓練ヲ實施シ居リ一ケ年ノ訓練時間ハ全日(六時間以上)十六回若クハ之ニ相當スル時間ニシテ其内入隊期間ハ繼續八日

ヲ下ラサルコト又海軍、砲兵、工兵ニ屬スル者ハ全日訓練二十五回内繼續在隊期間最短十七日等ナリ尚 Citizen Forces ノ訓練兵ニハ制服及訓練中手當ヲ支給ス

Senior Cadets トシテ軍事訓練ヲ受クル者ハ毎年二萬二千名乃至二萬五千名ニシテ又 Citizen Forces ニ付テハ一九二七年六月末ノ統計ニ依レハ當時訓練中ノ十九歳ヨリ二十一歳迄ノ男子九三、三七五名トス本年八月聯邦議會ニ提出セラレタル前内閣ノ豫算案ニ依レハ前記軍隊ノ維持費三十九萬六千六百八十九磅内給料及被服費二十二萬五千七百七十九磅訓練及演習費十三萬一千五百十磅兵器四萬磅ニシテ既述ノ如ク勞働黨政府ハ此内十八萬磅ヲ捻出スル爲軍事強制訓練ヲ停止セルモノナリ

第四項 濠洲政黨ノ創立

濠洲政黨
ノ樹立

這回政變ノ直接原因ヲ作レル「ヒューズ」等國民黨離反議員ハ國民黨新院内團カ妥協ノ意思ナキコトヲ聲明シタル結果別ニ新黨樹立運動ヲ起シ十二月三日濠洲政黨 (the Australian Party) ノ創立ヲ宣言シ各地支部設立ニ着手セリ

同黨樹立
ノ目的
立黨ノ趣旨トシテ「ヒューズ」ノ述ヘタル所ニ依レハ同黨ハ既成政黨ニ見ル色彩ト異リ資本家タルト勞働者タルトヲ問ハス濠洲市民全般ノ利益増進ヲ唯一ノ目的トセルモノニシテ從テ勞働黨政

府ニ於テ同黨樹立ノ目的ニ副フ政策ヲ實行スル限リ之ヲ支持スルモノナリト云フ
尙同黨ニ屬スル現議員ハ下院ニ於テ「ヒューズ」等三名上院ニ於テ二名トス但シ労働黨カ絶對多
數ヲ占メタル今日同黨ノ向背ハ解散前ノ如キ重要性ヲ失ヒ政局ノ大勢ニハ何等ノ影響ヲ與フルコ
トナシ

第五項 「ヴィクトリア」州内閣更迭

「ヴィクトリア」州ノ政變
十二月十一日解散後最初ノ新議會召集セラルルヤ下院ニ於テハ労働黨ニヨリ直チニ政府不信任案
提出セラレ地方進歩黨及自由黨之ニ賛成ヲ與ヘ三十六票對二十八票ヲ以テ同案ノ可決ヲ見ルニ至
レリ爲ニ國民黨内閣ノ總辭職トナリ十二日労働黨首領「ボーガン」ハ州知事ノ命ニ依リ後繼内閣
ヲ組織シタリ

第三款 對 外 關 係

第一項 駐米濠洲代表任命

駐米代表
ノ新任
一九二七年末「サー、ヒュー、デニソン」辭任以來駐米濠洲代表ハ缺員ノ儘今日ニ及ヒ此間該代表機
關ヲ廢シテ正式公使ヲ派遣スヘシトノ說一部ニ行ハレ居リタルカ「ブルース」總理ハ四月二十五日
元關稅審議員タリシ「ハーバート、ブルックス」(Herbert Brookes)ヲ駐米濠洲代表ニ任命スルコト

ニ内定シ從來ノ職名「コムミッショナー、フォア、オーストラリア」ヲ今後「コムミッショナー、ゼネラ
ル、フォア、オーストラリア」ト變更スルニ決シタル旨ヲ公表シ同時ニ外國へ濠洲公使派駐論等ニ
關シ左ノ如ク談話セリ

「駐米濠洲代表任命ノ遲延ハ右代表機關ノ形式等ニ就キ研究ヲ要スルモノアリタルニ因ル蓋シ
政府ハ本問題ヲ以テ英帝國ノ現狀ニ於テハ英國内相互關係及對外關係上極メテ重要ナリト感シ
タルモノニシテ自治領中ニハ既ニ駐外公使ヲ任命シタルモノアリ右等先例ニ從フコトノ得失ニ
就テモ考慮セサル可カラサリシカ結局此際外國ニ濠洲公使ヲ派駐スルノ必要ナシトスルニ決シ
タリ政府ハ現下ノ諸狀況ニ顧ミ公使ノ派駐ニ依リ濠洲最善ノ利益ヲ齎シ得サルモノト認ムルモ
ノナルモ一面他ノ自治領政府ノ經驗ニ注意シツツアルモノニシテ將來ノ方針ハ大ニ右實績ノ如
何ニ懸ル次第ナリ

駐米代表ヲ從來ノ儘繼續スルニ就テハ政府ハ強固ナル理由ヲ有スルモノニシテ該代表ノ職務ハ
今ヤ通商財政事項及濠洲資源ノ科學的開發ニ關スル資料蒐集以外ニ擴大セラレ米濠間ノミナラ
ス米國ト英帝國全體トノ親善關係増進上今後重要ナル役ヲ演スルニ至ルヘク政府ハ兩國人種ノ
近縁ト太平洋ニ於ケル隣邦ノ關係上濠洲代表カ二大英語國ノ相互諒解及關係ノ向上ニ特殊ノ貢

獻ヲ爲スモノナルヲ確信スルモノニシテ右ハ濠洲ノ將來及世界ノ平和ニ極メテ重要ナル事項ナ
リ
右代表ノ資格ニ就テハ米國ニ於テ「コムミッショナー」ナル語カ普遍的ニ使用セラルル爲誤解セ
ラルル嫌アリタルニ鑑ミ之ヲ右資格ニ適切ナル「コムミッショナー、ゼネラル」ト改メタルモノナ
リ

第二項 英國關稅政策ニ對スル態度

七月九日英國下院ニ於ケル産業保護問題討議ニ際シ藏相「スノーデン」カ勞働黨內閣ノ在任中食
料品關稅撤廢ヲ言明セル報道ハ特惠關稅ニ依リ保護セラレ居ル濠洲製糖業其他直接關係者ニ多大
ノ衝動ヲ與ヘ當局者及新聞紙等ノ論議ヲ喚起セリ

其後英國政府ハ藏相ノ言明カ屬領トノ通商ニ及ホス影響ニ鑑ミ其政策カ直ニ實行セラルルモノニ
非サルコト及英帝國內通商ノ増進ニ就テハ特ニ考慮スヘキコトヲ聲明シ及他面本問題決定ニ先チ
英帝國經濟會議ノ開催確實トナリタル爲情勢大ニ緩和セリ

本問題ニ關スル首相「ブルース」及新聞論調大要左ノ如シ

「ブルース」
首相
ノ演說

- (1) 首相「ブルース」ハ製糖業地タル「クインスランド」州旅行中「ブリスベーン」ニ於ケル演

說ニ際シ本問題ニ言及シ左ノ如ク述ヘタリ

「スノーデン」藏相ノ言明ハ即時之ヲ實行シ砂糖其他ノ濠洲品ニ對スル特惠ヲ廢止セント
スルモノニ非ス英國ノ狀況ヲ考察スルニ明年四月豫算提出前ニ實行ヲ見ルコト無カルヘク
又豫算編成ニ當リ其財政狀態カ砂糖關稅ニ依ル現收二千萬磅ノ財源ヲ廢止シ得ルヤ大ニ疑
問ナリ英國首相ハ既ニ右關稅ノ存在スル限過去ニ於テ屬領ニ與ヘラレタル特惠ヲ維持スル
方針ナル旨通報シ來レリ

英國ニ於テモ英帝國內通商結合ノ緊要ナルハ充分理解セラレ居リ更ニ次回ノ經濟會議ニ於
テハ通商結合ノ増進ニ關シ進歩的方法ノ採用ニ到達スルモノト確信ス
右經濟會議ニ於テ英國政府カ食料品關稅ヲ廢止シ從テ帝國特惠制ノ撤廢ヲ見ルニ至ル場合
濠洲ハ之ニ代ルヘキモノヲ得サルヘカラス然ラスンハ濠洲ハ當然英國製產品ニ對スル特惠
ヲ繼續スルヲ得ス

新聞論調

- (2) 新聞論調

「サン」紙

「濠洲ハ英帝國ニ對スル「センチメント」ノ爲英國品ニ與ヘタル特惠稅率ニ依リ多大ノ犧

性ヲ拂ヒ居レルカ吾人ハ英帝國ノ結束ハ主ニ「センチメント」ノ問題ニシテ此觀念ヲ保持
増進スル爲メ通商結合ノ要ヲ痛感ス濠洲ニ於ケル英國品特惠ノ撤廢ノ場合英國品ハ忽チ安
價勞働ヲ使用スル外國品ニ壓倒セララルルニ至ルヘシ」

二、「シドニー、モーニング、ヘラルド」紙

「英國藏相ノ言明ハ其實行ノ程度ヲ明ニセサルモ現行關稅ニヨリ保護セララルル濠洲製糖業
等關係事業ニ大打撃ヲ與フヘシ關稅ノ改正カ英國内政ニ屬スルモ屬領ハ英國品ニ多大ノ特
惠待遇ヲ賦與セル以上其產品ニ對シ相當ノ報酬ヲ要求スルノ權利アルヲ確信ス」

三、「レーバードリー」(勞働黨機關紙)

「通商特惠ハ英濠通商上英國資本家ニ一ケ年八百萬磅ノ利益ヲ與ヘ濠洲側ハ僅ニ其十分ノ
一二等シキ利益ヲ受クルニ過キス英帝國結合ノ「センチメント」ヲ通商特惠制度ニヨリ保
持セントスルハ末論ニシテ眞ノ結合ハ特惠ヲ俟タスシテ英帝國内生産品ヲ購入スルニアリ
由來英帝國ニ對スル「センチメント」ハ海外ヨリ倫敦ニ向テ流レ同一觀念又ハ其報酬ノ倫
敦ヨリ海外ニ來ルコトナシ」

第三項 英國對埃及政策ニ對スル態度

英國埃及兩政府間ノ條約案ノ成立及英國「ハイ、コムミッシヨナー」「ロイド」卿ノ辭職ハ濠洲朝野
ノ異常ナル注意ヲ喚起シタルカ勞働黨機關紙ハ「今回ノ交渉カ第一次英國勞働黨内閣ノ埃及政策
ノ繼續ニ過キス當時外相「マクドナルド」カ「ザグル、バジャ」トノ交渉ニ於テ「スエズ」運河ノ
完全ナル掌握ヲ固執セシ事實ニ徴シ今次ノ交渉ニ於テ之ヲ放抛スルカ如キコトヲ含マサルハ明ニ
シテ從テ濠洲其他ノ東部屬領ト英本國トノ連結ニ何等ノ影響ナク要ハ埃及ニ對スル從來ノ武斷政
策ヲ廢シ英帝國ニ對スル埃及ノ惡感情ヲ一掃スルニ在リ」トシテ歡迎シ又一般新聞紙ハ交渉ノ内
容ニ對シ極メテ懷疑的論調ヲ試ミ勞働黨政府ノ政策ハ埃及ヲシテ第二ノ愛蘭タラシメ近キ將來ニ
於テ英帝國トノ關係ヲ完全ニ離脱セシムル前提ニシテ且埃及政界ニ絶對多數ヲ擁スル獨立黨ノ依
然タル對英感情ニ徴シ今次ノ交渉ニ依リ英埃及親善ヲ齊シ得サルノミナラス英國ノ手ヲ脱シ國際
聯盟ノ一員タルニ至ラハ英埃及關係ハ一層困難ナルニ至ルヘク「スエズ」運河ヲ英本國ニ對シ最要
ノ通路トスル濠洲ハ英帝國ノ結合上重大ナル危殆ヲ抱カシムルカ如キ政策ニ無關心ナル能ハスト
論シタリ

尙本問題ニ關シ首相「ブルース」ハ英國政府ニ對シ「スエズ」運河ノ確保ヲ阻害スルカ如キ措置
ニハ不安ヲ感セサルヲ得サル旨電報シタリ

第四節 「ニュー、ジールランド」

第一款 概 説

概説

昨年末ノ總選舉ノ結果小數黨ヲ基礎トシ成立セル「ワード」内閣ハ二月議會ニ臨ムヤ在野諸黨ノ支持ヲ得ルコト明白トナリ六月議會再開ニ當リ其政策ヲ披瀝セリ
其政策ハ主トシテ移植事業ヲ促進シテ土地ノ利用厚生ヲ計ルヲ目的トスル諸案ニシテ其重要ナル案ハ土地ノ分割利用促進ヲ目的トスル大所有地ノ課税ト小生産者ニ對スル低利資金ノ供與トヲ内容トスルモノニシテ其提案ハ何レモ議會ヲ通過セリ

「ワード」首相ハ議會後期ニ於テ劇務ト高齡トニ依リ靜養ノ止ムナキニ至レルモ首相ニ對スル尊敬ハ各派ノ政府ニ對スル態度緩和ニ與ツテ力アリキ

年末總督及駐英代表者ハ夫々任期滿了切迫ノ爲メ後任者ノ公表アリタリ

第二款 内 政 關 係

第一項 首相代理ノ選任

首相「ワード」ハ高齡病弱ニヨリ靜養ヲ要スル爲メ十月二日土地相「フォーブス」首相代理トシテ政務ヲ執レリ

尙「ワード」内閣ハ前年十一月十七日ノ總選舉ノ結果「リフォーム」黨二八名、「ユナイテッド」黨

二七名、勞働社會黨一九名、獨立五名、地方黨一名トナリ次テ議會ニ於テ從來ノ「リフォーム」黨政府不信任案可決ニ伴ヒ「ユナイテッド」黨々首「ワード」以下左記閣員ヲ以テ同年十二月成立セルカ其後各黨ノ好意的支持ノ下ニ政策ヲ遂行セリ

「ワード」
内閣閣員

内閣總理大臣 「サー、ジョセフ、ワード」(Sir Joseph Ward)

兼大藏及外務大臣

土地及農務大臣 「フォーブス」(G. W. Forbes)

司法及國防大臣 「ウイルフョード」(T. M. Wilford)

土人事務及「クック」島大臣 「アピラナ、ガータ」(Sir Apirana Ngata)

文 部 大 臣 「アトモアー」(H. Atmore)

勞働及礦務大臣 「ヴェイチ」(W. A. Veitch)

工 部 大 臣 「ランソム」(E. A. Ransom)

鐵道及關稅大臣 「タヴァーナー」(W. B. Taverner)

遞 信 大 臣 「ドナルド」(J. B. Donald)

内 務 大 臣 「ペレル」(P. De La Perrelle)

海産業、商務及移民大臣 「コッベ」(J. G. Cobbe)

保健大臣 「ストールウォースイ」(J. Stallworthy)
検事総長 「サイドイ」(I. K. Siley)

第二項 議會 議事

夏期議會
議事

第二十二次議會ハ二月再會セラレタルカ反對黨タル「レフォーラム」黨及労働黨ノ政府援助ニ變化
ナク又重要問題ノ提出ナカリシカ次テ第二十三次議會カ六月二十七日ヨリ十一月九日迄開會セラ
レ其間漸ク政府ハ具體的政策ノ發表ヲナセリ、該議會ニ於ケル主要議事左ノ如シ

(一) 失業問題

失業救濟
事業

失業救濟問題ニ關シ首相ハ冬季迄ニ之カ處理ヲ爲スヘシトシ其方法トシテ鐵道建設事業ニ着手シ
之ニ依リ數千人ノ就職ヲ見ルヘシトセリ

(二) 豫算

豫算

八月一日議會ニ提出セル豫算案左ノ如シ

關稅	七、九五四、二五二
麥酒稅	六一一、四八四
歲入	

印紙及相續稅	三、五七五、七二〇
土地稅	一、一四〇、三二四
所得稅	三、三一〇、八七七
自動車 (石油及「タイヤ」稅等)	一、二四三、五七七
雜收入	七、一八〇
年不足額	五七七、二五二
計	一八、四二〇、六六六

歲出

戰爭恩給及戰債	五、〇二三、七五五
其他負債	二、二二六、四一六
社會事業費	六、二九二、九三〇
國防費	一、〇四三、六二二
司法費	五四四、九七六
農業費	四六四、五三三

道路費

一、五三六、五一七

一般行政費

一、二八七、九一七

計

一八、四二〇、六六六

「フッド」首相ハ豫算案説明ニ於テ不足額五十七萬餘磅ハ前任者ノ歳入過度見積ト負債肩代ニヨル
利子ノ増大トニ基クト説キ又經濟狀態ハ貿易ノ好調預金ノ増加ニヨリ既ニ一九二六年一九二七年
ノ不況ヨリ回復シ順潮ニ赴ケル旨述ヘタリ

本豫算案ニ對シ反對黨ハ該案カ土地稅等ノ増徴ヲ企劃セル爲メ之ヲ修正案ヲ提出シタルモ否決セ
ラレタリ

(三) 土地政策

移住政策

政府ハ農地移住政策ノ公約ニ從ヒ大所有地ヲ分割シテ農場ノ需要ニ應スル手段トシテ土地課稅ノ
増徴ヲ計ル爲メ土地所得稅法案 (the Land and Income Tax Bill) ヲ提出セリ

該法案ノ討議ニ於テハ反對黨タル「リフォーム」黨ハ課稅標準ノ改正カ反テ農地利用ニ不利ナルヲ
説キ異見ヲ唱ヘタルモ勞働黨ノ支持ヲ得テ通過セリ

(四) 内地移住政策

政府ハ其政策實施ノ爲メ土地法令ノ改正ヲ提案シ通過セリ該提案ノ目的ハ内地移住ノ促進、荒蕪
地ノ開拓、生産余力アル土地ノ開發トス

十月三日土地及農務相「フォーブス」ハ提案ノ第二讀會動議ニ於テ移植カ人口増加ト步調ヲ一ニセ
ス且農場ノ需要カ焦眉ノ問題ナルヲ述ヘ荒蕪地ノ開拓ニハ之ニ從事スル者ニ補助金ヲ與ヘ又所有
地ニ就テハ土木法 (Public Works Act) ニヨリ收用シ之ヲ分割シテ移植ニ便ナラシメントスト述
ヘ本案ハ土地移住ノ見地ノミナラス失業者ニ對シ就職ノ機會ヲ與フルモノトシテ何等反對ナク通
過シ十一月一日法律トナレリ

第三款 對 外 關 係

第一項 總督及駐英代表者ノ更迭

更迭發表

十一月十二日「ウイルフォード」(T. M. Wilford) ハ駐英「ハイ、コムミッショナー」「サー、ジームス、
パー」(Sir James Parr) ノ後任ニ任命セラレタル旨公表アリ次テ十二月一日總督「フアグソン」
(Sir Charles Ferguson) ノ後任トシテ「ブレディスロー」卿 (Lord Bledisloe) ノ任命アリタリ

第二項 新嘉坡根據地問題ニ對スル態度

對英關係ニ就テハ勞働黨内閣成立ニ伴ヒ該内閣カ保守黨前内閣ニ比シ自治領ニ對スル協議ニ就テ

誠實ノ度ノ薄キヲ危懼セル傾向アリキ、年度後期ニ於テ英國政府トノ關係ハ屢々論議ヲ見タリ
殊ニ九月十九日議會ニ於テ國際司法裁判所規程選擇條項加盟ニ關シ質問アリタルニ對シ首相ハ本
問題ニ關スル政府ノ往復文書ハ機密ニ屬スルカ故ニ其内容ヲ開示スルヲ得サル旨答ヘ勞働黨議員
ハ「ニュー、ジブラント」ノ名ニ於テ行フ一切ノ事項ハ一般ニ周知セシムルヲ要スル希望ヲ述ヘタリ
又議會終了後「シンガポール」根據地問題ニ關シ英國政府カ聲明セル際ニ於テモ新聞紙ニ於テ論
議ヲ見タルカ多クハ「ニュー、ジブラント」カ該問題ヲ國防上不可欠トセル見解ヲ有スル關係上之
カ來ルヘキ倫敦海軍會議ノ一抵當物視セラルヘキヲ危懼シ本問題ニ關シ左ノ如ク論シタリ
「オークランド、スター」(Auckland Star)紙(十一月十五日)(政府黨系)

「シンガ
ポール」
問題論調

「アレキサダー」海相ハ下院ニ於テ政府ノ決定ハ自治領ニ通知セリト述ヘタルカ之ハ協議セ
ラレタルト趣ヲ異ニス英帝國當局ハ自治領ノ安全ノ死活ニ關スル措置ノ最終的決定ニ先チ自治
領ニ對シ完全ナル了解ヲ得ルヲ要ス
「ニュー、ジブラント、ヘラルド」(New Zealand Herald)紙(十一月十六日)(「リフォーム」黨系)
「本問題ヲ列國トノ會商上一基子トシテ使用スルハ誠實ヲ缺ク方法ニヨリ國民ノ死活問題ヲ賭
スルモノナリ本問題ニ關スル英國内ノ異議ニ對シ各自自治領ハ強テ參加スヘシ」

「ドミニオン」(The Dominion)紙(十一月十五日)(「リフォーム」黨系)

「マクドナルト」内閣ノ事蹟ハ既ニ太平洋ニ接スル自治領ニ危懼ト不安トヲ感セシムルニ餘リ
アリ(根據地築造)作業ノ繰延ハ其完成即關係自治領ニトリ既定ノ保護ト安全トヲ齎ス時日ノ
延期ニ外ナラス

「イブニング、ポスト」(Evening Post)紙(十一月十九日)(獨立)

「工事繰延ノ決定ハ自治領ト協議セル結果タル場合尙良カリシナルヘシ本問題ニ於テ英國ハ恐
ラク自治領ノ意見ヲ故意ニ無視セルニ非ルヘキモ「マクドナルド」ノ平和及軍備縮少政策ノ追
求ハ英帝國ノ前哨線カ維持シ得サル歩度ヲ採ル虞アリ不滿カ本問題ニノミ限ラルルトセハ疑懼
ノ理由乏シキモ選擇條項問題ニ際シ不安ヲ生シタル先例アリ」

第五節 南 阿 聯 邦

第一款 概 說

概 說 一九二九年ニ於ケル重要ナル事象ハ六月ノ下院總選舉ニシテ年初議會ノ形勢ニヨリ「ハーツォー
グ」首相ノ土人法案ハ總選舉前既ニ法律トナリ得サルコト明白トナリ從テ「ハーツォーグ」ヲ黨首
トスル國民黨ノ選舉戰ハ土人問題ヲ中心トシタルモ總選舉ニ際シ少數派タル勞働黨内ノ分裂ヲ一

因トシテ國民黨ハ大勝ヲ博シ國民黨ハ依然政權ヲ掌握シ次テ上院ノ解散ヲ斷行シ政府ニ有利ナル展開ヲ行ヘリ

之ヨリ曩キ南阿聯邦獨逸間ノ通商條約ハ獨逸國ニ英帝國特惠制度ヲ均霑セシムル結果論議旺ナリシカ三月一日其效力ヲ發生シ又六月「ナタール」地方ニ惹起セル騷擾ハ共產主義者ノ策動ヲ一因トシテ依然不安繼續セルモ十一月多數士人ノ檢舉ニヨリ平穩ニ歸セリ
又南部「ローデシヤ」トノ關稅協定ハ其更新期ニ迫リ利害關係複雜ニシテ九月ノ會商不成功ニ終リタルモ年末ノ會議ニヨリ協定ヘノ努力ヲ爲シツツアリ

第二款 内 政 關 係

第一項 第五次聯邦議會ノ開會

(一) 總 督 ノ 辭

一月二十五日開會セル南阿聯邦第五議會ニ於テ總督ハ大要左ノ如キ辭ヲ述ヘタリ

「英國皇帝陛下ノ御不例ヲ拜シ南阿英國臣民ハ日夜御全快ヲ祈願ス

外交係關

我聯邦ト他ノ自治領及ヒ諸外國トノ關係ハ敦厚ニシテ友好ナル狀態ニ在リ

議案

産業及貿易

聯邦政府ハ「トランスヴァール」鑛山ニ對スル「モサムビック」土民勞働者ノ供給、鐵道事項及「モサムビック」間通商事項ニ關シ葡萄牙政府ト一協約ヲ締結シ又獨逸トノ間ニ一九二八年九月一日「ブレトリヤ」ニ於テ通商航海條約ヲ調印セリ

一九二八年八月巴里ニ於テ調印セル不戰條約ニハ本聯邦モ參加セリ

議會ハ「議會ニ於ケル土民代表ニ關スル法律案」「混血人ノ權利ニ關スル法律案」「土民土地法改正法律案」ノ三法律案ヲ引續キ審議セムコトヲ求メラルヘシ

聯邦ノ農業ハ概シテ順調ナル進步ヲ爲シタルニ拘ラス一部地方ニ於テハ旱魃ノ被害尙甚シク被害者救濟ノ爲メ特別ノ手段ヲ必要トス

鑛物生産ハ一般ニ堅實ナル進歩ト發展トヲ示シツツアリ

産業及ヒ商業ハ益々發達シ我國原料ノ利用、産業開發ノ爲メノ外國資本ノ流入、並對外及「アフリカ」貿易ハ何レモ顯著ナル發展ヲ示シツツアリ

石炭ノ油化問題ハ聯邦産業ノ將來ニ對シ最重要ナルヲ以テ國內ニ於ケル石炭資源ノ可能性ヲ調査スル爲燃料研究機關ノ經費ヲ議會ニ要求スヘシ

勞資關係

産業界ニ於ケル勞働爭議ノ調停ハ著シキ進歩ヲ遂ケ産業關係諸法律ノ實施ニ伴ヒ産業團體ノ組

織ハ益々完備セラレ産業界幾多ノ方面ニ於テ關係者全體ノ利福ヲ目的トスル相互諒解ト協定トノ實現ヲ可能ナラシメタリ協調ノ精神ハ全産業界ヲ通シテ著シク増進シ産業界ニ於ケル平和ヲ確固タル基礎ノ上ニ保持スルコトヲ得タリ

通信問題

聯邦ハ海底無線兩電信競争ニヨリ惹起セル形勢ニ鑑ミ兩線ニ依ル適當ナル通信經營ノ重大問題ヲ審議スル爲メ昨年倫敦ニ召集セラレタル帝國會議ニ代表者ヲ派遣セリ

(二) 聯邦內閣不信任案

不信任案ノ否決
現聯立內閣(國民黨及労働黨)ニ對スル不信任案ハ一月二十九日反對黨タル南阿黨々首「スマツ」將軍ニ依リテ下院ニ提出セラレタルカ否決セラルルニ至レリ又本案ニ對シ労働黨ハ昨年十月左右兩派ニ分裂シタルモ兩派共反對側ニ投票シタリ

(三) 土人選舉權問題

土人選舉
ノ否認

土人ニ投票權ヲ與フルノ法案議會ニ提出セラレ二月二十五日第三讀會ニ於テ賛成七十四票反對六十九票ノ結果ヲ見タルモ同國憲法ハ選舉權ニ關スル法案ニ關シ三分ノ二ノ多數決ヲ成立要件トセル爲メ同案ハ否決セラレタリ
本案ハ土人ニ選舉權ヲ與フルニ止リ被選舉權ヲ與ヘス又其ノ選出議員數ヲ「ケーブ」州五名其他

ノ三州各一名ト限定シ居リ從テ本案通過ノ場合ニ於テモ土人ノ參政權範圍ハ僅少ニ過キス尙南阿自治領首相「ハーツォーグ」ハ本案否決後政府ハ依然本法案ニ含マルル政策遂行ノ爲努力スヘキ旨聲明セリ

第二項 下院總選舉

(一) 二大政黨ノ政綱

朝野二大政黨タル國民黨及南阿黨ハ五月下院總選舉ヲ控ヘ各々其政綱ヲ披瀝セリ

(イ) 南阿黨ノ政綱

南阿黨政
綱

在野黨タル南阿黨ハ昨年十二月七日「オレンジ、フリー、ステート」州「ブロームフォンテン」ニ於テ大會ヲ開キ黨首「スマツ」將軍以下各地代表出席シ協議ノ結果左ノ十八項ヲ南阿黨ノ政綱トシテ採擇スルコトニ決シ即日發表セリ

一、南阿聯邦、英帝國及國際聯盟

聯邦憲法ノ維持及帝國會議ニ於テ聲明セラレ聯邦議會ニ依ツテ承認セラレタル「ドミニオン、ステータス」ノ維持ヲ期ス又英帝國間ニ於ケル協力ト特惠待遇トヲ維持増進シ及國際聯盟ヲ支持シテ國際間ニ於ケル平和ト善意トヲ期ス

二、「インター」阿弗利加政策

南阿聯邦カ直面シツアル重大問題ノ多數ハ亞弗利加ニ於ケル隣接諸國トノ協調ニ依リ最善ノ解決ヲ得ヘキカ故ニ其ノ關係ヲ一層密接ナラシムルコトヲ目的トシ特別ノ友交關係ト通商トヲ増進スルノ政策ヲ主張ス

三、選舉權擴張

婦人ニ對シ選舉權ヲ附與スルコトヲ期ス

四、土民問題

總テノ土民問題ノ公正ナル處置、土民カ現有スル諸權利ノ尊重、土民特別地域ノ開發及利用法ノ改善、土民自治制ノ擴張、都市ニ於ケル土民區及土民移轉ニ對スル管理ノ改善ヲ期ス

五、亞細亞人問題

亞細亞人移民制限ノ持續ト母國送還ニ對スル政府補助ノ存續トヲ期ス

六、官吏任用問題

清廉ニシテ能率アル政治ヲ期シ緣故者ヲ官吏ニ任用シ或ハ官吏ヲ遇スルニ政黨的差別ヲ以テスルカ如キハ斷然之ニ反對ス官界以外ヨリノ任用ニ對シテハ特種ノ職業的若クハ技術的資格ヲ必

要トスル場合ヲ除キ強ク反對ス

七、社會政策

總テノ階級ニ對スル社會的正義ノ政策ヲ主張シ產業協調政策ト之カ具體化セル協調法トノ維持、養老年金制度ノ維持、失業並勞動能力喪失ニ對スル保險制度ノ採用、賃銀法ノ適用制限、國家的住宅政策ノ強調及ヒ技術、工業及商業教育ト工業及農業ノ發達トニ依ル就職機會ノ増加ヲ期ス

八、土地政策

聯邦内ニ於ケル農業資源及灌溉ノ積極的開發、積極的植民政策、既植土地ニ對スル公正ナル價格評價、土地ニ對スル前貸ニ依ル農場所有權ノ迅速ナル増加、内外市場ノ改善、農業ノ獎勵等ヲ期ス

九、移民問題

歐羅巴人々口ノ増大ヲ圖ル爲メ旅費ノ低減、移民ノ選擇及ヒ教育、土地買收ニ對スル便宜供與等組織的移民政策ヲ主張ス

一〇、鑛業政策

鑛業カ農業ニ亞ク第二ノ基礎的産業ニシテ大ナル人口ヲ維持シ國家ノ一般的進歩ト財政トニ顯著ナル寄與ヲ爲シツツアルコトヲ認メ現存鑛山ノ生命ヲ延長シ適當ナル勞力供給ヲ確保スルノ手段ヲ講シ新鑛山ヲ開拓シ洪積層鑛業ノ組織ヲ改善シ「ダイヤモンド」ニ關スル新法令ニ基因スル正當ナル苦情ヲ除去スルコトヲ期シ又主義上國家カ直接鑛山ノ開發ヲ爲スコトヲ反對ス石炭及「オイル、シェール」ノ廣大ナル資源ヲ開發スル爲メ輸出ノ獎勵ノミナラス「オイル」其他石炭生産品ノ製造ニ對シ補助ヲ爲スコトヲ期ス

一、工業政策

關稅其他ニ依リテ南阿ノ工業ヲ助長スル爲メ公正妥當ニ考案セラレタル保護政策ヲ主張シ又民間ニ於ケル自發的企業ヲ獎勵シ政府ハ必要ナル監督ヲ爲スノ外最少限ノ干涉ニ止ムヘキコトヲ期ス

一二、生活費

工業政策ニ支障ナキ限り生活費ヲ低減スル爲メ關稅及ヒ一般課稅ノ低減ヲ期ス

一三、鐵道政策

鐵道體系ノ現況ヲ以テ不満足ナルモノト思惟シ一般的開發ヲ一層増進セシムル爲「ビジネス」

ヲ原則トスル鐵道ノ經營竝ニ奧地ノ開發ニ關スル南阿憲法ノ規定ヲ實行スル爲及自動車運輸利用ノ完全ヲ期スル爲鐵道政策ノ建直ヲ期ス

一四、州議會廢止問題

現在ニ於ケル複雑ナル州議會ノ制度ニ就テハ檢討ノ必要ヲ認ムルモ一層満足スヘキ地方政治形態ノ考案ハ慎重ナル態度ヲ以テ爲ス可ク其ノ州ノ「レフェンダム」カ廢止ヲ可トシタル場合ノ外州議會ハ廢棄スヘキモノニアラサルコトヲ主張ス

一五、道路政策

國有鐵道基金ヲ以テスル國有道路政策ヲ主張ス

一六、科學的研究

科學ノ實際的應用ハ國家ノ農業其他ノ資源開發ニ最モ必要ナルカ故ニ科學研究組織ノ改善並ニ充分ナル資金ヲ有スル科學探究ノ包括的計畫ノ實施ヲ期ス

一七、自然資源

自然資源及海洋資源ノ保存開發、河川資源及森林ノ保護、表土流失ノ防止及土地ヲ經濟的ニ利用シ得ヘキ其他ノ手段ヲ講スルコトヲ期ス

(ロ) 國民黨ノ態度

南阿聯邦總理大臣ニシテ國民黨總理タル「ハーツォーグ」將軍ハ一月四日「ケーブ」州「ヴィクトリヤ、ウエスト」ニ於テ來ルヘキ總選舉ニ對スル演説ヲ試ミ自黨ノ態度ヲ明示セルカ其大要左ノ如シ

國民黨政綱

一、野黨南阿黨ノ政綱

昨年十二月七日ノ大會ニ於テ決定公表セル南阿黨ノ政綱ヲ觀ルニ他政黨ノ政綱中無難ナルモノノミヲ無定見ニ羅列シタルモノニ過キスシテ何等新味ナク國民黨ノ果敢ニシテ實行力アルニ比スヘクモ非ス

二、土民問題

余ハ土民事務大臣トシテ土民問題ノ甚タ重大ニシテ解決容易ナラサルヘキコトヲ思ヒ努メテ之ヲ政争外ニ置キ大局ヨリ公正ナル解決ヲ爲スコトヲ期シ此ノ諒解ノ下ニ南阿黨領袖等ト共ニ前議會以來特別委員會ニ於テ本問題ニ關スル協議ヲ繼續シ來レリ然ルニ南阿黨カ突然此諒解ヲ放棄シテ土民問題ヲ政争ノ渦中ニ投セムトスルハ吾人ノ意表ニ出ル所ナリ若シ南阿黨カ總選舉ノ結果政權ヲ得テソノ土民政策ヲ實施スルニ至ラムカ南阿ニ於ケル白人文明ハ危殆ニ瀕スヘシ

吾人ハ後生子孫ノ爲メニ誓テ白人文明ノ擁護ヲ爲ササル可カラス總選舉戰ハ白人文明擁護ヲ中心トシテ展開スヘシ

三、労働黨ノ關係

余ハ過去五ケ年間ニ於ケル労働黨總理「クレスウエル」氏及黨員ノ援助ニ對シ常ニ深甚ノ感謝ヲ爲シ居ルモノナリト雖モ來ルヘキ總選舉ニ於テハ何等政策上ノ妥協ヲ爲スモノニ非ス國民黨ハ國民黨ノ政策ヲ以テ労働黨ハ労働黨ノ政綱ヲ翳シテ各自選舉場裡ヲ馳驅スヘシ總選舉ノ結果若シ國民黨カ絶對多數ヲ獲得シタル場合ハ單獨ニ國民黨内閣ヲ組織スヘク若シ完全ナル勝利ヲ得スシテ内閣ヲ組織スルカ如キ場合ニハ五年前ニ於ケルト同様労働黨ノ援助ヲ求メ政策上ノ協定ヲ爲スコトアルヘシ然レトモ來ルヘキ選舉戰ニ於テ我黨ハ獨自ノ政策ノ下ニ勇往邁進スルノミ

(二) 總選舉結果

總選舉結果

南阿聯邦ノ總選舉ハ六月十二日ニ舉行セラレタルカ其結果國民黨七八名、南阿黨六一名、政府派労働黨五名、反政府派労働黨三名、獨立黨一名トナレリ

第三項 新内閣ノ成立

新内閣

總選舉ノ結果國民黨ハ絶對多數ヲ得ルニ至タリシモ其差僅ニ八ナルヲ以テ政局ノ安定ヲ期スル爲
勞働黨トノ聯立ヲ繼續スルコトニ決シ二十日内閣ヲ組織セリ

新内閣ハ國民黨九名勞働黨二名ヨリ成リ其顔振左ノ如シ

總理大臣兼外務大臣 「ハーツォーグ」(Gen. J. B. M. Hertog) (國民黨)

大藏大臣 「ハベンガ」(N. C. Havenga) (國民黨)

内務大臣兼文部大臣兼保健大臣 「マラン」(D. F. Malan) (國民黨)

土地大臣 「グロブラー」(P. G. W. Grobler) (國民黨)

國防大臣兼勞働大臣 「クレスウエル」(F. H. P. Cresswell) (勞働黨)

司法大臣 「ピロー」(O. Prow) (國民黨上院議員)

鑛工大臣 「ペーヤース」(F. G. Beyers) (國民黨)(八月一日辭任シ「フォリ」
(Fourie) 就任セリ)

鐵道港灣大臣 「マラン」(G. W. Malan) (國民黨)

農務大臣 「ケンブ」(J. C. G. Kemp) (國民黨)

逓信大臣兼土木大臣 「サムプソン」(H. W. Sampson) (勞働黨)

土民事務大臣 「ジャンセン」(E. G. Jansen) (國民黨)

第四項 新議會ノ開會

新議會開會

新議會タル第六次議會ハ七月十九日開會會期一ヶ月其間大ナル波瀾モ無ク八月十六日其第一會期
ヲ終了セリ新議會カ總選舉後急速ニ其召集ヲ見ルニ至リタルハ八月以降ノ本年度歳入歳出豫算案
審議ノ爲ナルモ後述ノ如ク上院ノ解散ヲ斷行シテ有利ナル展開ヲ求ムルヲ其政治的理由トスヘ
シ

第五項 上院ノ解散及選舉

上院ノ解散

聯邦議會上院ハ反對黨ノ政權掌握時代ニ成立セル爲メ政府ニ取り不利ナルヲ免レス從テ政府力之
ヲ八月末日以前ニ解散シ總選舉後ノ優勢ナル地位ヲ利用シテ之ヲ有利ニ改造セムトスル意圖ヲ有
セルコトハ政界一般ノ夙ニ觀測セル處ナリシカ上院ハ八月十九日付總督令ヲ以テ解散セラレタリ
(註一)

選舉ノ結果

斯クシテ南阿聯邦上院議員中官選議員八名ヲ除キタル議員三十二名ノ選舉ハ九月六日各州一齊ニ
行ハレタルカ其結果國民黨一七名南阿黨一五名ノ當選(註二)ヲ見タリ
尙官選議員八名ハ國民黨ヨリ七名勞働黨ヨリ一名夫々任命セラレタル結果上院ノ政黨的分野ハ國

民黨二四勞働黨一（即與黨二十五）南阿黨一五（野黨）トナレリ

（註一）聯邦議會上院ハ南阿聯邦ノ憲法タル南阿法（the South Africa Act）第二十四條ニ依リ總督ノ指名スル議員八名、聯邦四州ヨリ選出セラルヘキ議員各州八名、合計四十名ヨリ成リ議員ノ任期十ヶ年ノ規定（南阿法第二十四條）アルモ一九二六年以上院法（the Statute Act, 1926）ニ基キ南阿總督ハ同南阿法ノ規定ニ拘ラス下院解散後百二十日以内ニ上院ノ解散ヲ命スルコトヲ得今回ノ措置ハ其適用例トス

（註二）各州別上院議員選舉結果左ノ如シ

	國民黨	南阿黨	計
「ケープ州」	四	四	八
「トランスヴァール州」	五	三	八
「ナタール州」	〇	八	八
「オレンヂ、フリー、ステート州」	八	〇	八
計	一七	一五	三二

右選舉ニ於テ國民黨ハ「ケープ」及「トランスヴァール」兩州ニ於テ豫想以上ノ結果ヲ示セリ

第二款 對英關係

第一項 國民黨ノ態度

國民黨ノ態度

現時政權ヲ掌握シ居レル國民黨ハ野黨タル南阿黨カ主トシテ英人系ニヨリ構成セラレ英本國ニ忠

トランスヴァール州國民黨大會

順ナラムトスル傾向アルニ反シ關係人種ノ利益ヲ代表シ常ニ南阿第一主義ヲ標榜シ其黨首「ハーツォグ」ヲ首班トスル現内閣ト共ニ諸般ノ政策並施政ニ付其ノ主義ノ表現ヲ試ミツツアルカ本年十月首府「プレトリア」ニ開催セラレタル「トランスヴァール」州國民黨大會ニ於ケル左記議事ノ如キ其黨是ノ一發露ニシテ同黨ノ對英態度ノ一斑ヲ窺知シ得ヘシ

（一）聯邦總督問題

「次期南阿總督ハ南阿聯邦市民ヨリ選任スヘシ」トノ決議ハ九月「ケープ」州國民黨大會ニ於テ可決セラレタルカ「トランスヴァール」州國民黨大會モ亦同一ノ決議ヲ討論ヲ用キスシテ可決セリ今後此ノ問題ハ「オレンヂ、フリー、ステート」及「ナタール」兩州國民黨ノ議事ヲ經近キ將來ニ於テ國民黨ノ具體的一政策ニ化シ對英關係ニ微妙ナル影響ヲ及ホス可能性アルヘシ

（二）「ブリヰ、カウシル」上告廢止問題

「ブリヰ、カウシル」上告廢止論ハ從來國民黨員中南阿ノ獨立ヲ要望スル者ニヨリ屢唱道セラレタル所ナルカ「トランスヴァール」州國民黨大會ニ於テモ亦南阿聯邦ニ關スル限リ「ブリヰ、カウシル」上告ヲ廢止スヘシトスル動議ノ提出アリ右動議ニ對シ黨首「ハーツォグ」首相ハ「本問題ハ最近倫敦ニ於テ各自治領代表者ニ依リテ開催

セラルヘキ法律専門委員會ニ於テ討議セラルヘク從テ本大會ニ於テ右動議ノ如キ決議ヲ爲スコトハ望マシカラス一九二六年帝國會議ノ結果ニ依リ英本國政府ハ「ブリッヂ、カウンシル」ノ構成ヲ改メ各自治領モ其ノ代表ヲ參加セシムルコトトセリ故ニ「ブリッヂ、カウンシル」ハ英本國ノミノ「コート」ニ非ラスシテ全英聯邦ノ「コート」成ルヘシ南阿ノ地位ハ之ニ依リ低下セルニアラス南阿ハ世界ノ國ニ對シ劣等ノ地位ニ立ツモノニアラス」ト説ケリ

對英態度
批判

右「ハーツォーグ」將軍ノ言説ハ南阿聯邦カ第十回國際聯盟總會ニ於テ國際司法裁判所規程撰擇條項ニ署名スルニ際シ「グレート、ブリテン」、加奈陀、濠洲、「ニュー、ジーランド」、印度等ト共ニ「英帝國諸邦間ノ問題ハ撰擇條項ノ適用ヨリ除外ス」トノ保留ヲ附シタル事實ヨリ推シ將ニ當然ノ論理ニ過キス惟フニ南阿聯邦ハ獨立國タルノ權利及面目ノ維持ニ就テハ飽ク迄之ヲ主張スルモ英帝國圏外ニ脱出シテ迄徹底的獨立ヲ圖ラムトスルモノニハ非サルカ如ク即チ首相「ハーツォーグ」將軍ハ一九二六年帝國會議ニ於テ南阿聯邦カ英本國ト同一ノ「ステータス」ヲ承認セラレタルコトヲ以テ南阿人多年ノ宿望タル獨立ハ茲ニ完全ニ達成セラレタルモノナリト唱ヘ居リ爾來其ノ獲得シタル獨立權ニ基キ獨立國トシテノ體裁ヲ整ヘ内容ヲ充實スヘキコトヲ高唱シ且ツ着々之ヲ實現シツアル一方全英聯邦タル獨立國家ノ集團ヨリ脱退スルコトナク國際關係ニ於テハ其ノ獨立

權ヲ犯サレサル限り英本國初メ英帝國諸邦トノ間ニ協調ヲ保チツツ其ノ一員タル利益ヲ享受セムトスルモノノ如シ

第二項 英阿通商關係

駐英代表
者ノ演説

四月九日南阿聯邦ノ駐英「ハイ、コム、ミッシェ、ナー」「エリック、ロウ」ハ倫敦南阿午餐俱樂部ノ午餐會ニ於テ南阿ト英國トノ關係ニ關シ大要左ノ演説ヲナセリ

イ、余ハ南阿弗利加ノ利益ヲ第一ニ置クモ右ヲ以テ利己的ト見ルコトナク余ハ出來得ル限り英國政府ト協力センコトヲ希望ス

ロ、南阿弗利加ニ於テ英國人系ト和蘭人系トノ間ニ惡感情存在シ互ニ相爭ヒ居レルカ如ク傳ヘラレ居レルモ從來ノ歴史ニ鑑ミ一部ノ問題ニ付意見ノ相違ヲ生スルハ當然ニシテ之ヲ以テ惡感情存在シ良好ナル同胞主義及善意ヲ排斥セントスルモノト考フルハ誤レリ

ハ、南阿ト獨逸トノ通商條約(註)ニ關シ之カ親獨的感情及同情ニ依ルモノノ如ク述フルモノアルモ右ハ事實ニ反スル所ニシテ余ハ首相其ノ他諸大臣カ本條約ノ商議ニ際シ英國ニ優先シテ獨逸ニ利益ヲ與フルカ如キ意圖ヲ毫モ有セサリシコトヲ熟知シ居レリ本條約締結ヲ見タル唯一ノ動機ハ南阿生産品ノ市場開拓ニアリ一九二五年ノ法律ニ依リ英國ニ與ヘタル特惠ハ充分

ニ保障セラレアルヲ以テ該條約ノ結果英國ヲ輕視スルモノノ如ク見ルハ全然誤レル見解ナリ
又二年内ニ獨逸ニ與ヘラレル特惠ニ對シ英國ハ自動的ニ均霑シ得ルコトニナリ居レリ英國ニ
於テ本條約ニ反對スル爲南阿ニ對シ「ポイコウト」其ノ他復仇爲ニ出テントスル威嚇行ハ
レンニハ英帝國內ノ統一及協力ヲ害スルコト大ナルヘシ

ニ、本年三月三十一日ニ至ル一年間ニ南阿ハ英國ヨリ三百十萬二千磅ヲ購買シタルニ反シ全歐
洲ヨリ購買シタル額ハ八十二萬六千磅ニ過キス南阿ノ購買ハ感情ニ依リテ左右セラレス同質
ノモノカ廉價ニテ買入レラル市場ニ於テ之ヲ求ムルモノナリ

(註) 南阿ト獨逸國トノ通商條約ハ幾多ノ論議ヲ經テ三月一日法律トナリタル結果獨逸ハ南阿ニ於テ英帝國ノ特惠待
遇ニ均霑スル等特殊ノ利益ヲ享受スルコトナリ南阿ノ對外國通商關係ト劃史的事實ヲ呈示セルカニ力爲メ南阿
及英國ニ於ケル貿易業者並英帝國主義者ヨリ熾烈ナル反對ヲ惹起シ論議ノ對象トナレリ

第三項 駐英南阿代表者ノ地位

駐英南阿「ハイ、コムミッシヨナー」「エリック、ロウ」ノ後任者「チャールス、テイ、ウオーター」ハ
「デ、バーガー」紙通信員ニ對シ其任務ハ通商關係ニ在ルノミナラス特命全權公使タルノ使命ヲ
モ帶フヘキ旨ヲ語リタルカ果シテ南阿代表者カ全權公使タルノ名稱ノ下ニ英國ニ派遣セラルヘキ
ヤ否ヤハ英國皇帝カ南阿聯邦ノ君主タル關係上甚タ疑シキモ聯邦現政府カ其駐英代表者ヲシテ外

英國政府
ノ見解

交的使命ヲモ帶ハシムルノ外米佛獨蘭等ニモ外交代表者ヲ派遣シ以テ南阿ノ獨立ヲ中外ニ標榜セ
ント企圖シツツアルハ蓋シ事實ナルヘシ

既ニ南阿聯邦政府諸機關紙ハ同政府カ諸國ニ對シ公使駐派ヲ決シテ以來其駐英代表者ノ「ステ
ラス」カ諸國駐派代表者ニ比シ權衡上甚タ不満足ナリトシテ英本國ニ對シテモ特命全權使節ヲ派
遣スヘキヲ論シ來レルモ新任「ハイ、コムミッシヨナー」「シー、テイ、ウオーター」ノ歡迎會席上ニ
於テ前任「ハイ、コムミッシヨナー」「エリック、ロウ」亦之ニ言及セルカ之ニ對シ英國自治領事務大
臣「バスターフィールド」卿ハ同席上ニ於テ

「英本國ハ南阿ニ駐劄スル其代表ヲ單ニ「レブレゼンタティブ」ト稱シ「ハイ、コムミッシヨナー」ノ
名稱ヲモ之ニ與ヘス南阿聯邦ハ勿論世界ニ於ケル國家團體ニ完全ナル國際單位ヲ占ムルト雖モ同
時ニ又全英聯邦ノ完全ナル一員ナリ余ハ南阿カ英國ヨリ外國視セララルコトヲ希フモノトハ信セ
ス又吾英本國ハ南阿ヲ外國視スルコトヲ欲セス」
ト應酬セリ

南阿政府
ノ見解

尙駐英南阿代表者ノ地位ニ關シ在野黨タル南阿黨々首「スマッツ」將軍ヨリ質問アリタルニ對シ
八月八日下院豫算委員會ニ於テ首相「ハーツィーグ」將軍ハ「駐英代表者ノ名稱ニハ變更無シ然レ

トモ同代表ハ南阿聯邦ノ通商關係ヲ監視スルト同時ニ南阿聯邦ノ外交代表トシテ行動スヘク又其資格ニ於テ通牒其他文書ハ受理スルノ權能ヲ有スルコトハ宛モ全權公使ト異ラサル」旨答辯セリ

第四款 對 外 關 係

第一項 外交使節交換ニ關スル聯邦政府ノ見解

八月五日下午院ニ於テ反對黨總務「ダンカン」ノ公使派遣問題ニ關スル質問ニ對シ「ハーツォーグ」首相ハ其應酬中

首相ノ言

「南阿ハ英國ト同等ノ地位ニ在ル獨立セル主權國ナリ吾々國民黨ハ獨立自由ノ國家トシテ統治スヘキコトヲ常ニ唱道シ來レリ吾人ハ他ノ獨立自由ノ國家ト同様ニ行動スルモノニシテ必要ニ應ジ公使ヲ派遣スルモノナリ」

ト述ヘ超ヘテ八月七日豫算委員會ニ於ケル反對黨首「スマツ」將軍ノ質問ニ對シ同首相ハ「スマツ」將軍ノ特命全權公使海外派遣ノ必要アリヤトノ質問ニ對シ余ハ絶對必要ナリト應フルニ躊躇セス南阿カ公使ヲ派遣スルノ理由ハ他列國ニ於ケルト全く同一ナリ南阿產物ニ對スル市場ヲ將來ニ於テ維持開拓センカ爲ニハ通商關係國ト友好ナル關係ニ在ルヲ要ス全權公使派遣ノ目的

ハ南阿聯邦ト此等諸國トノ友好關係ヲ確保スルニ在リ徒ラニ英國ノ庇護ニ賴ラムトスルカ如キハ外國ノ尊敬ヲ獲ル所以ニ非ス南阿政府ハ南阿ノ爲ニ犬馬ノ勞ヲ執ラントスル英國外交機關ノ好意ヲ多トスルモ南阿人ハ寄生者ニ非ス又英國官吏ニ對シ依頼シ難キ事項無キニ非ス友好ナル外國ニ對シ適當ナル代表者ヲ派遣スル爲僅々數萬ノ金ヲ惜ムカ如キハ國威ヲ顯揚スル所以ニ非ス特命全權公使ヲ友好國ニ派遣スルハ國家的義務ナリ」ト答辯セリ

第二項 外交使節ノ交換

(一) 對 和 蘭 國

公使ノ任

南阿政府ハ和蘭國ト歴史の文化的乃至政治經濟的ニ密接ナル關係ニアルニ鑑ミ在「ミラン」商務官「ド、ヴィリエールス」ヲ駐蘭公使ニ任命シ公使ハ七月十日和蘭國女皇ニ信任狀捧呈セリ

和蘭國側ニ於テモ外交代表者派遣ニ決シ既ニ七月二十二日「アムステルダム」ニ於ケル和蘭南阿協會主催南阿公使歡迎會ノ席上ニ於テ和蘭國外相ハ既ニ南阿政府ヨリ蘭國公使ヲ迎フルヲ衷心希望スル旨ノ回答ニ接シ英國政府モ亦之ヲ諒承シタル旨ヲ述ヘ尙ホ一九三〇年度外務省豫算案ニ對スル大臣ノ答書中ニモ在「ブレトリア」總領事館ヲ公使館ニ昇格セシメ經費ノ都合上同地ノ領

「デ、バーガー」紙ノ論旨

事事務ヲモ兼ネシムル旨説ケルカ年末在「ブレトリア」和蘭國總領事タリシ「ロレンツ」博士(Dr. Laurent)公使ニ任セラレ十二月三十日聯邦總督ニ信任狀ヲ捧呈セリ同公使ノ任命ニ關シ「デ、バーガー」紙(蘭系)ハ之カ歴史的重要性ヲ説キ公使交換ハ當該國カ國際法上對當ノ地位ニアルコトヲ先決要件トス今回蘭、伊、米諸國カ南阿公使ヲ承認シタルコトハ即チ南阿聯邦カ右要件ヲ具備セルコトヲ裏書スルモノニシテ殊ニ和蘭國カ米、伊ニ先チ特命全權公使ヲ駐在セシムルニ至リタルハ和蘭國カ南阿ヲ目スルニ獨立國ヲ以テスル證左ニ外ナラスト爲シ次ニ新任「ロレンツ」公使ニ對シ個人的ニ其ノ昇進ト當國駐在首席公使タルヘキヲ祝福シ最後ニ和蘭國カ嘗テ南阿共和國最初ノ承認者タリシカ如ク今回亦諸國ニ先チ信任狀ヲ捧呈セルコトヲ多トシ之ヲ機會ニ兩國親善關係ノ一層促進セムコトヲ希望シタリ

(二) 對伊太利國

公使ノ任 七月十二日「ブレトリア」發通信ハ駐伊商務官トシテ國民黨院內幹事長「ピナール」(P. T. Pinard)ノ任命決定シタル旨報シタルカ其後「ピナール」ハ公使トシテ羅馬ニ赴任セリ
尙在「ケープタウン」伊國總領事ハ南阿駐劄伊國公使ニ任命セラレタルモ本年內ニ未タ信任狀ヲ捧呈スルニ至ラス

(三) 對米國

公使ノ任 紐育「タイムズ」八月七日發華府通信ハ既ニ米國ト南阿聯邦トノ間ニ公使交換ノ約成レルヲ報シタルカ同九日南阿政府ハ「ロウ」(L. H. Row) (元在紐育南阿聯邦貿易代表在英「ハイ、トレイド、コムミッショナー」)ヲ駐米公使ニ任命セル旨公表シ十一月五日同公使ハ大統領ニ信任狀ヲ捧呈セリ

右信任狀捧呈式ノ現狀ヲ報道セル新聞殊ニ「デ、バーガー」紙(蘭系)ハ之ニ「コメント」ヲ加ヘ右捧呈式舉行ニ際シ駐米英國大使敢テ侍立セス「ロウ」公使自ラ米國政府ニ諸般ノ手續ヲ取付ケ米國關係國務大臣カ「フリーヴァー」大統領ニ紹介スルノ任ニ當リタル事情ハ駐米外交團ニ異狀ノ「シヨック」ヲ與ヘ當國ノ獨立性ノ爲ニ氣ヲ吐ケルモノナリトセリ

第三項 聯邦總領事ノ任命

總領事ノ派駐 南阿聯邦政府ハ葡領東阿弗利加「ローレンソ、マークス」駐劄總領事トシテ首相祕書官「ステイン」ヲ任命セリ

聯邦政府カ其ノ選外代表者ニ總領事ナル名稱ヲ附與シタルハ之ヲ以テ嚆矢トシ米伊蘭諸國ニ對スル公使任命ト共ニ南阿聯邦對外關係ニ於ケル劃期的事實ナリト稱スヘシ

抑々荷領東阿ニ於ケル南阿聯邦ノ利益ハ初メ英國政府ノ任命セル「ローレンソ、マークス」駐劄
 總領事ニ於テ管轄シ來リシカ兩國ハ地域相接シ居レル關係上政治、通商、産業上ノ關係事務密接
 且頻繁トナレルニ伴ヒ聯邦政府ハ「エージェント」ヲ任命シ直接聯邦政府ノ諸機關ヲ代表シ葡領
 東阿當局トノ間ニ於ケル事務ノ處理ニ當ラシメ來レリ然ルニ右「エージェント」ハ今日マテ同地駐
 劄英國領事ノ兼任ナリシ爲メ南阿聯邦ノ完全ナル獨立ヲ「モットー」トスル現政府ハ葡領東阿關
 係ニ於テモ多少トモ英國ノ羈絆下ニ在ルカ如キ觀アルヲ快シトセス特ニ自國任命ニ係ル總領事ヲ
 派駐シ以テ英國トノ關係ヲ一層明確ナラシメタルモノノ如シ

第三章 印度

第一節 概 說

概 說

印度統治法改正問題ハ其審査委員會(「サイモン」委員會)ノ成立以來愈々重大ヲ加ヘ本年ニ入リ
 問題ニ關聯スル幾多事象ノ簇生ハ其ノ前途尙多難ナルヲ示セリ

「サイモン」委員會ハ前年秋以降第二次ノ現地調査ヲ續行シ六ヶ月ノ日子ト一萬四千哩ノ旅程トヲ
 經テ四月十三日歸英シ爾來其ノ勞作ノ完成ニ努力シ居リ又同委員會ノ援助機關タル印度中央委員
 會ハ十月報告書ヲ完了セリ

印度總督「アーウイン」卿ハ英國政府ノ六月ニ於ケル政變ニ伴ヒ印度問題打合ノ爲メ六月任地ヲ
 發シ倫敦ニ於テ英國首相及主務當局等ト會商シ十月末歸任後直ニ聲明書ヲ公表シテ英國ノ意圖カ
 自治領ノ地位ノ達成ニアルヲ説キ印度代表者トノ圓卓會議ヲ開催スヘキコトヲ明示セリ

之ヨリ曩キ二月土侯國會議ハ土侯諸州カ英國ヨリ別離セントスル解決案ヲ峻拒スルノ態度ヲ明白
 ニシ又政府ハ四月治安維持令ヲ公布シテ運動ノ激化ニ備フルニ至レルニ反シ國民會議黨ハ排英運
 動ニ邁進シ十二月末「ラホール」ノ大會ニ於テ各種ノ具體的反抗策ヲ決議シ他方回教徒其他少數

種族ノ異見竝其主義ノ擡頭等ハ政情ヲ愈々混沌タラシメ問題ノ前途豫斷シ難キ狀況ニアリ
年度内國境地方ハ平穩ニ過キ雨量亦各地ニ佳良ナリシモ九月「インダス」河ノ氾濫ハ「シンド」
地方ニ甚大ナル損害ヲ與ヘタリ

第二節 内 政 關 係

第一款 印度統治法改正問題

印度統治組織ノ改正問題ハ從來屢々論議ノ對象タリシカ一九一九年印度統治法ノ豫定セル其改正
ノ時期カ愈々明一九三〇年ニ迫リ來リシ爲メ印度人ハ此際參政權ノ擴張ヲ計リテ自治ノ基礎ヲ鞏
固ナラシメントシ言論ニ於テ直接行動ニ於テ意思表示ヲ試ミ他方政府ハ此力對策ヲ講シツ、送年
スルニ至リタルカ本年内ニ於ケル問題ノ推移ヲ概説スルニ左ノ如シ(註)

(註) 本年末ニ至ル迄ノ本問題經過ハ歐米局第二課編歐米政情研究資料(第十二輯)印度統治法改正問題ニ詳説セルヲ以
テ本項ハ單ニ約説ニ止ム

第一項 年初議會ニ於ケル總督ノ辭

總督ノ辭 一月二十八日總督ハ「デリー」ニ於ケル議會開會ノ辭ニ於テ統治法改正問題ニ言及シ大要次ノ如
ク述ヘタリ

「印度統治法改正問題ノ圓滿ナル解決ハ英印兩國ノ和衷協力ニ俟タサルヘカラサルニ拘ラス最
近「インディアン、ナショナル、コンGRESS」ニ於テ本年末迄ニ印度カ自治領タルヲ許可セラレ
サルニ於テハ明年ヨリ非協同運動ヲ再開スヘシト決定セルハ偏狹ニ失シ政治家的態度ニアラス
如斯ハ英國議會ヲ他人ノ決定ニ盲從セシムトスルモノニシテ議會トシテハ其ノ責任上斯ル見
地ヲ甘受シ得ヘキモノニアラス

尙印度人中ニハ英國政府ハ一九一七年「モンターギユ」氏ノ爲セル聲明(註)ヲ實行スル誠意ナ
シトノ疑惑ヲ表明スルモノ鮮カラス余ハ本議會ヲ通シ印度人全般ニ對シ同聲明ハ英國國民ノ嚴肅
ナル誓約トシテ今モ尙變ルコト無ク英國國民カ此約ヲ履行セサルモノト知ラハ余ハ總督トシテ今
日茲ニ立ツヲ得サルモノナリ」

(註) 「モンターギユ、チエルムスフォート」報告書ハ行政各部ニ於ケル印度人ノ參與ヲ増加シ又自治制度ヲ漸進セシメ
將來英帝國ノ一分子トシテノ責任政府樹立ニ至ラシメントシ内容トシ英國對印政策ノ劃期的展開ヲ策セル文書
トス

第二項 「サイモン」委員會ノ活動

第二次ノ 印度訪問 「サー、ジョーン、サイモン」ヲ長トスル印度統治法審査委員會ハ昨年十月第二次ノ印度訪問ヲ行ヒ
各地方ヲ巡歴シテ調査ノ歩ヲ進メ三月七日委員長「サイモン」卿ハ「オータカマンド」ニ於テ「本

委員會カ將來ノ憲法立案ニ對シ英國議會ニ公正ナル報告會ヲ提出スル任ヲ帶ヒ而モ報告書提出ニ伴ヒ印度カ協力ヲ與フヘキ機會ノ存スヘキヲ告ケ問題ノ處理ニ當リ英印協力ノ喫緊ナルヲ説キ委員會ノ使命ヲ明ニシテ印度國民一部ノ見解ノ謬レルヲ指摘セリ

同委員會ハ排英運動ノ熾烈裡ニ調査ヲ續行シ七百餘ノ意見書ヲ收受シ三百餘ノ證言ヲ徵シテ其調査研究ヲ終ヘ四月四日「サイモン」卿ハ「デリー」ニ於ケル訣別ノ辭ニ於テ印度、加奈陀ノ比較論ヲ試ミ「事情ノ相違ニヨリ聯邦制度ハ印度ニ適セサルヘク自治ニ關スル規定ノ漸次的發達ニヨリ相當期間内ニ完全ナル自治ヲ得ルヲ可トス」トノ趣旨ヲ述ヘ次テ同委員會一行ハ同十三日孟買ヨリ歸英ノ途ニ就ケリ

第三項 印度土侯國問題

(一) 印度獨立論ト土侯ノ態度

「ビルマ」ヲ除ク印度總面積ノ三分ノ一其ノ總人口ノ四分ノ一ヲ占ムル七百有餘ノ土侯國カ將來ノ印度政治組織決定上頗ル重要ノ地位ヲ占ムルニ加ヘ獨立論ノ宣傳セラルル今日土侯國ノ態度ハ愈重要タルニ至レルカ土侯國ハ二月十三日「デリー」ニ會議ヲ開催シ決議ヲ發表シテ獨立ニ反對ナルヲ明白ニセリ

「デリー」決議ト其意義

土侯國ハ英國ノ庇護ノ下ニ其ノ國體ヲ維持シ一旦其ノ庇護去ラハ其ノ將來頗ル不安ナルモノアルニ鑑ミ土侯カ英國トノ關係離脱ヲ喜ハサルヘキハ想像ニ難カラサル所ニシテ今回ノ決議モ敢テ異トスルニ足ラサルヘキモ該決議ハ同會議ニ臨席セル印度總督ノ陳述セル如ク土侯會議カ今日迄討議セル事項中最モ重要ナル事案ニシテ該決議ハ會議ニ出席セル土侯等ノ意見タルニ止マラス印度土侯全部ノ意見ヲ代表スルモノト認メ得ヘク印度政局史上ノ一大事件タルヲ失ハサルヘシ

決議文要旨

該決議文ノ要旨左ノ如シ
「本會議ヲ組織スル土侯領主ハ英領印度ニ於ケル問題ニハ何等干涉スル意思ナク又其ノ政治的進步發達ニ同情スルモノナルヲ確言スルニ憚ラサルモ最近英國及印度政治家ノ一部カ完全ナル獨立ヲ目的トスルカ如キ聲明ヲ爲セルニ鑑ミ土侯領主ハ其ノ英國皇室トノ條約及公約ニ基ク相互的義務上土侯國ト英領印度トノ關係整理ヲ目的トスル提議ニ對シテハ其ノ英國トノ結合ヲ前提トスルモノニアラサル限り同意シ得サルコトヲ茲ニ記錄ニ留メントス」

(二) 印度土侯國委員會ノ報告

「パトラ」委員會報告書

印度土侯國委員會(通稱「パトラ」委員會)ハ土侯國ニ關シ宗主國タル英國トノ法律關係並英領印度トノ財政的及經濟的關係並其改善案ノ調査研究ヲ了ヘ二月十四日報告書ヲ印度事務相「ピ

ール」(Viscount Peel)ニ提出セリ

同委員會ハ其報告書ニ於テ英國ト土侯國トノ直接關係ヲ重視シ土候ノ主張ヲ支持シテ土侯國カ英領印度ニ隸屬スルカ如キ形式ヲ回避シタルカ其要點次ノ如シ

一、宗主國(英國)ト土侯國トノ關係ハ條約協定ニヨリ規律セラレ宗主國ハ土侯ノ承認ヲ得スシテ其ノ權利ヲ委讓シ得ス(報告書第五八項)

一、宗主國ハ主トシテ外交國防及干涉ノ三方面ニ活動シ外交ニ就テハ土侯國ニ協議スルヲ可トシ國防ニ就テハ最終決定權ヲ有シ土侯國印度全般ノ利益ノ爲干涉ヲ行ヒ得ヘキコト過去ニ徴シ明白トス(同第四五―五五項)

一、英領印度又ハ宗主國ト土侯國、土侯國相互間ノ共通利害關係ニ關シテ生スル重要問題ニ就テハ副王(Viceroy)ハ土侯國ノ利益ヲ代表スル委員ヲ含ム委員會ヲ設置シテ審査セシムヘシ(同第六九―七〇項)

其他報告書ハ官吏(第七五項)關稅制度(第八〇―八二項)鐵道管理(第八九―九三項)鑄貨(第九四項)公債(第九五項)鹽專賣(第九六項)等ニ關シ意見ヲ開陳セリ

土侯ノ態

次テ六月二十五日開催セル土侯會議ハ滿場一致ヲ以テ「バトラ」委員會報告書ニ對スル決議ヲ

爲セリ其ノ内容大要次ノ如シ

「土侯國委員會カ宗主權者ヲ英國王トシ英國及土侯國ハ其條約協定ニヨリ拘束セラレ宗主權ノ委讓ヲ禁シタル等ノ諸要點ヲ認メタルニ満足シ左ノ諸項ハ全印度ニ不利益ナル見解トシテ之ヲ

遺憾トス

- (イ) 英國王ノ權限ヲ明確ニ限定セサルコト
- (ロ) 英帝國ノ利益並時局變化ニ從ヒ土侯國ニ對スル干涉ヲ認メタルコト
- (ハ) 現行機關改善ノ要ヲ看過セルコト
- (ニ) 慣習及認許ヲ過重視シテ條約上ノ權利ヲ變更シ得ヘシトセルコト
- (ホ) 特許狀ノ性質ヲ區別セサルコト
- (ヘ) 一土侯國ノ慣行ヲ土侯國全般ニ適用シ得ルカ如キ見解ヲ有スルコト
- (ト) 全印度ノ利害事項ニ關シ土侯國ノ權利ヲ確保スル方法ヲ示サ、ルコト

第四項 印度中央委員會ノ選任

印度統治法審査委員長「サイモン」卿ハ昨年二月第一次印度訪問ノ爲孟買上陸ニ際シ總督ニ對シ該委員會ト協力スヘキ印度中央委員會ノ任命ヲ提言セルカ其後「サイモン」卿再度ノ懲通アリタ

中央及州
委員會ノ
成立

ル結果印度議會上院ハ九月二十日「サー、サンカラン、ネール」「サー、アーサー、フルーム」「ラジャ、ナワブ、アリ、カーン」ノ三議員ヲ選任セル外總督ハ「シーク」族代表ノ爲、上院議員「サルダル、バハブル、シブデブ、シング、ウベロイ」ヲ指名シ又下院ニ於テハ前會期ニ於テ本問題ニ關スル非協同ノ決議ヲ爲セル關係上下院自ラ委員ヲ選出セサリシモ總督ハ六名ノ下院議員ヲ指名シ各議員ハ何レモ其印度中央委員會ノ委員ヲ承諾セリ又各州議會ニ於テハ「スワラジスト」ノ反對アリタルニ拘ラス九州中八州（中央州ヲ除ク）ハ漸次「サイモン」委員會ニ協カスヘキ州委員會ヲ任命セリ

同報告書
ノ提出

爾來中央委員會ハ其調査ヲ開始シ十月十八日報告書ヲ總督ニ提出セリ

該報告書ハ多數委員ノ意見ト小數ノ見解トニ分レ居レルモ其多數派報告書ハ二部ヨリ成リ第一部ハ審査事項ニシテ統治組織ノ作用、教育ノ普及及代表制度ノ發達ニ關スル現況ヲ述ヘ第二部ハ勸告事項ニシテ地方ニ就テハ「シンド」及「ビルマ」ノ問題、州政府、州議會等ノ諸件、印度全般ニ就テハ統治組織、印度事務省、印度軍隊、最高裁判所ニ關スル諸件ニ關シ提案ヲ記セリ又各州委員會モ漸次調査ヲ了ヘ孟買、「ベンゴール」、「マドラス」、「バンジャブ」、「ビルマ」各州ハ八月十五日迄ニ其報告ヲ州議會ニ提示セリ

第五項 總督ノ十月聲明ト英國議會

十月聲明

六月英國勞働黨内閣成立ニ伴ヒ印度統治法改正問題協議ノ爲「アーウィン」總督ハ六月二十五日「シムラ」ヲ發シ英國ニ赴キ英國政府當局並各政黨首領ト意見交換ヲ行ヒ歸任セルカ其結果十月三十一日長文ノ聲明書ヲ發シ英國對印政策ノ最終目的ハ「ドミニオン、ステータス」ノ賦與ニアリ且「サイモン」委員會報告書完成後英國政府ハ英領印度及土侯國ノ代表者ト圓卓會議ヲ開催スヘキ旨ヲ宣言シタルカ右「ドミニオン、ステータス」ナル字句ハ俄然英國議會ノ問題トナレリ

上院ノ質問

十一月五日前印度總督「レディング」卿 (Marquess of Reading) ハ上院ニ於テ「アーウィン」卿ノ聲明カ「サイモン」委員會ノ諮問ヲ經ス又其報告ニ先チ爲サレタル理由及並ニ該聲明ハ對印政策ノ變更ヲ意味スルモノナリヤ否ヤ等ノ點ニ關シ政府ノ説明ヲ要求シタルニ對シ自治領植民地事務相「バスフィールド」卿ハ「ドミニオン、ステータス」ノ獲得カ印度統治ノ理想ナルハ歴代内閣ノ

下院討議

政綱ナル旨ヲ詳述セルヲ以テ「レディング」卿ハ右説明ニ満足シ其動議ヲ撤回シタリ、同七日下院ニ於テ「ポールドウィン」ハ「サイモン」委員會報告ノ完成ヲ待タスシテ政府カ斯ノ如キ重大ナル聲明ヲ爲セルハ時宜ニ適セサリシモ印度ニ自治政府カ確立セラレタルトキ印度ノ地位カ他ノ「ドミニオン」ニ比シ劣ルモノニ非サルハ明ニシテ印度ニ對スル同情ト援助ノ點ニ於テ保守黨ハ

決シテ人後ニ落ツルモノニ非スト論シ次テ「ロイド、デョージ」ハ今回ノ聲明ヲ見テ印度人ハ今ニモ自治領ノ地位ヲ獲得シ得ルカ如ク考ヘ居ル點ニ關スル政府ノ所見ヲ訊シタルカ印度事務相「ベン」ハ總督ノ聲明書ノ内容ハ從來ノ政策ヲ再言シタルニ過キサレコト右聲明ハ現ニ印度ニ於テ良好ナル反響ヲ醸シツツアルコト等ヲ擧ケテ之ニ應酬シ最後ニ首相「マクドナルド」ハ聲明書ノ内容ハ何等新政策ニ非ス今回コレヲ發表シタルハ印度ノ輿論ニ顧ミ不適當ニ非スト政府ニ於テ認メタルニヨル等ヲ説明シ討議ヲ終了セリ

第六項 印度輿論ノ歸趨

年度中開催サレタル印度各政派ノ會合ニ披瀝サレタル意嚮ニ徴シ印度多數政客ノ具體的草案ト見ル可キ「ネール」案(註一)ト「サイモン」委員會ノ將來ノ決定トニ對スル一般ノ態度ヲ見ルニ在印歐人團體ハ「ネール」案ヲ攻撃シ一ニ「サイモン」委員會ノ決定ニ期待シ居ルニ對シ印度人團體ハ「ネール」案ヲ支持スルニ傾キ居リ而モ該案カ獨立ヲ目標トスルヤ或ハ自治領タルヲ以テ満足スヘキモノトナセルヤハ多クノ印度人諸團體ニヨリ問題視セラルル所ナリシカ大體ニ於テ獨立ノ第一歩ハ先ツ自治領的地位ノ獲得ニ始メサルヘカラサルモノトナスノ說多數ヲ占メ之ニ對シ印度總督等政府側並ニ歐人團體ハ素ヨリ英國ヨリ離脫セントスルカ如キ方途ニハ贊成シ難キヲ說キ居リ

「ネール」案ニ對スル態度

更ニ回教徒ノ一部ニハ印度ヲ聯邦組織トナスヘントノ意見ヲ有スルモ回教徒ノ多數ハ「ネール」案ニ於ケル回教徒ノ保障充分ナラストナシ各種ノ條件ヲ附シテ之ヲ支持セリ

國民會議黨ノ態度

而シテ印度國民會議黨ハ排英運動ニ一歩ヲ進メ年末「ラホール」ノ會合ニ際シ印度カ獨立ヲ獲得スル迄議會ニ對シ「ボイコット」ヲ行フ外往年ノ非協同及ヒ租稅不納運動ヲ再燃セシメ政府ニ反抗スヘキ旨ノ「ガンデー」提案(註二)ヲ可決シ印度ノ前途ニ多大ノ波紋ヲ投セリ

(註一) 「サイモン」委員會ニ對シ「ボイコット」政策ヲ採レル全印度國民會議黨ヲ始メ印度各政黨及宗教團體ハ昨年五月孟買ニ於テ全黨派會議ヲ開キ印度憲法草案ノ起草ヲ「パンデット、モテイラル、ネール」ヲ長トスル委員會ニ附託シ起草委員會ハ昨年八月沿辭ナル成案(「ネール」案ト稱セラル)ヲ發表セリ該案ノ骨子ハ事實上政治ノ監督ヲ英國議會ヨリ印度ノ民選議會ニ移シ印度ヲシテ完全ナル自治領ノ域ニ達セシメントスルニ在リ即チ具體的ニ之ヲ示スニ印度總督及各州長官ハ英國皇帝ノ任命ニ係リ夫々印度議會又ハ州議會ニ對シ許否權ヲ有スル一方中央政府ニ總理及六名ノ大臣(地方政府ニハ總理及四名ノ大臣)ヲ置キ之ヲシテ議會ニ對シ責任ヲ負ハシムル制度ヲ樹立セントスルモノナルカ其他草案ハ陸海軍ノ統率權ヲ總督ノ手ニ置ク可キコト、上下兩院ヨリ成ル議會ノ創設、民權ノ確立、國防委員會ノ設置等各種ノ事項ニ互リ詳細ニ規定セリ次テ同年八月全黨派會議ハ「ネール」案ニ就キ討論ノ後之ヲ現在ノ政治的目標トナスヘキ成案ナリトシテ可決セリ

(註二) 「ガンデー」ハ一九二二年入獄以來政治運動ヨリ隱退シ居リシカ昨年末「カルカッタ」ノ全黨派大會ニ出席シ其後國民會議黨實行委員會カ「ガンデー」年來ノ主張タル白織布ノ獎勵、外國布ノ排斥ヲ政治的目的ノ達成方法トシテ採用シ「ガンデー」ハ同實行委員會ノ依頼ニヨリ該運動ノ指揮者トシテ實際運動ニ參加シ次々本年三月

四日夜、カルカッタニ於ケル外國布燒却事件ニ座シ逮捕セラレ印度ノ民心ニ衝動ヲ與ヘタリ、更ニ「ガンデイー」ハ八月「ラホール」ノ國民會議派準備委員會ニ於テ來ルヘキ大會ノ議長ニ選舉セラレシモ固辭シタルカ十二月二十六日「ラホール」ニ於ケル國民會議大會ニ於テ本提案ヲナシ可決サレタルニ次キ三十一日大會席上「ガンデイー」ハ總督暗殺未遂事件ニ關シ暴力否認ノ決議案ヲ提出セルカ該案カ辛ノシテ可決セラレタル事實ハ印度ノ騷擾カ「ガンデイー」ノ主張スル域ヲ超ヘ險惡ナル空氣ヲ包藏シ來リタルヲ察知セシメタリ

第二款 「ビルマ」ニ於ケル分離運動

第一項 印度統治法審査委員會ニ對スル態度

印度統治法審査委員會任命ノ「ビルマ」ニ於ケル反映ハ印度ニ於ケルカ如ク甚シカラス從テ本年一月末該委員ノ來訪ニ際シテモ排斥示威運動等ノ發生ナク該委員ハ平穩裡ニ其任務ヲ終ヘタリ是ヨリ先「ビルマ」政府ハ一九二八年十二月地方立法議會ニ對シ該委員會ニ協力スル爲メ民選議員中ヨリ「ビルマ」地方委員七名ノ選任ヲ提議セルカ常ニ反政府竝完全ナル自治權ノ獲得ヲ標榜シ來レル「ビルマ」人民黨、國民議會黨及「スワラジスト」(此等三派ハ立法議會ニ於テ全議席百〇三中約四〇ヲ占ム)ハ審査委員會ニ對スル協力ヲ不可トシ之カ討議ヲ忌避セルモ多數議員ハ提議カ「單ニ印度統治法審査委員會ト協力スルタメ」トアルニ對シ「ビルマ」ニ完全ナル責任政治ヲ樹立スル爲メ必要ナル措置ヲ決定スル目的ヲ以テ印度統治法審査委員會ト合議スルタメ」ト

修正セル後可決シ知事ハ選出議員七名ヲ委員ニ任命セリ

第二項 分離論ノ擡頭

「ビルマ」地方委員會ノ任命以來「ビルマ」政府ノ注意ハ地方憲政ノ變革方法ノ考究ニ集中シ來レルカ「ビルマ」人間ニハ印度ノ「ビルマ」併合以來ノ政治的宿望タル分離論擡頭シ來リ「ビルマ」人各政黨ハ一齊ニ「ビルマ」カ完全ナル責任政治ニ到達センカ爲第一ニ印度ヨリ分離セサルヘカラス」ト唱道シ前顯地方委員會ノ任命後間モ無ク全「ビルマ」ノ有力者ヲ網羅スル「ビルマ」分離期成同盟會」組織サレ他方「ビルマ」ニ於ケル最古ニシテ且最大ノ勢力タル英字新聞「ラングーン、タイムズ」(英人經營)急先鋒トナリ土語新聞ト相並ンテ盛ニ分離ヲ提唱シ又「ビルマ」人ノ「ビルマ」協會及全域ニ互ル多數政客並僧侶ヲ結合セル「全「ビルマ」協議會」ノ如キ有力團體モ亦分離期成同盟會ト步調ヲ一ニシテ努力セリ

運動ノ日 斯クシテ「ビルマ」人ノ關スル限リ其ノ憲政改革問題ハ速カニ印度ノ羈絆ヲ脱シ完全ナル自治領ノ地位ヲ獲得スルコトヲ目標トシ而モ印度ヨリノ分離ヲ重視セリ

(一) 現行制度ニ對スル不滿

現行制度ニ對スル不滿 「ビルマ」ノ現行統治組織(一九二三年制定)ニ依レハ「ビルマ」州政府ハ知事及內務、財務、林

務、教育ノ四大臣ヲ以テ構成セラレ林務及教育ハ委任事項トシテ民選議員ヨリ大臣ヲ任命スルニ反シ内務及財務兩大臣ハ議會ニ對シ責任ヲ負ハス知事之カ任免ノ權ヲ有ス從テ林務及教育ハ財務カ英國人官吏ノ管掌ニ在ルカ爲メ必要ノ財源ヲ意ノ如ク得ル能ハサル嫌アリ又立法議會ハ知事ノ任命スル官吏議員、特殊利益代表者及與黨ニ依リ常ニ多數ヲ制セラレ而モ選舉ハ民族制ニ行ハルル結果國民ノ融合統一及輿論ノ發達ヲ阻碍スル事尠シトセス要之「ビルマ」人ハ現行制度カ民主政治ノ主義ニ反シ又一九一七年及一九一九年ノ責任政府樹立ノ宣言ノ精神ニ悖ルモノナルヲ以テ速カニ之ヲ撤廢セサルヘカラストセリ

(二) 分離論ノ理由

「ビルマ」人カ印度政府治下ノ一行政州タルヲ廢シ印度ヨリノ分離ヲ要求スル所以ハ「ビルマ」民族カ印度民族ト人種、言語、宗教、文化、歴史、風俗、習慣、社會組織等ニ於テ截然區別アル點ニ存ス而モ政治上ニ於テハ「ビルマ」ハ印度政府ノ行政諮詢機關ニ代表ヲ有セス且印度中央立法議會ニ於テ僅々五箇ノ議席ヲ占ムルニ止リ「ビルマ」ノ利益ハ常ニ閑却サレツツアル外財政上ニ於テハ「ビルマ」ハ其歲入ノ約半額ヲ印度中央政府ニ納メ中央政府ハ其ノ半額ヲ「ビルマ」ノ爲メニ支出スルニ過キス之レカ爲メ「ビルマ」ノ財政ハ常ニ窮乏セリ

分離論ノ理由

更ニ經濟的關係ニ於テハ鐵、鋼、紙、皮革、米等ニ關スル關稅政策ハ明ニ「ビルマ」ノ經濟的利益ト背馳スル結果ヲ來シ居レルニ加ヘ印度ヨリ資本ノ自由ナル流入ノ爲メ「ビルマ」耕地ノ四分ノ一乃至五分ノ一(約四百萬英町)ハ印度人ノ手中ニ落チ又生活程度低キ印度人勞働者ノ流入者數二百萬ニ達スト稱セラレ「ビルマ」人ハ唯ニ失業ノ苦痛ヲ嘗ムルニ止マラス印度人トノ接觸ニヨリ其ノ民族的特性ヲ銷磨スル虞アリ

從テ此等ノ弊害ト缺點トヲ矯正センカ爲メニハ「ビルマ」ハ先ツ印度ノ政治的羈絆ヨリ離脱シ英帝國内ニ於ケル一單位トシテ自ラ開拓スルノ他ナシトセリ

(三) 在留印度人ノ分離反對論

「ビルマ」在留印度人ハ分離論ニ反對シ其論據タル「ビルマ」ノ歲入、印度人金融業及勞働者ニ關スル事項ヲ失當トシテ次ノ如ク論セリ

金融問題

印度金融業者ノ發展ハ「ビルマ」地方ニ於ケル金融機關ノ不備ニ基ク自然的結果トシ又印度人ノ土地所有權ノ増大ハ「ビルマ」人ノ債務不履行ニ基因シ其七地面積ハ「ビルマ」人ノ主張スルカ如キ廣大ナルモノナラサルノミナラス若シ印度人ノ放膽ナル投資ナクハ「ビルマ」ハ今日ノ開發ヲ遂ケサリシナルヘク從テ「ビルマ」カ分離後印度人金融業者ヲ迫害スルカ如キニ至ル場合其

投資回收ニヨリ「ビルマ」ハ金融梗塞ノ危険ヲ招徠スヘシ

労働問題

又印度人労働者ハ「ビルマ」人ノ好マサルカ又ハ不可能トスル労働ニ従事シ来リ今日ニ於テハ「ビルマ」産業上不可欠要素トナレルモ其増加率ニ至ツテハ最近十年間ニ於テ一割ニ過キス印度婦人ノ移入亦僅少ニシテ其自然増加ハ大ナラス他方同期間ニ於ケル印度移民ノ出發數ニ對スル超過ハ約六十六萬人即チ一年平均六萬六千人ニシテ印度人ハ「ビルマ」人十八人ニ付一人ノ割合ニ過キス從テ「ビルマ」人ノ生業カ悉ク印度人ニ奪ハルト謂フカ如キハ事實ニ反シ且「ビルマ」人労働者ノ困窮ハ其遊惰安逸ヲ原因トシ印度人労働者ノ競争ニ基クモノニアラス

財政問題

「ビルマ」分離ノ實現ニヨリ其一般生活幸福ヲ期待シ得ス何トナレハ分離ニヨリ「ビルマ」ハ新ニ國防費ヲ負擔スル外「ビルマ」統治ノ爲メニ印度カ負擔シツツアル公債ヲ分擔セサルヘカラス又印度ハ「ビルマ」征服ニ要セル軍事費ノ償還ヲ求ムルニ至ルヘク更ニ國費ハ行政機關及施設ノ爲メ必然過度ノ膨脹ヲ見ルヘシ從テ人口稀薄ニシテ負擔カ貧弱ナル「ビルマ」民族ニトリ此ノ過重ナル負擔繼續ハ容疑ノ餘地アリ要スルニ分離ハ「ビルマ」ニトリ財政的不可能ナリト斷セサルヲ得ス

第三項 分離論ノ進展ト在留英印人ノ態度

分離運動ノ進展

「ビルマ」人ノ「ビルマ」協會及分離期成同盟會代表者ハ「サイモン」委員會委員ニ對シ前記目標ヲ縷陳シ地方委員會亦分離論ヲ述ヘタル外「ビルマ」立法議會ハ「分離要望ノ決議案」ヲ可決シ又「ビルマ」政府ハ「サイモン」委員會ニ提出セル覺書中「印度ヨリ分離スル場合「ビルマ」ニ於ケル憲政ノ發達ハ之レカ爲メニ阻碍サルルトハ思考セス」ト説キ分離ニ對スル贊意ヲ諷示セリ

在留英印人ノ「サイモン」委員會ニ對スル證言

他方「ビルマ」在留ノ印度人代表者ハ「サイモン」委員會ニ對シ「財政的關係ヨリ見テ分離ハ不可能事ナルニ加ヘ其實行カ「ビルマ」ニ利福ヲ齎ラササルカ故ニ印度民族ハ分離ニ反對スルモ今後制定セラルヘキ「ビルマ」憲法カ明白ニ印度民族ノ權益ノ尊重擁護ヲ保證セハ強ヒテ反對ヲ固執セス」ト言明セリ

更ニ「ビルマ」在留英國人側ハ「ビルマ」ノ開發上印度人労働者ノ自由流入ヲ不可缺ノ要件トシ又「ビルマ」印度間ノ財政並政治關係ノ相互の尊重ヲ必要トスルカ故ニ之カ實現ニ資スル爲メ特別調査委員ヲ任命シテ討究セシメ其ノ成功ヲ見ルニ於テハ分離論ニ左擔スルノ外ナシ」ト主張セリ

第四項 地方委員會及政府ノ見解ト國民主義者ノ態度

(一) 地方委員會ノ見解

地方委員會ノ要求

「ビルマ」地方委員會ハ地方議會ニ依リ既述ノ如ク「ビルマ」ニ完全ナル責任政治ヲ樹立スル爲メ

喫緊ナル措置ヲ決定スル目的ノ下ニ選任サレタルカ「サイモン」委員會ニ對シ漸進的改革論ヲ採
リ大要左ノ如キ要求ヲナセリ

- (イ) 「ビルマ」ハ英國印度省ノ管下ニ在ルヲ肯スルモ之ヲ印度及「ビルマ」省ト改稱スヘキコト
- (ロ) 立法議會ニ於ケル少數民族即チ印度人、「カレーン」人、英印混血種ノ代表者ノ數ヲ増スコト
- (ハ) 知事カ官吏及特殊利益團體代表者ヲ立法議會ノ議員ニ任命スル現行制度ヲ向後五年間存續
スルコト

(ニ) 現在ノ大臣數四名ヲ六名ニ増加シ知事ハ其五名ヲ官吏ニ非サル議員ヨリ一名ヲ官吏ヨリ任
命シ大臣ハ立法議會ニ對シ連帶責任ヲ負フコト

- (ホ) 少數民族ノ信仰ノ自由、特殊習慣及文化ノ保存、特有ノ言語宗教ニヨル教育等ニ關シ憲法
ハ保證ヲ設クルコト

而シテ地方委員會ハ知事ノ權限、選舉權、民族別選舉制度、一院制度、文官任用制度等ノ如キ重
要事項ニ言及セサリキ

(二) 地方政府ノ見解

地方政府
ノ議員

「ビルマ」政府ハ「サイモン」委員會ニ提出セル覺書中ニ於テ「ビルマ」人ハ自治能力低ク地方自

治團體亦紊亂セルヲ以テ急激ナル憲政ノ擴張ニ不適當ナルモ其ノ要アリトセハ印度統治法審査委
員ノ必要ト認識トノ限度ニ於テ可ナルヘク唯印度ニ對シ自治權ノ擴張ヲ承認スル場合「ビルマ」
ニ對シテモ印度主要州ト同等ノ擴張ヲ賦與スヘシ「ビルマ」カ印度ヨリ分離スルモ其ノ憲政ノ發
達ヲ阻碍スルモノニ非ス」ト述ヘタリ

(三) 地方議會ノ態度

「ビルマ」
議會ノ態
度

地方委員會及政府ノ上述見解ハ八月中旬開會ノ地方議會ニ提示セラレタルカ曩ニ「サイモン」委
員會トノ協力ヲ拒ミ分離ト自治領地位ノ獲得トヲ熱望セル國民主義的各派議員ハ地方委員會ノ勸
告中印度ヨリノ分離ヲ求ムル一項ヲ除キ一切ノ事項カ「ビルマ」ノ國民的要望ト利益トニ反スト
シテ地方委員會ノ勸獎及報告ヲ彈劾スルノ動議ヲ提出シテ之ヲ糾彈シ議會内ノ空氣險惡トナリシ
モ知事ノ命令ニヨリ議事中絶ノ儘閉會セリ

(四) 全「ビルマ」國民大會

全「ビル
マ」國民
大會

地方委員會及政府ノ微温の見解ニ對スル國民主義者ノ憤懣ハ立法議會以外ニ於テ表ハレ十月二十
日「分離期成同盟會」ノ主唱ノ下ニ蘭貢ニ於テ全「ビルマ」國民大會ノ開催アリ參會者約二千ヲ
算シ「ビルマ」有力者ノ殆ント全部ヲ網羅シ佛教僧侶約一千名ヲ包含セリ

同大會ハ開會劈頭「ビルマ」ハ完全ナル責任政治ヲ布クニ適セルカ故ニ「ビルマ」ニ對シ濠洲或ハ加奈陀ト同様ナル自治權ヲ即時允許スヘキコトヲ要求スル」旨全會一致ヲ以テ決議シ此カ實行ニ當ラシムル爲メ二十七名ノ實行委員ヲ選舉セリ又英國ヘ特使ヲ派遣スルノ案ハ佛教僧侶團ヨリ其ノ無益論ヲ唱ヘタル結果否決サレタリ

本大會中論者ハ等シク國民ノ統一、教育及自治ノ必要ヲ力説セリ

第五項 印度總督ノ十月聲明ト「ビルマ」

印度總督カ十月三十一日自治領地位ノ賦與並圓卓會議開催ノ聲明書(註)ニ對シ「ビルマ」側ノ輿論ハ前者ニ關シ其ノ實現ノ時期ヲ曖昧トスルノ嫌アルモ英國對印政策ノ歸趨ヲ明ニセルヲ多トシ後者ニ就テハ之ヲ利用シテ國民的要望ノ達成ニ努メサルヘカラストシタリ全「ビルマ」國民大會決議實行委員ハ十一月十三日同大會委員ノ名ニ於テ總督ノ聲明ヲ歡迎スル旨並ニ「ビルマ」ハ圓卓會議ニ於テ印度トハ別箇ニ代表セラルヘク又「ビルマ」ハ現存自治領ト同一ノ憲法ヲ要求スル旨ノ聲明書ヲ發表セリ

(註) 本章第二節第一款第五項參照

第三款 冬季議會ノ開會

一月二十八日「デリー」ニ於テ總督ハ冬季議會開會ニ際シ演說ヲナシタルカ其重要内容大要左ノ如シ

總督ノ辭
内容

「曩ニ公表ヲ見タル農業ニ關スル勸業委員會報告ノ勸奨事項ハ地方政府ノ活動ニ俟ツヘキコト多キモ中央政府ノ管掌スヘキ農業調査ノ中央機關設置ニ就テハ右勸奨ヲ採用スルニ決定シ之ニ對シ臨時費二百五十萬留比年經常費七十二萬五千留比ヲ支出スヘシ

近年印度ニ於テ勞働爭議頻發シ多大ノ苦痛ヲ嘗メタルニ鑑ミ政府ハ其ノ應急策トシテ昨年「シムラ」議會ニ提出セル勞働爭議法案ヲ更ニ提出シ審議ヲ請フヘキモ進ンテ根本的對策ヲ考究スル爲印度ニ於ケル勞働狀態ヲ調査スルノ必要ヲ認メ今般勸許ヲ得「ゼー、エーチ、ホイットレー」(元英國下院議長)ヲ長トスル委員會ノ設置ヲ見ルコトナリ右委員會ハ本年中ニ之カ調査ヲ開始スヘシ」

ト述ヘ次テ印度統治法改正問題ニ言及セリ (註)

(註) 印度統治法改正問題ニ關シテハ本章第二節第一款第一項參照

第四款 印度公安維持法問題

第一項 法案ノ第三次提案

本案ハ政府懸命ノ努力ニモ不拘一九二八年度議會ニ於テ二回ニ互リ不成功ニ終リシモ政府ハ刻下ノ國內ノ事情ハ之カ實施ヲ必要トストシ二月四日「デリー」議會ニ提出シタルカ今三次ノ草案ハ前年九月否決ニ先チ特別委員會ニ於テ修正セラレタル案ヲ基礎トシ過激思想ノ宣傳ヲ防止スルヲ目的トシ危險人物ヲ英領印度ヨリ追放シ又國外ヨリノ運動資金ヲ沒收シ得ルコト等ヲ規定セルモノニシテ同草案ハ同月七日投票ノ結果十一票ノ差ニテ特別委員會ニ附託サレタリ

特別委員
會附託

共產主義
者ノ檢舉

右委員會カ同草案審議中ナル三月二十日未明印度政府ハ「カルカッタ」「ラクノー」「プーナ」「ミラツト」、孟買等印度各地ニ互リ共產主義者ノ大檢舉ヲ行ヒ容疑人物ト認メラレタル三十一名ヲ一網打盡的ニ捕縛セリ政府カ突如此ノ舉ニ出テタルハ當局ノ説明セル如ク彼等カ從來國外ノ共產派ト巧妙ニ連絡ヲ保チ印度統治ノ基礎ヲ覆サント企圖セシ證據充分ナル外昨年以來頻發スル勞働爭議ニ伴ヒ漸ク濃厚ナラントスル産業不安ヲ根本的ニ廓清セントスル舉措ナルハ檢舉セラレタル者カ其爭議ノ主要人士タルニ徴シ明ナリ

議長ノ議
事ニ關ス
ル提議

四月二日特別委員會審査報告ニ基キテ本草案上程セラルルコトナリシカ議長「バテル」ハ之カ審議開始ニ當リテ本案ハ其基本事項ニ於テ「ミラツト」事件ト全ク符合スルモノナリトシテ之カ説明ヲナシ議會カ係争中ナル裁判事件ニ關スル審議ヲ行フヲ得サルハ議事規則ノ規定スルトコロ

ナルカ故ニ政府ハ「ミラツト」事件ノ判決迄本案上程ヲ延期スルカ又ハ本案ノ審議ハ急ヲ要スルモノナリトスレハ「ミラツト」事件ノ裁判取下ケヲ爲シテ議事ノ進行ヲ計ル可シトテ政府ノ回答ヲ求メ政府ノ決定スル處ニ從ヒ本案ノ處理ヲ爲スコトトスヘシトテ日程ヲ變更シ審議ヲ延期シ一大波瀾ヲ惹起セリ内務長官ハ四月四日右議長提案ニ對スル政府ノ意嚮ヲ議場ニ於テ説明シ議長ノ執レル處置ハ議院法並ニ議事規則ニヨル議長ノ權限ヲ誤解セルモノニシテ議事規則上越權行爲ト云フヘク本案ハ緊急重要ノモノナレハ審議續行ヲ望ムヘク尙「ミラツト」事件ハ治安維持上之カ撤回ハ到底同意シ得サルモノナリト述ヘタリ

四月八日議會ニ於テ爆彈投擲事件アリ議會ハ十一日迄休會ヲ宣セラレタルカ十一日幾多ノ迂曲ヲ經テ一般ノ關心ヲ集メタル本案ノ裁決ヲ見ルコトナリタルカ議長「バテル」ハ本案ニ對スル過日來ノ内務長官及「ダレー、リンドセー」等ノ議論ヲ一々反駁シ議會ニ上程中ノ議案ハ議長ノ權限ヲ以テ中止スルヲ得ルハ議院法ノ權利ナリトテ縷々説明ヲ加ヘタル後本案ヲ葬リ去リタリ茲ニ於テ政府ハ本案ヲ緊急發布スル要アリトシ本法案ヲ公安維持令 (Public Safety Ordinance, 1929) トシテ印度統治法第七十二條ニ基ク緊急總督令ヲ以テ四月十二日附公布セリ

公安維持
令ノ公布

第二項 議長ノ權限ニ關スル議院規則ノ改正

四月ノ「デリー」議會ニ於テ公安維持法案ニ關スル既述審議ニ際シ派生セル議長權限問題ニ關シ政府ハ議長カ其ノ權限ヲ有セサルコトヲ明確ニスル爲印度事務大臣ノ認可ヲ得テ印度議院規則 (Indian Legislative Rules) 中ニ「議長ハ政府委員提出ノ法律案ニ關スル動議ヲ討議スルコトヲ阻止シ又ハ遲延スルヲ得サル」旨ノ規定ヲ設ケ八月二十四日之ヲ公布セリ

第五款 夏季議會ノ開會

「シムラ」議會ハ九月二日ニ開カレ下院ハ同月二十六日上院ハ二十八日閉會セリ

重要議事

劈頭注意ヲ惹キタルハ公安維持法案問題ニ關スル下院議長ト總督トノ間ノ往復文書ノ發表ナリキ次テ各種ノ重要問題輻湊シタルカ就中印度社會制度史上特筆大書セラルヘキモノハ「サルダー」提出ノ年少者結婚禁止法案カ政府ノ支持ヲ得大多數議員ノ贊成ノ下ニ通過シタルコトニシテ其ノ他政府提案ノ財産讓渡法改正及所得税法改正モ重要ナル立法ナリキ尙「ハジ」提案ノ沿岸航路法案ハ政府ノ希望ニ依リ「デリー」議會迄延期セラレタリ

政府反對黨ノ戰略ハ大體ニ於テ巧妙ヲ極メ政府ヲシテ絶食同盟者ニ對スル訴訟手續改正法案ノ審議期ヲ同意セシメ弑力工業「ストライキ」(註)ニ關聯シ補助金ヲ撤廢スルノ決議並ニ「ラホー」謀反事件被告「ダス」及ヒ「ビルマ」政治犯僧侶「ウイザヤ」ノ死ニ關シ當局ノ措置ヲ批難

スルノ決議ヲ成立セシメ其他醫學督學官任命ニ關スル政府案ヲ未決ノ儘次期議會ニ持越シ東「アフリカ」問題ニ關シテモ政府ヲ攻撃シタルカ其決議案ハ結局提案者「ロイ」ヨリ撤回シタリ

概觀スルニ今期議會ヲ通シ國民思想ハ益々旺盛トナリ議會ニ於ケル其ノ色彩ハ愈々濃厚ヲ加ヘ來ルノ傾向アリ又印度ノ識者カ社會制度改善ニ眞摯トナレル事實ハ否ムヘカラス

以下重要議事ヲ概説スルニ左ノ如シ

(註) 本章第三節第三款

第一項 總督及下院議長間往復文書ノ發表

總督ハ冬季議會閉會ニ際シ其演說中公安維持法案ノ審議(註一)ニ關聯シ議長「パテル」ノ措置ヲ批難スルカ如キ口吻ヲ洩シタルヲ以テ議長ハ議會ノ獨立ト議長ノ尊嚴トヲ傷クルモノナリトシ五月八日附ノ書翰ヲ以テ「公安維持法案ハ現行ノ規則ニ違ツテ處理シタルモノニシテ現行規則ノ可否ハ別論トシ總督カ議會ニ於テ議長ノ信任ヲ問フカ如キ演說ヲナスハ英帝國ノ議會史上先例無ク而モ議會内ニ於テ議事ニ關スル問題ハ法規及命令ニ據リ一ニ議長ノ權限ニ屬シ其ノ信任ヲ問フ爲ニハ正規ノ手續ニ從ヒ動議ヲ提出セサルヘカラス」ト申入レタルニ對シ總督ハ其ノ回答ニ於テ「議長ノ措置ヲ批難スルニ止リ議長ノ信任ヲ問フ意思ハ毫モ無ク之カ誤解ヲ遺憾トシ又議長ノ權

文書ノ交換

問題ノ價値

威ニ關シテハ全然同感ナル旨釋明シタルカ右往復文書ハ今期議會ノ劈頭ニ於テ議長ヨリ發表セラレ一般ノ注目ヲ惹ケリ本問題ニ就テハ既ニ議院規則ノ改正ニヨリ解決セラレ居レリ(註二)從テ右發表ハ何等ノ實質的價値ナク單ニ此ノ問題ノ終結ヲ表明スルニ過キサリキ唯此ノ問題ハ議長カ規則ノ不完全ニ乘シ不評判ナル政府案ノ提出ヲ機會ニ政府ヲ苦メントシタルモノニシテ形式上少クトモ議長ノ措置ヲ肯定スル結果ヲ來シ印度ノ輿論亦大體ニ於テ議長ノ威嚴アル態度ヲ稱揚スルト共ニ總督ノ誠意ヲ認め議會史上有益ナル先例ヲ作リタリトセリ

(註一) 本節第四款第一項

(註二) 同 第二項

第二項 「ダス」ノ死亡ト刑事訴訟改正法案

(一) 「ダス」ノ死亡事件

「ラホール」謀反事件ニ依リ檢舉セラレ「ラホール」ノ「ホルスタル」監獄ニ收容中ノ未決囚「ジャティンドラ、ナス、ダス」(Jatindra Nath Das)ハ政治犯人ニ對スル獄中ノ待遇改善ヲ要求シ容レラレサリシ爲メ七月十三日以後同志ト共ニ絶食同盟ヲ開始シ危篤ニ陥リタル結果當局ハ出獄ヲ許シタルカ無條件ノ放免ヲ要求シテ條件付獄ヲ肯セス遂ニ九月十三日死去セリ

「ダス」等ノ絶食同盟

一般ノ同情

當時獄中ノ待遇殊ニ歐米人ト印度人トノ差別待遇、政治犯人ト普通犯罪者トノ同等待遇ハ問題化シ「バンジャブ」州等ニテハ委員ヲ任命シ調査ヲ行ヒ居タルカ偶々二十五歳ノ青年「ダス」ノ死ハ世人ノ同情ヲ集メ殊ニ「スワラジスト」ハ「ダス」ヲ以テ「スワラジ」殉教者ナリトシテ輿論ノ喚起ニ努メ「ラホール」及「カルカッタ」ニ於テハ「ダス」ノ遺骸ニ對シ盛大ナル行列ノ行ハレタル外各地ニ示威的ノ催シアリ又「バンジャブ」ノ州議員「アラム」氏外一名(Dr. Mohammed Alam; Dr. Gopichand Bhargava)ハ現行制度ノ下ニ於テ地方議會カ無能ノ爲前途有爲ノ青年ヲ失ヘリトシ斯ノ如キ議會ニ留ルヲ潔シトセス州議員ヲ辭職シタリ

(二) 政府不信任決議

九月十四日下院ニ於テ「バンデイツト、モチラル、ネール」ハ「ラホール」事件ニ依リ檢舉セラレタル者ニ對スル待遇カ適當ナラサリシ爲「ダス」ヲ死ニ至ラシメ其他ノ者ノ生命ヲ危殆ニ瀕セシメタルカ如キ政策ヲ批難シ其動議ニ依リ下院ハ政府不信任ノ決議ヲ五五票對四七票ヲ以テ可決シタリ

不信任決議可決

内務長官「クレラー」(Sir James Crear)ハ政府モ亦「ダス」ノ死ヲ哀悼シ居レルト共ニ政府ハ法ノ尊嚴擁護ノ爲一步モ讓ルコト能ハサル旨述ヘタリ

(三) 刑事訴訟改正法案

改正法案
審議見合

「ラホール」ノ絶食同盟ハ未決囚ノ間ニ行ハレ之カ爲メ裁判ヲ中止スルノ止ムナキニ至レルニ鑑ミ
 政府ハ茲ニ刑事訴訟法ノ缺陷ヲ認メ刑事被告カ出廷ヲ肯セス又ハ出廷シ得サル場合必要ニ應シテ
 缺席ノ儘裁判ヲ進メ得ル様刑事訴訟法ヲ改正スル案即所謂同盟絶食法案ヲ議會ニ提出シタルカ
 偶々「ダス」ノ死ニヨリ反對黨ハ其ノ死ヲ以テ直ニ同情ナキ政府ノ虐待ノ犠牲ナリト斷定シテ憤激
 シ政府支持者モ亦考慮ヲ加フルニ至リ形勢樂觀ヲ許ササルニ加ヘ前記不信任案ノ動議提出セラレ
 「スワラジスト」「ナシヨナリスト」及「インデペンデント」之ニ賛成シ常ニ政府ヲ支持スル中央回
 教徒黨モ政府ニ追隨セサリシヲ以テ政府ハ指名議員團ヲ唯一ノ與黨トスルニ過キス茲ニ於テ政府
 ハ同盟絶食法案ヲ委員會ニ附スルノ到底不可能ナルヲ察シ九月十六日本法案カ立法ノ根本問題ニ
 觸レ之ニ一層慎重審議ノ時日ヲ假スコトヲ適當ト認メ「ケルカー」(Mr. N. Kelkar)ノ動議ニ從ヒ
 一般周知ノ手段ヲ採リ各方面ノ意見ヲ徵スルコトニ同意シ萬一ノ必要ニ應シテハ緊急立法ノ權限
 ニ依ル旨ヲ述ヘ辛ウシテ面目ヲ保ツヲ得タリ從テ右法案ハ今期議會ニテハ何等決定ヲ見ルニ至ラ
 サリキ

尙内務長官ハ近ク各州政府ニ對シ監獄ニ於ケル歐洲人及印度人ノ差別待遇ニ關スル報告ヲ求メ其

ノ回答全部ノ入手ヲ俟チ州代表者ノ會議ヲ開クヘク下院各政黨首領ニ對シテモ協議スヘキ旨言明
 セリ

第三項 年少者結婚禁止法案

(一) 早婚ノ弊習

現狀 印度ノ各地方階級ヲ通シテ早婚ノ弊風アルハ識者ノ均シク憂慮セル問題ニシテ智識階級ニ屬スル
 「ブラーマン」族ニ於テモ尙一九一一年及一九二一年ノ國勢調査ニ依レハ「ベンゴール」州中五歲
 未滿ノ結婚者カ千人ノ少女中四人ノ比率ヲ占メ五歲乃至十二歲一九一一年百六十人、一九二一年
 百八人ニ達シ「ベンゴール」ニ於テハ十人中九人迄十六歲未滿ノ結婚者ニシテ他ノ地方亦殆ント
 同様ノ状態ニアリ

其結果

斯ク早婚ノ結果年少ニシテ母親トナリ精神的物質的ニ苛重ノ負擔ニ苦ム者夥シク又再婚ヲ排斥ス
 ル社會思想ニ災セラレ幼年ニシテ寡婦トナリ悲惨ナル生涯ニ入ル者數百萬ヲ算ヘ加之幼少ノ兩親
 又ハ著シク年齢ヲ異ニスル夫婦間ニ生レタル嬰兒ノ死亡率ノ甚タ高キハ當然ニシテ國民ノ體質ハ
 虛弱トナリ國力發展上由々數問題タルニ至レリ

(二) 「サルダー」法案

「ジョシ」委員
會報告

早婚ノ弊風ニ對シ之カ矯正ヲ教育ノ普及ニ俟ツハ百年河清ヲ待ツニ等シク寧ロ法律ニ依リ結婚年齡ヲ制限シ數千年來ノ弊習ヲ打破セントシ既ニ二年前「サルダー」(Lai Salub Sarta)ニヨリ年少者結婚禁止法案提出アリシカ原案ハ當初印度教徒ノミニ關シ其後審査委員會ノ修正ヲ經テ大ニ擴張セラレタルカ政府ノ希望ニ依リ今日迄遷延セリ蓋シ印度ノ風習ハ結婚ト同棲トヲ別物視シ同棲ノ年齡ニ關シテハ刑法ノ姦淫罪ノ部ニ規定存シ從來屢々改正セラレタルカ(現在夫婦間ニテ女子十三歳、然ラサル場合ハ十四歳)其實效ナク政府ハ一九二八年六月「ジョシー」(Sir Moropant Joshi)ヲ長トスル五名ノ委員會(Age of Consent Committee)ヲ任命セリ該委員會ノ調査事項ハ年少者結婚問題ト密接ノ關係アル爲メ政府ハ其調査ノ結果ヲ待チシカ同委員會ノ報告ハ八月末ニ發表セラレ該報告書ハ特ニ早婚ノ弊ヲ力説シ女子ノ結婚最低年齡ヲ十四歳、婚姻關係ニ於ケル同棲ノ年齡ヲ十五歳トスルコト、婚姻關係ニ非ル者ノ間ニ於テハ十八歳トスルコト、登録制度ヲ完成スルコト等ニ關シ法律ノ制定ヲ勸告セリ

法案ノ内
容

右報告書ハ從來何等制限無カリシ婚姻年齡ヲ法規ヲ以テ制限スルノ必要ヲ證明セルヲ以テ愈々今期議會ニ於テ年少結婚禁止法案ノ討議ヲ見ルニ至レリ而シテ右法案ハ女子十四歳男子十八歳以下ノ結婚ヲ禁シ右年齡以上ノ結婚ヲ契約シタル十八歳以上ノ者、契約者カ十八歳以下ノトキハ其ノ

監理者、結婚ノ儀式ニ參與シタル者ヲ一年以下ノ禁錮又ハ千留比以下ノ罰金ニ處スル趣旨ニシテ
其實施期ヲ一九三〇年四月一日トス

(三) 討議經過

贊否論

早婚ハ印度教徒回教徒ヲ通シ數千年ノ間守ラレ來レル社會的宗教的ノ慣習ナルニヨリ主トシテ「ブラーマン」ニ屬スル守舊派竝ニ回教徒ノ大多數ハ信仰的見地ヨリ之ニ反對シ「アチャルヤ」「パండిット、マラジャ」等(M. K. Acharyas; Pandit Madan Mohan Malaviya; Sesha Iyenger; Pandit Nilkanta Das; Yakub)ハ或ハ個人ノ自由ヲ主張シ或ハ宗教問題ニ對スル不干渉ヲ唱ヘ或ハ一般民衆ノ無學ナルニ鑑ミ斯ノ如キ急激ノ變革ハ社會制度ノ基礎ヲ覆スモノナリト説キ反對大ニ努メタルカ内務長官「クレラー」ハ本案討議ニ際シ政府カ本案ニ對シ最モ熱心ナル支持ヲ與フル旨聲明シ「ネール」「バテル」等「スワラジスト」ノ多數、回教徒ノ「ジンナー」等ハ極力本案ヲ支持セル形勢ニ對シ反對派ハ年齡ヲ十二歳トスル案、十三歳トスル折衷案、「ブラーマン」及回教徒ノ除外案、施行期日延期案、審議延期案等アラユル修正案ヲ提出シ數日ニ亙リ激烈ナル論戰アリタル後何レモ否決セラレ二十三日回教徒ノ一部ハ抗議ノ意味ヲ以テ退場シタルカ投票ノ結果六十七票對十四票(棄權二名)ノ大多數ニテ可決シ又上院ハ二十八日本案ヲ可決セリ、次

法案通過
ト公布

テ本法案ハ總督ノ裁可ヲ經テ一九二九年年少者結婚制限法 (Child Marriage Restraint Act, 1929) トシテ十月五日官報ヲ以テ公布セラレタリ

第四項 醫學督學官任命案

印度ノ醫學教育ノ監督ヲ目的トスル醫學督學官任命案ハ政府ヨリ閉會間際ノ下院ニ提案セラレタリ
案ノ未決
リ本案ノ趣旨ハ既ニ地方政府ノ要望セル案件ナルカ三人ノ視學官ニヨリ圓滑ニ運行セラルル現行制ヲ改メ一人ノ督學官ノ獨裁トスルハ現行醫學教育ヲ覆ス虞アルト共ニ本案ハ印度醫學學校卒業者ニ學位ヲ與フルニ當リ一定ノ要件ヲ具備セントスル英國醫學會ノ希望ニ基キタルモノニシテ印度ノ醫學界ニ對スル屈辱トシ印度自身ノ中央醫學會ヲ設クヘシ等ノ議論百出セル結果本案ハ未決ノ儘明年一月末ノ「デリー」議會ニ持越ス事トナレリ

第六款 東部「アフリカ」ニ於ケル印度人問題

第一項 沿革

沿革
東部及西部「アフリカ」即「ケンヤ」「ウガンダ」及「タンガニカ」三地方ニ對シ印度人ハ古クヨリ移住シテ同地方ノ開發ニ貢獻シ現在ハ其數約七萬人ト稱セラレ歐洲人ニ比シ遙ニ多數ナルノミナラス經濟的ニモ相當ナル地歩ヲ占メ且近年政治的覺醒著シク少數歐洲人ノ專制下ニ在ルヲ快シ

トセス歐洲人ト同等ノ地位ヲ要求スルニ至レリ
而シテ問題ノ中心ハ「ケンヤ」ノ選舉制度ニシテ一九二三年社會階級別ノ選舉制度ノ定メラレタル際東「アフリカ」、インディアン、ナショナル、コングレス」ハ強硬ニ之ニ反對シ一九二五年ニ至リ指名議員ヲ出スコトヲ承諾シタリ然ルニ一九二八年「ケンヤ」政府ハ社會階級別普通選舉ヲ印度人ニ對シテモ強行セントセル爲メ印度人ハ議會及內閣ヨリ脫退シ更ニ公共團體ヨリモ脫退シテ現在ニ及ヘリ

第二項 東阿在留印度人ノ態度

英國政府ハ東「アフリカ」ノ政治組織調査ノ爲「ヒルトン、ヤング」委員會(註二)ヲ派遣セルカ該委員會ハ決定的意見ヲ示スコトヲ避ケタルモ聯邦組織意見ニ傾キ選舉制度ニ關シ其ノ多數報告ハ現行社會階級別選舉ヲ廢止シテ共通選舉ヲ採用スル爲ニハ關係社會階級間ノ協定換言スレハ歐洲人團體ノ承諾ヲ必要トストナシタリ

「ヒルトン、ヤング」委員會ノ勳獎
「ウイイルソン」ノ調査
次テ英本國政府ハ植民地事務省事務次官「サー、サミュエル、ウキルソン」ヲ派遣シテ更ニ事情ヲ調査セシムルコトトセルカ(註二)印度政府ハ一九二〇年頃以來東「アフリカ」ニ於ケル印度人ノ地位ノ向上ニ關シテハ強硬ニ主張シ來タリタル關係上「ウキルソン」ノ調査ニ際シテハ「サスツリ」

在留印度
人ノ要望

(Z. 213) ヲ派シテ印度人ノ立場ヲ擁護スル所アリタリ

在留印度人ノ輿論ニヨレハ社會階級別選舉トイフモ結局人種別選舉ニシテ多數ノ印度人ハ少數者タル歐洲人ノ壓迫ヲ受クル爲メ現行制度ヲ廢止シテ共通選舉ノ採用ヲ希望シ而モ人口ニ比例シテ印度人議員ヲ多數トスルコトヲ要求セサルカ少クモ歐洲人ト同數ノ非官吏議員ヲ出スコトヲ目標トナセリ從テ共通選舉制採用ノ場合ハ假令一時一部ノ者ノ選舉權ヲ奪ツテ制限選舉トシ又ハ議席ヲ留保シテ現在ノ歐洲人十一印度人五ノ割合ヲ維持スルモ已ムヲ得ストナセルカ如シ只共通選舉トスルニ當リ此制度採用ニ頑強ニ反對セル歐洲人團體ノ贊成ヲ要ストスル意見ニ於テハ絶對ニ反對シ又三地域ノ聯邦組織論ニ異議ヲ有シ其中央政府ヲ作クルト否トニ拘ラス印度人代表者數ノ増加ニヨル一層ノ政治參與ヲ要求シ其他印度人ノ爲ニ土地ヲ保留スルコトニ反對シ印度人官吏ノ任用ノ範圍及待遇ヲ向上セシムルコト教育衛生其他公共施設ヲ印度人ニモ均シク利用セシムルコト等ヲ要望セリ

且九月中旬東「アフリカ」在留印度人代表者(「バンディヤ」(T. H. Panting)ヲ團長トス)來印シ印度政府ニ對シ前記諸點ニ關スル覺書ヲ提出スルト共ニ輿論ノ喚起ニ努ムル所アリタリ

(註一) 第四章第三節第二款
(註二) 同 同 第三款

第三項 「ヒルトン、ヤング」報告書ト印度

印度政府
ノ意見

印度政府ハ九月十九日下院ニ於テ「ヒルトン、ヤング」報告書(註)ニ關シ英國政府ニ具申シタル意見(三月十九日附)ヲ發表セリ之ニ依レハ政府ハ英國政府カ同報告ノ根本義ヲ採用シ高級委員ヲ任命シテ同報告ニ述ヘタル條件ノ下ニ調査及協議ヲ進ムルコトヲ希望シ三地域ノ政治結合ヲ鞏固ニスルトキハ印度人ノ地位ヲ脅威スル虞アルヲ以テ聯邦制度ニハ反對ナルモ共通ノ總督ヲ任命シ對土人政策ヲ協調シ關稅、交通ヲ統一セシムル程度ナルニ於テハ異議ナク其場合ト雖モ首都ハ人種的爭鬪ニ災セラレサル地ヲ選ヒ總督ノ權限ヲ定ムルニ當ツテハ人種間ノ問題ニ付有力公平ニ決裁スル責任ヲ負ハシメ又諮問審議會(Advisory Council)ニハ印度人代表者ヲ適當ニ加フルコトヲ要求シ其他英本國ノ植民地事務大臣ノ諮問委員會ヲ設置スル場合之ニモ印度人代表者ヲ加フル等印度人ノ利益ヲ充分ニ考慮スヘキコトヲ主張シ選舉制度ニ關シテハ報告書ノ多數意見ヲ支持シタリ右印度政府ノ意見ハ「ウキルソン」報告ノ完了前ニ爲サレタル暫定的意見ニ過キサレモ本問題ニ關シ九月二十六日下院ハ討議ヲ行ヒ「ロイ」(K. C. Roy)及「タクトールダス」(Sir Purshotandas Thakurdas)ハ共通選舉ヲ強調シ政府ノ不熱心ヲ難詰シタルニ對シ政府委員「シュスター」ハ問題ノ要點ハ土人問題ニシテ印度ハ間接ノ影響ヲ受クルニ過キス而シテ此問題ハ今後「ロンドン」ニ

印度議會
討議

於テ攻究セラレ印度側ハ尙其ノ立場ヲ主張スル機會ヲ有スヘキ旨ヲ答辯シタリ而シテ印度政府ハ「ハビブラ」(Sir Muhammad Habibullah)ヲ派遣シテ英國政府ト本問題ヲ交渉セシメ東「アフリカ」在留印度人側亦東「アフリカ、インディア、ナショナル、コンGRESS」ノ議長「パンディット、クンズル」(Pandit Hridayanath Kunzru)ヲ代表者トシ英國政府ニ陳情ノ爲派遣セリ

(註) 第四章第三節第二款

第四項 「ウイルソン」報告書ト印度

報告書ノ發表

「サミュエル、ウキルソン」報告書(註一)ハ十月四日印度ニ於テモ發表セラレタルカ同報告書ハ印度人ノ地位ニ關シ歐洲人同等ノ待遇ノ要求ノ内容ヲ記述シ居リ其ノ私的會合ニ依ツテ得タル印象ニ依レハ將來共通選舉ニ達スルノ可能性アルコト及「ケンヤ」政府カ歐洲人ト印度人トヲ提携セシムル爲努力ヲ咨マサルコトノ二點ニ付諒解ヲ與フル場合印度人團體カ指名議員ヲ出スコトヲ受諾スル可能性ノ存スルコトヲ述ヘタリ

在留印度人ノ態度

而シテ之ニ關シ東「アフリカ」在留印度人代表者ハ聲明書ヲ發表シテ右報告カ反動思想ニ基キ「ヒルトン、ヤング」委員會ノ少數報告ト大差ナク選出議員ノ數ニ就テモ印度人ニ甚タ不利ニシテ殊ニ或種條件ノ充足ニヨリ印度人カ指名議員ヲ承諾スルト觀察セルハ全然妄想ニ過キササルモノナリ

ト述ヘ勞働内閣カ進歩的見地ニ立ツテ本問題ヲ解決センコトヲ期待セリ(註二)

(註一) 第四章第三節第三款

(註二) 英國二委員會ノ調査ハ保守黨内閣時代ノ所産ニシテ勞働黨内閣ノ政策ヲ指スルモノニ非ス植民地事務大臣ハ報告書公表ニ際シ序言ニ於テ之ヲ明ニシ居レリ

第三節 財政及經濟

第一款 勞働問題

第一項 一九二八年度勞働爭議

印度ニ於ケル勞働爭議ハ一九二七年迄年百二、三十件ヲ上下シタルカ印度工業勞働省ノ發表ニ依レハ一九二八年中ニ於ケル勞働爭議ハ一躍二百三件ノ多數ニ上リ其關係勞働者人員ハ五十萬六千八百五十一人ニシテ前年ノ百二十九件ノ關係人員十三萬千六百五十五人ニ比較スルトキハ著キ増

加ヲ示シ又怠業延日數人員ハ三千六百四十四萬七千四百四人(内孟買織物業休止ノミニヨリ二千三百三十四萬七千六百二十人ヲ示ス)ニシテ過去五ケ年間ニ於ケル總數ヲ超過セリ如斯勞働爭議ノ増加ヲ見ルニ至リタルハ事業不振其他ノ原因ニ依ルヘキモ最近印度ニ於ケル勞働運動ノ裏面ニ共產主義者ノ活躍シ之ヲ援助セル事實ハ其ノ有力ナル一因タルヲ失ハサルヘシ以下爭議ノ原因、影響及結果ニツキ略述スヘシ

(イ) 争議原因 争議總數ノ内一〇九件即チ五割四分ハ賃金問題ニ又四十四件即チ二割二分ハ労働者解雇ニ依ル以上ノ外争議原因ヲ爲スハ休暇及労働時間、賞與等ニシテ其ノ争議數ハ比較的少シ

(ロ) 争議ノ影響 印度ニ於ケル主要工業ハ主トシテ孟買及「カルカッタ」地方ニ集中セル關係上労働争議モ自然兩地方ニ最も多ク發生シ即チ労働争議總數ノ中百十一件(五割五分)ハ孟買地方ニ行ハレ「カルカッタ」地方争議數ハ六十件(約三割)ニ當ル次ニ右ノ争議ヲ各事業別ニ考察スルニ紡績工場(綿糸布毛織物)ハ争議ノ影響最も多ク其數百十件即全争議數ノ五割四分ニ當リ右紡績工場労働者ノ之ニ關與セルモノノ數ハ關係總労働者ノ六割四分ヲ占ム之ニ次キ影響大ナリシハ鐵道、機械工場及黃麻工場等ナリ

(ハ) 争議ノ結果 争議總數二百三件ノ内解決百九十六件未決七件ニシテ右解決件數中労働者側ノ見地ヨリ全部容認セラレタルモノ二十七件半ハ容認セラレタルモノ四十一件失敗百二十八件トス

第二項 労働争議調停法

労働争議調停法ノ可決

總督ハ労働問題ノ頻發セルニ鑑ミ之カ根本的解決ノ目的ヲ以テ昨年九月労働争議調停法案ヲ提出

シタリシカ右法案ハ労働争議ヲ和解局(「ボード、オヴ、コンシレーション」Board of Conciliation)又ハ審査裁判所(「コート、オヴ、エンクワイヤリー」)ニ附託シ之カ解決ヲ計ルコト並ニ公共事業ニ關係スル同盟罷業ハ公共利益保護ノ爲豫メ豫告ヲ必要トスルコト等ヲ主要條項トスルモノナリ右提案ハ労働運動ヲ拘束スルト共ニ資本家ノ利益保護ニ偏スルトシ議會ノ反對ニ遭ヒ一旦撤回セラレタルカ「デリー」議會ニ再ヒ提出セラレ四月八日可決セラレタリ

第三項 勅命委員會ノ任命

總督ハ印度ノ労働争議ニ於テ共產主義者ノ活躍著シキニ鑑ミ其活動ヲ阻止スルノ目的ヲ以テ既述ノ如ク治安維持令ヲ公布シ又勞資雙方ニ於ケル利益ヲ確保スル爲メ労働現狀ヲ窮メ正當ナル苦情ヲ除去スヘキ策ヲ講スルノ必要アルコトヲ認メ曩ニ冬季議會ニ於テ「ホイットレー」(J. H. Whiteley)前英國下院議長)ヲ主班トスル労働調査勅命委員會 (Royal Commission on the Labour in India) 任命ニ決シタル旨聲明セルカ右委員會ハ五月二十三日正式ニ任命ヲ見タリ

「ホイットレー」委員會ノ任命

該委員會ノ目的ハ英領印度ニ於ケル産業企業及耕地ノ労働現狀、労働者ノ健康、能率及生活標準、使用者及被傭者間ノ關係ヲ調査報告シ勸奨ヲ爲スニ在ルカ委員長「ホイットレー」ハ十一月印度ニ渡航シ調査ニ着手セリ

第二款 綿糸關稅引上問題

保護政策
論ノ據頭

印度紡績業ノ不況ハ近年勞働爭議ノ頻發ト外國競争ノ熾烈トニヨリ愈々深刻ヲ加ヘ來レルカ之カ對策ノ一トシテ保護政策實施論ハ屢々朝野ニ喧傳セラレタリ

印度政府ハ四月二十二日「カルカッタ」稅關長「ハーデー」ニ對シ綿布ニ對スル現在ノ從價稅制度ヲ從量稅ニ代フル能否ヲ研究セシメ又内外製品ノ競争範圍及程度ニ關スル變化ヲ調査セシメタリ

六月二十八日總督ハ赴英ノ途次孟買ニ於テ當業者代表ト會見セル際商務長官「サー、レイニー」ハ綿糸關稅增徴論ニ關シ印度一般民カ尙貧困ナル事情アルニ省ミ其ノ利益保護ノ見地ヨリ反對ノ意見ヲ開陳セルカ財政長官「シヌスター」ハ財政上ノ理由ヨリ增徴ニ贊シ從テ當業者側ハ關稅引上案提出ノ可及的速カナルニ努力セルモ統治法改正問題ノ急務ヲ帶ヘル總督ノ訪英ニヨリ十月末其歸任迄提案問題ハ決セサル事態ニアリ

本問題ニ對シ孟買地方選出下院議員ハ多ク紡績事業ニ關與セル爲メ何レモ引上ニ贊意ヲ表スルニ反シ回教徒派議員及英人側ハ大體反對意見ヲ有シ一部ニ於テハ引上論ノ中心タル孟買紡績業ハ「アーメダバド」「シユルプール」等奧地地方ノ紡績業ニ對抗シ得サルカ故ニ之カ救濟ハ綿製品ノ

輸入禁止ヲ行ハサル限り不可能ナリト説ケリ

次テ十一月勞働調査委員長「ホイットレー」ノ印度到着及財政長官ノ訪英アリタルニ伴ヒ此等ノ事實ニ關聯シテ關稅問題ノ論議再燃シ同十九日ノ孟買「タイムス」紙ハ社説ニ於テ本問題ヲ論シ孟買紡績業ノ内外競争ニ依ル窮迫ヲ述ヘ奧地々方並日本紡績業ノ狀態ニ言及シ深夜業廢止後ノ日本紡績業ハ經營ノ整理、能率ノ増進等ニヨリ生産力減退セス其製品ハ逐日印度市場ニ進出シ居リ之カ對策ハ關稅障壁ノ武器ニ據ル外無キヲ以テ政府力速ニ此ノ舉ニ出テムコトヲ懇願シ更ニ特惠制度ヲ採用シテ關稅問題ヲ解決スヘク政府及當業者ハ其達成ニ努力スヘキ旨強調セリ

政府ノ措
置

其後十二月印度政府ハ孟買、「ベンゴール」「アーメダバド」及「マドラス」地方ノ紡績事業團體代表者ヲ「デリー」ニ招集シ前顯「ハーデー」ノ報告ニ係ル從量稅實施方法等ニ關シ商務長官ト討議セシムルニ至レリ

第三款 錫力工業補助撤回決議

決議案ノ
提出

九月二十四日「ニカンタダス」(Nikantadas)ハ一九二七年ノ製鋼保護法ヲ改正シ錫力工業ニ與ヘツツアル保護ヲ撤回スルコトヲ政府ニ勸告スルノ決議案ヲ下院ニ提出シタリ

現在錫力工業ニ從事シツツアルハ「ビルマ」石油會社系ノ印度錫力會社ノミナルカ同社ノ「シヤ

ムシエ、ドブール」所在工場ニテ四月以來職工約三千名ノ同盟罷業行ハレタル爲メ會社ノ雇傭セ
ル新職工ハ半數以上ヲ占ムル状態トナリ失職職工ノ怨嗟ノ的トナレリ茲ニ於テ「コングレス」系
ノ政治家殊ニ「バンデット、ジャワハルラル、ネール」等ハ勞働者ヲ聲援シテ會社ノ職工虐待ヲ攻
撃シ其ノ事業ノ困難ハ畢竟經營方法ノ不良ナルニヨル旨唱道セリ更ニ此ノ問題ハ九月初「ビハー
ル、オリッサ」州議會ニ提出サレタルカ州政府ハ何等ノ措置ヲ採ラサリキ從テ「ビルマ」石油會社
ハ英國資本ノ會社ナルニ拘ハラス會社カ印度ノ納稅者ニ依ツテ補助セララルヲ不可トスル考慮モ
一因トナリ茲ニ前記決議案トナリ中央議會ニ於テ問題ノ再燃ヲ見ルニ至レリ

案ノ可決

政府ハ本案ニ對シ補助ハ關稅調查局ニヨル調査ノ結果與ヘタルモノニシテ其際何等條件ヲ附セス
從テ罷業ノ勃發ヲ理由トシテ之ヲ撤回スルコトハ困難ナリトシテ説明大ニ努メタルカ同盟絶食問
題ニヨリ感情ニ奔レル印度人議員等ハ之ヲ以テ政府カ英國資本家ヲ援助シテ印度人ヲ擯取シ居レ
ル一例ナリトシ政府ニ反對シ五十一票對四十二票ニテ遂ニ此ノ決議案ヲ可決シタリ

第四章 諸領及委任統治地域

第一節 概 說

概 說

本年度中植民地諸領ニ就キ最要ノ事象ハ東阿ニ關スル所謂「ヒルトン、ヤング」委員會報告書ノ公
表ニシテ該委員會ハ「ケンヤ」、「ユガンダ」及「タンガニカ」三域ニ對シ一總督ヲ置キ共通ノ行
政ヲ敷キ殊ニ土人政策ノ一致ヲ勸奨セルカ特ニ「ケンヤ」ニ於ケル移住印度人其他土人間ニ異見
多ク從テ英國政府ハ更ニ「サー、サミエル、ウイルソン」ヲ派シテ土民ノ意嚮ヲ徵シ行政組織問
題ヲ考究セシメ十月之カ報告書ヲ公表セルモ問題ハ依然未決ノ儘推移セリ

「セイロン」ニ於ケル統治法改正問題ハ一九二八年中「ドノモア」委員會 (The Donoughmore Com-
mission) 報告書ノ公表ノ後英國植民地事務省ハ「セイロン」總督「スタンレー」(Sir Herbert Stanley)
ノ報告書ニ對スル贊意ニ接シ同事務相「バスフイールド」卿ハ之カ諾否ヲ「セイロン」立法審議
會 (the Ceylon Legislative Council) ニ諮問セルカ同審議會ハ本年十二月二票ノ差ヲ以テ之ヲ受諾
セリ該案ハ普通選舉制度ノ施行、審議會委員會ニヨル行政管理等同島統治ニ就キ重要ナル變更ヲ
内容トス

年初「バルバドス」ニ開催セラレタル西印度植民地會議ハ同植民地内各域間交通ノ不備ヲ力説シ相互協力ノ増進ニ關シ多數ノ決議ヲ爲セリ又同域ニ於ケル經濟狀況ハ不振ヲ繼續セルヲ以テ英國政府ハ年末「オリバー」卿 (Lord Olivier) ヲ首班トスル委員會ヲ派シ不況ノ製糖業ヲ調査セシメタリ

更ニ委任統治地域ニ關シテハ「イラク」國ノ聯盟加入問題ノ解決ニ伴ヒ懸案ノ妥結進捗シ「パレスタイン」ノ紛擾又終熄シテ調査委員會ノ活動ヲ俟ツニ至リ「サモア」ニ於ケル不安モ政策ノ對應ニ依リ年度中擴大ヲ見サル儘經過セリ

第二節 海峽植民地

第一款 總督ノ更迭

海峽植民地總督「サー、ヒュー、クリフォード」(Sir Hugh C. Clifford) ハ十月十五日辭職ヲ聽許セラレ同二十一日民政長官「ジョン、スコット」(Colonial Secretary—John Scott) 總督事務取扱ヲ命セラレタルカ十一月二十日香港總督「サー、セシル、クレメンチ」(Sir Cecil Clementi) 總督ニ任命セラレタリ新總督ハ支那及印度事情(「セイロン」民政長官タリシコトアリ)ニ精通シ前總督ノ離任以來最モ適當ナル後繼者トシテ囑望セラレ居リ從テ其ノ任命ハ一般ニ満足ヲ以テ迎ヘラレタリ

第二款 豫算

前年度歳出入額及本年度歳出豫算左ノ如シ

豫算	一九二八年	歳入	四、四四四、〇九二	歳出	四、〇八四、二二一
	一九二九年(豫算)		—	同	四、六二五、七六五

第三節 東部及中部「アフリカ」

第一款 「ヒルトン、ヤング」委員會ノ成立

東部及中部「アフリカ」植民地統合問題調査委員會(通稱「ヒルトン、ヤング」委員會)ハ東部及中部ニ於ケル植民地間ノ協力統合ノ促進方法考究ノ爲一九二七年十一月植民地事務大臣ニ依リ任命セラレ左記四名ヲ以テ構成セラレ

- 委員長 「サー、ヒルトン、ヤング」(Sir E. Hilton Young)
- 委員 「サー、レヂナルド、マント」(Sir Reginald Mant)
- 同 「サー、ジョージ、シュスター」(Sir George Schuster)
- 同 「ジュー、エッチ、オルダム」(Mr. J. H. Oldham)

報告書ノ公表 同委員會ハ一九二七年十二月ヨリ一九二八年五月ニ亙リ「アフリカ」ニ於テ自ラ實地調査ヲ爲シ

タル外各方面ノ意見ヲ聴取シ其ノ後更ニ倫敦ニ於テ研究ヲ繼續シ一月青書トシテ其ノ報告書ヲ刊行セリ

第二款 同委員會報告書要旨

自治ノ適否

本委員會ハ先ツ其研究ノ目的タル「ケンヤ」、「ユガンダ」、「タンガニカ」、「ザンジバール」、北部「ローデシヤ」及「ニアサランド」諸地域ノ經濟的潛勢力ノ其大ナルコト其ノ開發ノ爲相互ノ協力ノ必要ナルコト等ヲ高調シタル後此等ノ地域ヲ自治領ニセントスル議ニ言及シ同地域ニ於ケル白人植民ノ數極メテ少ク將來ニ於テ氣候其他ノ理由ニ依リ其多數ヲ期待シ難ク且土人ハ文化ノ程度極メテ低ク參政能力少キヲ以テ自治制度ヲ適用スル場合少數白人ノ爲多數土人ノ利益カ犧牲ニ供セラルルノ虞アルコト等ヲ述ヘ文化ノ程度低キ土人ヲ後見スルノ責任上英本國政府カ施政ノ責任ヲ保チ相當ノ監督ヲ加フルコトヲ繼續スルノ必要ヲ説キ自治ハ土人ノ文化進ミタル後始メテ考慮シ得ヘキ問題ナリトセリ

行政統一ノ可否

又前記諸地域ヲ行政上ノ一團體トセントスル議ニ就テハ同地住民間ニハ未タ同國民ナリト意識スルノ觀念充分ニ發達セサルノミナラス交通設備モ不充分ナルヲ以テ未タ其ノ時期ニ非ストセリ但シ此等地域間ノ協力聯合及此等植民地ト本國政府トノ密接ナル關係増進ハ希望スヘク且必要ナ

ルヲ以テ諸般ノ情勢上聯絡ノ容易ナル「ケンヤ」、「ユガンダ」、「タンガニカ」ノ三地域ヲ一團トシ又北部「ローデシヤ」及「ニアサランド」ノ二地域ヲ一團トシ其ノ兩域ニ對シ中央機關設置ノ道程ヲ採ルヘキ方法ヲ勸奨シ次テ「ザンジバール」ニ就テハ其ノ島嶼タル地理的地位ニ鑑ミ之ニ特別ノ考慮ヲ加フルコトトセリ今如上三地域團體ニ分チ委員會報告書ヲ記載スレハ次ノ如シ(註)

(註) 印度人問題ニ關シテハ第三章第二節第六款第三項參照

甲、「ケンヤ」、「ユガンダ」及「タンガニカ」

一、各植民地ノ行政組織ハ當分大體其ノ儘トシ(註)先ツ聯絡ヲ計ルノ第一手段トシテ「ハイ、

コムミッシュナー」ヲ任命スルコト

二、「ハイ、コムミッシュナー」ハ左記權限ヲ有スルコト

イ、土人政策問題ノ研究又ハ關係植民地間ノ本問題ニ關スル合同ノ審議ヲ開始スルコト

ロ、各植民地ニ利害共通ナル鐵道電信稅關等ノ諸問題ニ付統一アル管理ノ促進ヲ計リ植民地間ノ紛議ニ就テハ公平ナル立場ヨリ其ノ解決ヲ爲スコト

ハ、「ケンヤ」ノ政治組織改正ニ付同植民地限リ審議ヲ爲シ其ノ實行方法ヲ作成スルコト

「ケンヤ」
「ユガンダ」
「タンガニカ」
ノ行政組織

(註) 委員會ハ各植民地ノ政治組織ニ關シ大體其儘ニテ繼續スヘシト提議シ居レルモ「ケンヤ」ニ關スル立法機關ニ就テノミ之ニ多少ノ改正ヲ加フヘキヲ勸告シ居リ其ノ改正要點ハ官吏タル議員ヲ減少シ土人ノ利益ヲ代表スヘキ官吏ニ非ル議員ヲ加ヘントスルニアルカ其ノ數其ノ他ニ付委員會間ニ多少見解ノ相違アリ

三、右ノ如クニシテ三植民地間ノ協力促進ノ準備ヲ行ヒ更ニ其ノ統一ヲ強固ナラシムルヲ適當ト認ムル時期ニ至リタルトキハ「ハイ、コムミッショナー」ヲ廢止シ三植民地ヲ管轄スル總督(Governor General)ヲ置クコト

四、總督ハ三植民地ヲ監督シ其ノ統一ヲ計ルト共ニ植民地ト本國植民地事務省間ノ連絡機關トナルコト

五、總督設置ノ場合「アフリカ」ニ於ケル政治組織及倫敦ニ於ケル植民地監督機關ニ左ノ如キ變更ヲ加フルコト

イ、「アフリカ」ニ於ケル改革

(一) 總督カ植民省ニ代リ東部「アフリカ」植民地ノ行政及立法ニ付監督權ヲ行フコトトシ其ノ主要權限ヲ左ノ如ク定ムルコト

(a) 英帝國全體ノ利益及英本國政府ノ責任ヲ確保スヘキコト

(b) 諸民族間ノ正義ノ權衡ヲ計ルコト

(c) 各植民地ニ利害共通ナル鐵道電信稅關等ノ協力ヲ計ルコト

(二) 總督ノ諮問機關トシ三植民地ノ官民ヨリ成ル左記審議機關ヲ作ルコト

(a) 諮問審議會

一般問題ヲ審議ス

(b) 合同鐵道諮問審議會

現在「ケンヤ」「ユガンダ」間ニ在ル鐵道審議會ヲ擴張シ「タンガニカ」ニモ之ヲ及スモノトス

(c) 合同關稅委員會

(三) 各植民地ノ現在ノ政治組織ハ過渡期間中成ルヘク之ニ變更ヲ加ヘサルコトトシ各植民地ノ知事(Governor)ノ稱號ノ如キモ其ノ儘之ヲ存置スヘシ

ロ、倫敦ニ於ケル改革施設

(一) 東部「アフリカ」及中部「アフリカ」ニ於ケル政策ヲ協議スル爲五名乃至八名ノ委員ヨリ成ル諮問委員會ヲ設置スルコト

(二) 財政委員會及交通委員會又ハ財政交通委員會ヲ設置スルコト右機關ニハ國務大臣ニ

對スル財政顧問及交通顧問ハ委員トシテ加ハルコト此等委員會ノ議長ハ一般政策ヲ審議スル(一)ノ諮問委員會ニ加ハルコト

(二) 倫敦ニ於テ定期ニ東部及中部「アフリカ」植民地會議ヲ開催スルコト

乙、北部「ローデシア」及「ニアサランド」

此ノ地域カ「ケンヤ」「ユガンダ」及「タンガニカ」ノ三地域トハ交通其ノ他ノ關係上別個ノ團體トシテ考慮セラルヘキモノナリトスル點ニ於テハ委員會全體ノ意見一致シ居レルモ之ニ加ヘントスル政治組織ノ改正案ニ付テハ委員長ト他ノ委員トノ間ニ差異アリ

委員長ノ意見要旨左ノ如シ

(一) 北部「ローデシア」及「ニアサランド」ハ南部「ローデシア」ト密接ナル關係アルヲ以テ南部「ローデシア」及該二植民地ニ「ハイ、コムミッショナー」ヲ任命シ此ノ二地域ニ關シ東「アフリカ」ニ於ケル「ハイ、コムミッショナー」ト同様ノ權限ヲ與ヘ英帝國ノ立場ヨリスル觀察、土人ニ對スル政策、利害關係共通ナル交通關稅等ノ諸問題ニ付適當ナル監督ヲ加ヘ其ノ協力ヲ計ラシムヘシ

(二) 現在ノ行政區域ハ不自然ナルモノアルヲ以テ之ニ改正ヲ加ヘ北部「ローデシア」ノ

北部「ローデシア」
ニアサランド

委員長ノ
見解

中部即チ鐵道ノ發達シ居レル地方ハ南部「ローデシア」ニ合併シ又東北部「ローデシア」ハ之ヲ「ニアサランド」ニ合併スヘシ

又土人ノ爲ニ保留セラルヘキ土地トシテ Barotseland ハ南部「ローデシア」知事ノ下ニ之ヲ保留スヘシ

其ノ他ノ委員ノ意見要旨左ノ如シ

(一) 交通設備及北部「ローデシア」ノ鑛山開發カ一層ヨク發達スルニ至ル迄北部「ローデシア」及「ニアサランド」ハ各々獨立セル政府トシテ其儘之ヲ存置スヘシ交通及鑛山開發ノ如何ハ右二地域ノ國境決定上重大ナル關係ヲ有スル事項ナリ

(二) 當面ノ措置トシテハ東部「アフリカ」ノ爲設置セラルル「ハイ、コムミッショナー」又ハ總督ヲ以テ「ニアサランド」又ハ北部「ローデシア」ノ重要問題ニ關スル英本國大臣ノ主タル顧問トスヘシ

(三) 東部「アフリカ」ノ總督ハ時々「ニアサランド」及北部「ローデシア」ヲ訪問シ其ノ意見ヲ披瀝シ得ヘキモ該二地域ノ知事ニ對シ行政上ノ監督權ヲ有セサルモノトスヘシ
(四) 該二植民地ノ知事ハ東部及中部「アフリカ」ノ植民地會議ニ從來ト同様參加スヘク

委員ノ見
解

又南部「ローデシア」ノ知事亦之ニ参加スヘシ

(五) 土人ニ對スル政策ハ東部「アフリカ」總督ト協議シ東部「アフリカ」ト同様ノ方針ニ依ルヘシ

(六) 「ニアサランド」及北部「ローデシア」ハ科學的研究ニ就テハ東部「アフリカ」ト共同シテ之ヲ行フヘシ

(七) 二地域立法議會ニ於テ官吏タル議員數ヲ過半數トスルコトハ依然之ヲ維持スルコト適當ナリト認ムルモ非官吏議員ヲ幾分増加スルヲ阻ケス

「ザンジバル」

丙、「ザンジバル」ハ島嶼ニシテ其ノ狀況其他ノ植民地ト異ルヲ以テ之ヲ別個ノモノトナスモ科學的研究移民問題其他ニ付東部「アフリカ」ト協力スルコト希望スヘキヲ以テ現行ノ協力ヲ維持スルハ勿論更ニ進ンテ其ノ促進ニ努ムヘク又引續キ東部「アフリカ」知事會議ニ参加スヘシ

第三款 「ウイルソン」報告書

前項「ヒルトン、ヤング」委員會報告書ノ勸告案ニ對シテハ各方面ニ反對アリ更ニ問題研究ノ必要ヲ認メ英國政府ハ植民地事務省事務次官「サー、サミュエル、ウイルソン」(Sir Samuel Wilson)

ヲ東「アフリカ」ニ派遣シ同地官憲及各方面ノ意見ヲ求メ一般的意見ノ一致ヲ得ヘキ基礎事項ヲ研究セシムルコトトセリ

「サー、サミュエル、ウイルソン」ハ四月九日倫敦ヲ發シ東「アフリカ」ニ於テ諸方面ノ人士ト會見シ審ニ研究ヲ遂ケタル後七月一日倫敦ニ歸着シ十月其ノ報告書ノ公表ヲ見タリ

報告書内容

該書中「ヤング」報告書ノ政治的提携案ニ對スル東「アフリカ」居留民ノ各種反對意見ヲ記述セルカ其ノ大要左ノ如シ(註)

(註) 印度人問題ニ關シテハ第三章第二節第六款第四項參照

第一項 東阿諸地方ノ政治的提携ヲ更ニ密接ニスル問題

本問題ニ關シテハ「タンガニカ」ノ一部ヲ除ク外東阿各團體ハ何レモ反對意見ヲ有シ居リ「ケンヤ」植民地及「タンガニカ」「ユガンダ」印度人團體ハ相互ニ各自ノ利益カ他地方ニ適合スル爲メ調整セラルヘキ政策ニヨリ阻害セラレコトヲ恐レ居リ又「ユガンダ」土人ハ總督又ハ「ハイ、コムミッシュナー」任命ノ場合直接植民地事務大臣ト交渉スルノ權利ヲ剝奪セラルヘキヲ以テ本計畫ニハ極力反對シ居レリ

第二項 經濟的協調ヲ更ニ密接ニスル問題

本問題ハ(一)ノ問題ト相關シ居ルヲ以テ經濟的活動ノ中央集權ニ對シテハ經濟團體ヲ除ク外危惧ノ念ヲ懷キ居リ「ケンヤ」歐人團體ヨリハ各種ノ保障條件ヲ提出シ居レリ

第三項 前記諸問題解決手段トシテノ行政的組織ニ關スル問題

(一)、土人政策ニ關シ「ヤング」委員會ニヨリ提唱セラレタル「ハイ、コムミッショナー」ノ一般的監督權ニ關スル勸奨ハ主義トシテ贊成ナルモ三地方ノ相異ナル事情ヲ考慮スルコト必要ナリ
(二)、關稅、鐵道、港灣、郵便、電信、國防、各種基本的調査等主トシテ經濟的ナル共同活動ニ關スル連絡ヲ密接ニスル問題ニ關シテハ經濟的見地ヨリ其利益ヲ承認シ得ルモ各地方代表者ヨリナル委員會ヲ除外スルカ如キ行政權ノ中央統一ニハ各地方共疑問ノ餘地アリトセリ
(三)、「ケンヤ」行政委員會ニ於ケル官吏ノ「マジョリテイ」廢止問題ニ關シ「ケンヤ」歐人團體ハ一般ニ「ヨリ密接ナル提携」ノ不可避條件ナルヘキヲ認メ居レリ

第四項 「ハイ、コムミッショナー」任命問題

「ハイ、コムミッショナー」ハ關稅、鐵道、郵便、電信、國防、各種基本的調査等共同的活動ニ關シテハ立法上及行政上ノ全權ヲ有スルモ立法的權能ノ行使ニ際シテハ中央委員會ノ諮問ヲ必要トスヘク中央委員會ノ權限ハ前記諸問題ニ限リ其他ノ問題ハ地方的立法ニ任スヘシ

第四節 「イ ラ ク」

第一款 英國「イラク」間交渉中絶

「イラク」國ハ英國ノ宗主權ヲ離レテ完全ニ獨立セントシ從來屢々問題ヲ生シ來リシカ兩國間ノ諸交渉纏ラサリシ爲一月二十二日「イラク」首相「アブドル、ムシン、エス、ザードム」(Sir Abdul Mubsin es Saadum)ハ辭表ヲ提出セリ本問題ニツキ新聞紙ノ報道ニ依レハ英國側ニ於テ「イラク」國ハ未タ國防ニ付完全ナル獨立ノ能力ナシトテ軍事上或程度ノ後見ヲ繼續スルコトヲ必要ト認メタルニ對シ「イラク」國側ニ於テ飽ク迄反對セシ爲交渉行詰リタルモノナリ (註)

(註) 英國ト「イラク」トノ關係ハ一九一七年三月十一日「バクダッド」占領ニ始マル一九一八年對土休戰條約締結後十一月七日當時ニ於ケル「イラク」領有國タル英國ハ佛國ト共ニ「アラビア」諸領ニ關スル共同聲明書ヲ發シ永ク土耳其ノ壓政下ニアリタル人民ノ最終的開放並住民ノ自由意思ニ基ク政治ノ樹立ノ完成ヲ其目的トスル旨ヲ明ニセリ其後英國ハ上述政策ノ履行ニ遲々タル觀アリ一九二〇年「イラク」民ノ蜂起ハ失敗ニ了レルカ翌二一年八月二十三日「フエサル」(Bagdad)王位ニ即キ一九二二年十月十日英國「イラク」間ニ協定成リ次テ一九二七年十二月新條約ノ提案アリシカ財政及軍事事項ニツキ問題紛糾シ在舊本年ニ及ヘリ

第二款 英國「ハイ、コムミッショナー」ノ更迭

英國代表者ノ更迭 「イラク」駐劄英國「ハイ、コムミッショナー」サー、ヘンリー、ドブズ」(Sir Henry Dubs)ノ任期

滿了ニ伴ヒ「サー、ギルバート、クレイトン」(Sir Gilbert Clayton) 其職ヲ襲ヒタルカ僅ニ在官七ケ月ヲ經テ九月十一日「バグダッド」ニ客死セル爲前「アフガニスタン」駐劄公使タリシ「サー、フランシス、ハムブレイ」(Sir Francis Humphreys) 後任トナレリ

「イラク」カ隣接國ト親善關係ヲ保チタルハ「ドップス」「クレイトン」兩「ハイ、コムミッシュナー」ノ努力ニ負フ所多ク其結果トシテ「イラク」ハ一九二六年及直後土耳其、「トランスジョーダニア」、「ネジド」諸隣邦ト國境問題ヲ又近ク「ネジド」及波斯兩國トノ係争事件ヲ平和裡ニ解決セリ

第三款 米國ノ「イラク」承認條約案

五月二十八日華府發ノ新聞報ニ據レハ約一年半前ヨリ倫敦ニ於テ交渉中ナリシ米國對「イラク」國條約締結商議ハ其後米國「イラク」及其受任統治國タル英ノ三國間ニ成案熟シ同條約案ノ内容ハ(一)米國ノ「イラク」國承認及(二)「イラク」ニ在ル米國利益ニ對シ委任統治條項ニ依リ聯盟加入國ニ附與セラルルト同様ノ保護ヲ與フルコトヲ規定セルモノナリト傳ヘラル

尙本條約成立ノ場合兩國間ニ公使ヲ交換スヘキヤハ英國「イラク」間ノ機微ナル關係ニ顧ミ未タ決定シ居ラサルカ如シ

第四款 國際聯盟加入問題

第一項 英國ノ支持通告

聯盟加入
ノ支持

英國政府ハ九月末故「サー、ギルバート、クレイトン」ノ意見ヲ容レ一九三二年無條件ニテ「イラク」國ノ國際聯盟加入ニ援助ヲ與フルニ決定シ之ヲ「イラク」國政府ニ通告セルカ其ノ結果「イラク」國ニ於ケル排英感情ハ大ニ緩和セラレタリ即九月二十日「タイムズ」紙ニ掲載セラレタル「バグダッド」通信ニ依レハ同地情報部ニ於テ左ノ如ク公表セラレタル趣ナリ

「昨冬財政協定及軍事協定ノ改正ニ關スル英「イラク」間ノ商議中止以來「イラク」國政府ハ國家ノ希望ヲ達成スヘキ他ノ方法—即チ「イラク」國ノ聯盟加入ニ依ル現行條約ノ適用廢止—ニ注意ヲ向クルヲ適當ト思考セリ

斯クテ「イラク」國政府ハ故「サー、ギルバート、クレイトン」ト同問題ニ關シ討議シタルカ「クレイトン」ハ「イラク」國ノ見解ヲ支持シ直ニ右ヲ英國政府ニ傳達スヘキ旨述ヘタリ勞働黨内閣組織セラル、ヤ「サー、ギルバート、クレイトン」ハ「イラク」國提議ニ付速ニ決定ヲ爲スノ必要ヲ英國政府ニ説キ今回英國政府ヨリ左ノ回答ヲ受領セリ

第一ニ英國ハ「イラク」國ノ一九三二年ニ於ケル聯盟加入ニ支持ヲ與フルノ用意ヲ有ス第二ニ英

國ハ次ノ聯盟理事會ニ對シ一九二七年ノ條約ヲ以テ進マサルノ決意ヲ通知スヘシ第三ニ英國ハ一月ノ次ノ聯盟理事會ニ於テ一九二六年ノ英「イラク」條約第三條ニ基キ一九三二年ニ於ケル「イラク」國ノ聯盟加入ニ付勸告スヘシ

即英國ハ右回答ニ於テ「イラク」ノ聯盟加入ニ關シ條件ヲ撤廢セルヲ明ニセリ「イラク」國ノ聯盟加入後英「イラク」關係ヲ律スヘキ條約ヲ一九三二年前ニ締結スヘキコト必要ナルニ依リ右目的ノ爲ニ條約案ヲ作成スルノ措置ヲ執ルヘシ

次テ十一月英國政府ハ國際聯盟事務局ニ對シ左ノ通告ヲ爲セリ

國際聯盟
事務局ニ
對スル英
國政府ノ
通告

「英國政府ハ諸般ノ情勢考慮ノ結果一九二七年十二月十四日倫敦ニ於テ署名セラレタル同國及「イラク」國間ノ條約ヲ實施セサルニ決スルト共ニ他方一九二六年一月十三日ノ兩國間條約第三條第一項ノ規定ニ基キ一九三二年ニ「イラク」國ノ國際聯盟加入ヲ提議スルノ意向ヲ有ス

第二項 英國ノ對「イラク」政策ニ關スル植民地事務大臣覺書

英國植民地事務大臣ハ十二月覺書ヲ公表シ「イラク」國ニ對スル英國ノ政策並其經緯ヲ舒ヘタルカ其大要左ノ如シ

「英國從來ノ對「イラク」政策ノ根本ハ常ニ「イラク」ヲシテ速ニ獨立ノ實ヲ舉ケシメントス

ルニアリシカ一九二七年ノ英「イラク」條約第八條ニ於テ英國カ一九三二年ニ「イラク」ノ聯盟加入ヲ支持スルノ條件トシテ「イラク」ニ於テ現在ノ進歩ノ速度維持セラレ其間何等故障ヲ生セサルニ於テハ「ナル字句ヲ付セルハ英國ニ「イラク」ヲ獨立セシメントスル眞意ナク之ニ植民スルヲ以テ目的トスルモノナリト解シ著シク「イラク」側ノ猜疑ヲ招キ延テ兩國ノ關係融和ヲ缺クニ至リタルヲ以テ英國政府ニ於テハ右條件ノ撤廢ヲ考究スル所アリ其結果最近數年間ノ非常ナル進歩ニ鑑ミ「イラク」國ハアラユル點ニ於テ一九三二年聯盟ニ加入スルニ適セリト認め在「バクダッド」英國「ハイ、コム、ミッショナー」ヲシテ英國ハ一九三二年ニ於テ「イラク」國ノ聯盟加入方ヲ無條件ニテ支持スルノ用意アル旨ヲ「イラク」政府ニ通告セシメタリ右通告ノ結果「イラク」國ニ於テハ從來ノ不安猜疑一掃セラレ強固ナル聯立内閣ノ組織ヲ見英國政府ト協力シテ一九三二年以前ニ兩國ノ懸案解決ニカメントスルニ至レリ從ツテ「イラク」國カ聯盟ノ一員タル以前ニ兩國間ノ關係ヲ律スヘキ新條約ヲ必要トスヘク之ニ就テハ最近ノ英埃條約案ヲ基礎トセル新條約案ノ準備ニ必要ナル措置ヲ講スヘク一方英國政府ハ聯盟事務總長ニ對シ同國政府ハ一九二六年一月十三日ノ英「イラク」條約第三條ノ規定ニ從ヒ一九三二年ニ於テ「イラク」ノ國際聯盟加入ヲ推薦スルニ決セル旨各理事國ニ通知方ヲ要求セリ

第五款 新内閣ノ成立

新内閣ノ
成立

九月英國政府カ國際聯盟加入支持ノ決定ヲ爲スヤ「イラク」ニ於ケル對英態度大ニ緩和シ同十九日左ノ新内閣成立セリ

- 内閣總理大臣兼外務大臣 「アブドル、ムシン、ザードム」(Sir Abdul Muhsin es Saadum)
- 内務大臣 「ナジ、ベイ、スワイテイ」(Nazi Bey Suwaidi)
- 司法大臣 「ナジ、シャワワット、パシヤ」(Nazi Shawawat Pasha)
- 大藏大臣 「ヤフシン、パシヤ、ハシミ」(Yashin Pasha Hashimi)
- 國防大臣 「ヌリ、サイド、パシヤ」(Nuri Said Pasha)
- 文部大臣 「アブドル、ハッサイン、チラビ」(Hajji Abdul Hussain el Chelaby)
- 交通及工部大臣 「アミル、ベイ」(Jamil Bey)
- 灌漑及農務大臣 「アブドル、アジズ、カサブ」(Abdul Aziz Qassab)

新閣員中國民運動ノ有名ナル支持者カ藏相トシテ就任セルハ英國政府ノ上述決定ニ依リ「イラク」各政派間ノ軋轢融和セラレ漸ク協調ノ精神カ之ニ代ラントスル證左トスヘシ

首相ノ自
殺

然ルニ「ムシン、ザードム」首相ハ十一月十三日「イラク」國民ハ同首相ノ努力ヲ期待スルモ英

國ハ其要求ニ應セス國民ハ彼ヲ支持スルコトナク弱小ニシテ獨立ノ實ヲ舉クルコト不能ナルニ拘ラス國家ニ對スル同首相ノ犠牲ヲ無視シテ之ヲ國賊ト呼フハ心外ノ至リナル旨ノ一書ヲ殘シテ自殺ヲ遂ケ大ニ同國輿論特ニ極端派ノ策動ヲ刺戟シタルカ右自殺ハ英國カ「イラク」ニ對シ自由寛大ナル政策ヲ執リ居レル今日單ナル政治上ノ事由ニ基クニアラスシテ金錢上ノ理由重大ナル動機ヲナセリト觀測スルモノ少カラス尙後繼内閣ハ内相「ナジ、ベイ、エス、スワイテイ」ヲ首相トシテ新入閣者一人ノ他全部舊閣員ヲ以テ組織セラレタリ

第五節 「パレスタイン」

第一款 住民ノ抗爭

第一項 猶太人ノ歸住

猶太人ノ
増加

一九二二年「パレスタイン」カ土耳其古ノ羈絆ヲ離レ英國ノ委任統治地域トナリテ以來猶太人ハ其故地トシテ歸住運動ヲ行ヒ世界各地ニ散在スル富裕ナル同胞ノ物的援助ト相俟チ歸住者數漸増シ其ノ勢力ヲ増加セルカ先住民ハ多年回教徒ノ勢力下ニ在リシ關係上大多數ハ同教徒ニ屬シ(註一)從テ兩者ノ關係ハ自主運動ノ對立ニ加ヘ(註二)人種的及宗教的相違ニ伴ヒ常ニ緊張裡ニ終始セリ

(註一) 一九一七年十二月九日「アレンゼー」將軍ノ率ユル英軍カ「ジエルサレム」入城ノ當時「パレスタイン」ノ人口

ハ猶太人六萬「アラビア」人七十萬（内回教徒六十二萬五千）ナリシカ一九二九年六月三十日現在人口推定數左ノ如シ

回教徒	五七二、四四三
猶太人	一五四、三三〇
基督教徒	八〇、二二五
其他	九、〇六六
計	八一六、〇六四

（遊牧民約十萬三千人ヲ除ク）

（註二） 住民ハ回教徒タルト否トナ問ハス英國トノ一九一五年協定、「アレンビー」軍ニ對スル協力、一九一八年十一月七日「アラビア」諸領ニ與ヘタル英佛兩國ノ共同聲明、國際聯盟條項等ニ留意シ各人ハ何レモ其民族自決ノ主義ヲ囑望セルニ對シ近年猶太人ノ民族運動（Zionism）ノ擡頭ニ伴ヒ愈々兩者間ノ關係ヲ機微ナラシメタリ

第二項 「ウエイリング、ウォール」事件

「ウエイリング、ウォール」事件
 八月二十三日「ジェルサレム」ノ「ウエイリング、ウォール」（“Wailing Wall,” Jerusalem）問題
 ノ葛藤ハ擾亂ニ化シ延テ「バレスタイン」全土ニ互リ回教徒ト猶太人トノ衝突ヲ惹起シタリ抑モ「ウエイリング、ウォール」ハ高サ六十呎長サ五十碼許ノ壁ナルモ猶太人ハ「ソロモン」ノ寺ノ遺物ト信シ之ヲ聖域トシテ此所ニ宗教上ノ儀式ヲ行フヲ常トセリ然ルニ同壁ハ猶太人ニトリ神聖ノ遺

物タルト同時ニ回教徒ノ重要ナル寺院ノ外壁ヲナシ同壁外側ノ鋪道ト共ニ法律上回教徒團體ノ所有ニ屬セリ而シテ土耳其治下ノ時代ニ於テハ回教徒ハ同壁ノ外側ニ於テ猶太人カ靜肅ニ宗教上ノ儀式ヲ行フコトヲ許シ何等ノ問題ヲモ起ササリキ蓋シ同壁ノ外側及外部ノ鋪道ハ回教徒ノ使用セサル部分ニシテ猶太人ノ使用カ何等ノ不便ヲモ來ササリシニヨル

然ルニ猶太人ノ勢力増加ニ伴ヒ回教徒ノ猶太人ニ對スル反感嵩シ來レル際偶々一九二八年贖罪祭ヲ行フニ當リ猶太人ハ其慣習ニ從ヒ男女ヲ分ツ仕切ヲ同壁ノ外部ニ設置セリ此事實ハ回教徒ニトリ實際上ノ不便ヲ與フルモノニアラサリシモ回教徒ハ猶太人ニ對スル反感ヨリ其所有壁ノ現狀ヲ許可ナクシテ變更スルノ行爲ナリトシ地方官憲ニ訴ヘ官憲ハ前記仕切ヲ撤去セシモ其撤去ノ時カ猶太人ノ最要ナル儀式ノ最中ナリシ爲猶太人ノ激昂ヲ買ヒ兩者間ニ衝突アリ爰ニ於テ猶太民族主義運動者ハ本問題ヲ政治運動ノ目的ニ利用セル爲メ猶太人回教徒間ノ争鬪ノ焦點トナレリ

爾來回教徒ハ猶太人ノ運動ヲ蔑視シ同壁ノ高サヲ増シ又同壁ヲ通スル門戸ヲ設ケ内部ヨリ直ニ猶太人ノ禮拜場所ニ至ルノ路ヲ閉クノ計畫ヲ立テタル爲メ猶太人ノ反感ヲ挑發シ猶太人ハ其ノ示威運動ヲ回教徒聖主降誕祭ノ前夜ニ行フノ計畫ヲ立テ官憲ノ許可ヲ得タルカ回教徒側ニ於テモ之ニ對抗スル爲同時日同場所ニ於テ示威ヲ行フノ計畫ヲ立テ之亦官憲ノ許可ヲ得タリ而シテ右示威運

動衝突ノ結果八月二十三日兩派ノ爭鬪激化スルニ至リ騷亂ハ忽チ全土ニ波及シ流血ノ續生スルニ及ヒ英國政府ハ之カ鎮壓ノ爲軍隊及軍艦ヲ急派シテ叛亂者ノ逮捕ニ努力シ九月漸ク全土ニ亘リ鎮靜セリ

第二款 調査委員會ノ派遣

調査委員會ノ成立

擾亂ノ鎮靜ニ伴ヒ「パレストアイン」政府ハ銳意事件ノ審理ニ努力シ英國政府亦九月調査委員會 (the Commission on the Palestine Disturbances of August, 1929.) ヲ任命セリ

該委員會ハ這次事件ノ原因ヲ調査スル目的ノ下ニ下記委員ヨリ成リ一行ハ十月「ジエルサレム」ニ於テ審問ヲ開始シ爾來猶太人、回教徒兩者ノ對抗運動裡ニ其任務ヲ續行シ居レリ

委員長 「サー、ウォルター、ショウ」(Sir Walter Shaw) (前海峡植民地最高判事)

委員 「サー、ヘンリー、ベタートン」(Sir Henry D. Betterton) (下院議員、保守黨)

同 「ホブキンス、モリス」(R. Hopkins Morris) (下院議員、自由黨)

同 「ヘンリー、スネル」(Henry Snell)

(下院議員、労働黨)

第六節 「サモア」

第一款 「ニュー、ジーランド」首相ノ聲明

「ニュー、ジーランド」政府ノ管掌セル英國委任統治地「サモア」ハ年度ヲ通シ土人ノ受動的反抗運動繼續シ地方當局及「ニュー、ジーランド」政府ヲ苦慮セシメタルカ「ニュー、ジーランド」議會ニ於テ五月六日「ワード」首相ノ聲明セル其統治政策左ノ如シ

統治政策

「政府ハ「サモア」内ニ於ケル紛爭事項ヲ解決スル爲メ妥協的態度ヲ持シ居レルモ違法行爲ハ之ヲ假借スル能ハサルヲ以テ政府ハ次ノ措置ヲ採ルニ決セリ

一、會長ニ付年一人二磅其他ノ「サモア」人成年者ニ付年一人三十六志ノ土人税ヲ免除ス

二、醫療ニ對シテハ土人税ヲ之ニ充當セルヲ以テ今後醫療ニ對シ小額ノ手数料ヲ徵ス

三、「コブラ」ニ對スル現行輸出税一噸一磅ヲ三十志ニ増額ス

滞納土人税ハ關係當局ニ對スル負債トシテ殘存セシメ土民ノ自主運動カ法ニ違背セサルニ至ル迄上述ノ政策ヲ變更スルコトナシ

第二款 「ニュー、ジラランド」議會ノ討議

九月六日議會ニ於ケル委任統治地報告ノ討議ニ際シ「サモア」人ノ「サモア」問題言及セラレタルカ首相ハ五月六日ノ聲明ヲ固執スルト共ニ

首相ノ演説

「サモア」立法審議會 (the Samoan Legislative Council) (註)ノ組織方法ヲ改正シテ選出歐人議員數ヲ三名ヨリ二名トシ「ニト、ジラランド」總督指名ノ「サモア」人二名ヲ加フヘク又過去十二ヶ月間追放令ノ事例ナク法廷審理ニヨラサル處刑ナシ政府ハ「サモア」自立ヲ目的トシ經費ヲ減縮シツツアリ」

ト述ヘ在野黨首ハ之ニ贊意ヲ表シ政策ヲ支持セリ

(註) 立法審議會ハ四名乃至六名ノ官吏議員ト官吏議員數ヲ超過セサル非官吏議員(其三名ハ選出議員)ヨリ成リ最高民政

官吏之ヲ司會ス議員ノ資格要件ハ英國人又ハ歐人ノ後裔トシ土人事務ニ關シ最高民政官吏ノ諮議ヲ受ケル機關トシ

テハ別ニ土人審議會アリ

終